

教育課程等の概要																	
医学群 医学類																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	共通科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○		1	2	1	2		全学開設		
		総合科目（学問への誘い）	1前	1				○		1	2	1	2		全学開設		
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1				○						兼26	全学開設	
		体育	1・2前・後	2					○						兼57	全学開設	
		外国語	1・2前・後	4											兼53	全学開設	
		情報	1前・後	4											兼78	※講義, 全学開設	
		国語 I	1前・後	1					○						兼10	全学開設	
		小計（7科目）	—	13	1	0			—	1	2	1	2	0	兼224		
		関連科目		医学のための心の科学	1前		1			○		2		1			兼1
				行動生理学の基礎	1前		1			○		1					
海外プロジェクト概論（ロシア語圏）	1・2・3・4・5・6後				1				○							兼1	
放射線と生命—人体への影響と医療への貢献—	1前				1				○	5	3		2				
神経回路研究の最前線	1前				1				○	4		2	3				
日常生活の中で見られる神経筋疾患	1前				1				○	2	1	1					
臨床感覚器学	1前				1				○	1							
形成外科学入門	1前				1				○	1		3			兼1		
医科生化学	1前				2				○	2	1	2					
医科分子生物学	1前				2				○	1	1						
基礎医学研究の最前線	1前		1				○	8	3				兼2				
小計（11科目）	—	0	13	0			—	27	9	9	5	0	兼5				
専門基礎科目	全主専攻共通	生物・化学実験	1前	1					○	1	1				兼7		
		Clinical Communication in English I	2前	1				○		1		2					
		Clinical Communication in English II	2後	1					○		3		6				
		TOEFL演習	2後	1					○	1							
		Medical Terminology I	2後	1					○		1						
		Medical Terminology II	2通	2					○		1						
		力学1	1前		1				○						兼1		
		電磁気学1	1前		1				○						兼1		
		生物学I	1前		1				○						兼1		
		生物学II	1後		1				○						兼3		
		化学2	1後		1				○						兼1		
		化学3	1後		1				○						兼1		
小計（12科目）	—	7	6	0			—	2	7	0	8	0	兼11				
専門科目	医学主専攻	医学統計学	1後	1				○		1	1						
		医療・福祉現場でのふれあい等	1前	2						15	20	39	3		集中		
		医療概論I	1前	2					○	31	16	18	14				
		医学の基礎	1通	11					○	17	16	20	20		兼4	集中	
		機能・構造と病態I	2通	27					○	62	44	114	36		兼11	※演習、及び実習・実験, 集中	
		医療概論II	2通	2					○	5	5	13	5			※演習、及び実習・実験, 集中	
		機能・構造と病態II	3通	37					○	75	63	132	49		兼17	※演習、及び実習・実験, 集中	
		医療概論III	3通	3					○	2	1	7	2			※演習、及び実習・実験, 集中	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	クリニカル・クラークシップ準備学習	4前	18			○			38	27	31	10		兼5	※演習、及び実習・実験、集中
	社会医学実習	4前	2					○	38	27	31	10		兼5	集中
	M4クリニカル・クラークシップ(Phase IA)	4通	11					○	38	27	31	10		兼5	集中
	医療概論IV	4前	2					○	34	19	32	22		兼43	集中
	M5クリニカル・クラークシップ(Phase IB、Phase IIA)	5通	22					○	3						集中
	M6クリニカル・クラークシップ(Phase IIB)	6通	4					○	3						集中
	M6アドヴァンスト・エレクティブズ	6通	11					○	4						集中
	医療概論V	6通	2					○	2	1	2				集中
	医学総括	6通	10			○			54	37	57	4		兼9	集中
	専門語学(英語)C	2・3・4・5・6後		1				○	1						集中
	専門語学(英語)E	2・3後		1				○				1			
	専門語学(英語)G	3・4・5・6通		3				○	1		1	1			
	専門語学(英語)M	2・3・4・5・6後		1				○		1					
	専門語学(英語)N	2・3・4前		1				○		1					集中
	専門語学(英語)O	3・4前		1				○				2			集中
	専門語学(英語)P	5後		1				○				1			集中
	専門語学(ロシア語)	3・4・5・6通		3				○						兼1	
	小計(25科目)	—	167	12	0	—	—	—	99	86	169	64	0	兼100	
新 医 学 主 専 攻	医学統計学	1後	1			○			1	1					
	医療・福祉現場でのふれあい等	1前	2					○	15	20	39	3			集中
	医療概論I	1前	2					○	31	16	18	14			
	医学の基礎	1通	11					○	17	16	20	20		兼4	集中
	機能・構造と病態I	2通	27			○			62	44	114	36		兼11	※演習、及び実習・実験、集中
	医療概論II	2通	2			○			5	5	13	5			※演習、及び実習・実験、集中
	機能・構造と病態II	3通	37			○			75	63	132	49		兼17	※演習、及び実習・実験、集中
	医療概論III	3通	3			○			2	1	7	2			※演習、及び実習・実験、集中
	クリニカル・クラークシップ準備学習	4前	18			○			38	27	31	10		兼5	※演習、及び実習・実験、集中
	社会医学実習	4前	2					○	38	27	31	10		兼5	集中
	M4クリニカル・クラークシップ(Phase IA)	4通	11					○	38	27	31	10		兼5	集中
	医療概論IV	4前	2					○	34	19	32	22		兼43	集中
	M5クリニカル・クラークシップ(Phase IB、Phase IIA)	5通	22					○	3						集中
	医療概論V	6通	2					○	2	1	2				集中
	医学総括	6通	10			○			54	37	57	4		兼9	集中
	研究室実習	6前	15					○	1						集中
	専門語学(英語)C	2・3・4・5・6後		1				○	1						集中
	専門語学(英語)E	2・3後		1				○				1			
	専門語学(英語)G	3・4・5・6通		3				○	1		1	1			
	専門語学(英語)M	2・3・4・5・6後		1				○		1					
	専門語学(英語)N	2・3・4前		1				○		1					集中
	専門語学(英語)O	3・4前		1				○				2			集中
	専門語学(英語)P	5後		1				○				1			集中
	専門語学(ロシア語)	3・4・5・6通		3				○						兼1	
	小計(24科目)	—	167	12	0	—	—	—	99	86	169	64	0	兼100	
合計(79科目)		—	354	44	0	—	—	—	99	86	169	64	0	兼340	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（医学）		学位又は学科の分野			医学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
次の履修方法により合計200単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分		2期						
【医学主専攻】						1 学期の授業期間		15週						
1. 基礎科目						1 時限の授業時間		75分						
(1) 共通科目 必修13単位、選択1～5単位（総合科目（学士基盤科目）、外国語から選択）														
(2) 関連科目 選択7単位（学類長が指定した学類開設科目、または他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修7単位、選択5単位														
3. 専門科目 必修167単位、選択0～2単位														
【新医学主専攻】														
1. 基礎科目														
(1) 共通科目 必修13単位、選択1～5単位（総合科目（学士基盤科目）、外国語から選択）														
(2) 関連科目 選択7単位（学類長が指定した学類開設科目、または他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修7単位、選択5単位														
3. 専門科目 必修167単位、選択0～2単位														

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
医学群 看護学類															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	共通科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○		1	1		2		全学開設
		総合科目（学問への誘い）	1前	1			○			1	1		2		全学開設
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1		○								兼26 全学開設
		体育	1・2前・後	2					○						兼57 全学開設
		外国語	1・2前・後	4					○						兼53 全学開設
		情報	1前・後	4					○						兼78 ※講義, 全学開設
		国語 I	1前・後	1			○								兼10 全学開設
	小計（7科目）	—	13	1	0			—	1	1	0	2	0	兼224	
	関連科目	哲学通論	2前・後	2			○								兼1 全学開設
		化学概論	1前		1		○								兼10
物理学概論		1前		1		○								兼2	
生物学序説		1前		1		○								兼12	
小計（4科目）	—	2	3	0			—	0	0	0	0	0	兼25		
看護学専攻（保健師コースを含む）	専門基礎科目	心と行動の科学分野	人間関係論	2前	1			○		1	1		1		集中
		心の健康と相談活動	2前	1			○		1	1					
		行動科学	2後	1			○		1						
		看護専門英語	3前	2				○					2		
		コミュニティ・エンパワメント論	2前	1			○		1						
	人間と生命科学分野	人体機能学	1前	2			○								兼6
		人体構造学	1前	2			○			1					兼1
		人体の代謝と栄養	2後	1			○								兼1
		臨床薬理学	2後	1			○								兼1
		遺伝と健康	2後	1			○								兼1
		微生物学	2前	2			○								兼5
		医学史	1後	1			○								兼5
		医療・生命科学とテクノロジー	1前	1			○								兼10
	生涯発達と家族支援	1前	2			○			3	3		2			
	生活支援科学分野	保健統計学	2後	2			○			1					
		保健医療福祉行政論I	3前	1			○						1		兼8
		保健医療福祉行政論II	3休	1			○								兼1 集中
		疫学	2前	2			○			1			1		
		障害理解	2後	1			○			1	1				
		国際保健学	3前	1			○			1					
		日本国憲法	1後	2			○								兼1
		医療経済学	3前		1		○								兼2
		環境保健	3前		1		○								兼1
小計（23科目）	—	29	2												
専門科目	基礎看護学分野	基礎看護学概論	1前	1			○		1						
		基本看護技術	2前	1			○		1	1		2			
		基本看護技術演習	2前	3				○		1	1		2		
		フィジカルアセスメント	2後	2			○		1	1		2			
		看護方法論	2後	1			○		1	1		2			
		看護生命倫理	1後	1			○		3						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	看護技術実習	2休	1					○	1	1		2		集中
	看護過程実習	2休	2					○	1	1		2		集中
地域看護学	公衆衛生看護学概論	1後	2			○			1	1		2		
	職域における保健活動	2後	1			○			1	1		2		
臨床看護学分野	臨床看護学概論	2前	1			○			1			1		
	疾病の成りたちと回復促進	2後	2			○				1		3		
	臨床看護方法論	3前	2			○				1		3		
	臨床看護学実習(クリティカルケア)	3後	2					○		1		3		集中
	臨床看護学実習(セルフケア)	3後	2					○	1	1		3		集中
精神看護学分野	精神看護学概論	1後	1			○			1					
	精神看護方法論	2前	2			○			1			1		
	精神看護学実習	3後	2					○	1			1		集中
高齢者看護学分野	高齢者看護学概論	1後	1			○				1				
	高齢者看護方法論	3前	2			○						1		
	高齢者看護学実習	3後	2					○		1		1		集中
母性看護学分野	ウイメンズヘルス看護学概論	2前	1			○			1	1				
	母性看護方法論	3前	2			○			1	1		1		
	母性看護学実習	3後	2					○	1	1		1		集中
発達看護学分野	小児・発達看護学概論	2前	1			○			1	1		1		
	小児・発達看護方法論	3前	1			○			1	1		1		
	子どもの健康と障害	2前	1			○				1		1		集中
	小児・発達看護学実習(保育所・施設ふれあい実習)	3休	1					○	1	1		1		集中
在宅看護学分野	小児・発達看護学実習(病院実習)	3後	1					○		1		1		集中
	在宅看護概論	3前	1			○			1			1		
	在宅看護方法論	3前	1			○			1			1		
	在宅看護実習	3後	2					○	1			1		集中
看護学の発展	ヘルスプロモーションと看護	3前	1			○			4	1		3		
	家族病理とメンタルヘルス	3前	1			○			1	1				兼1
	看護マネジメント	3前	1			○			1					集中
	災害看護学	3前	1			○			1	1		3		
	国際看護学	2前	1			○			1					集中
	応用看護学演習I(OSCE)	3前	1					○	10	7		15		集中
	応用看護学演習II(IBT)	4後	1					○	10	7		15		集中
	研究方法概論	3後	2			○			1					
	看護学探究概説	4前		2		○			10	7		15		集中：看護学のみ必修
	看護学探究演習	4通		6				○	10	7		15		
	ヘルスプロモーション実習I	3後	2					○		1		1		集中
	ヘルスプロモーション実習II	3後	2					○	1	1		4		集中
	医療チーム連携演習	4後	1					○	1					兼5 集中
応用看護学実習	4前	2					○	10	7		15		集中	
保健師科	公衆衛生看護活動論	3前		2		○				1		2		集中
	公衆衛生看護活動方法論	4前		4		○			1	1		2		集中 保健師
	公衆衛生看護学応用論	4後		2		○			1	1		1		集中 のみ必修

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	公衆衛生看護管理論	4後		2		○				1		1			集中	
	公衆衛生看護学実習	4前		3				○	1	1		2			集中	
小計 (51科目)		—	64	21	0	—			10	7	0	15	0	兼39		
J a p a n · E x p e r t P r o g r a m ヘルスケアコース	基礎科目 共通科目 総合科目 (フレッシュマン・セミナー)	1前	1					○		1	1		2		全学開設	
	総合科目 (Japan-Expertフレッシュマン・セミナー)	1後	1					○					1		全学開設	
	総合科目 (学問への誘い)	1前	1			○			1	1		2			全学開設	
	総合科目 (学士基盤科目)	1・2前・後		1		○									兼26 全学開設	
	体育	1・2前・後	2					○							兼57 全学開設	
	Japan-Expert日本語 中上級話す	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級話す	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級聞く	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級聞く	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級読む	1後		3				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級読む	1後		3				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級書く	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級書く	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級文法	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級文法	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級漢字	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級漢字	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級総合日本語	1後		1				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級総合日本語	1後		1				○							兼1	
	Japan-Expert専門日本語 (ヘルスケアコース)	1後		1				○				1			兼1	
	第2外国語 (英語)	1・2前・後	4					○							兼53 全学開設	
	第2外国語 (初修外国語)	1・2前・後	1					○							兼87 全学開設	
	情報	1前・後	4					○							兼78 ※講義, 全学開設	
小計 (23科目)		—	13	31	0	—			1	1	0	5	0	兼300		
関連科目	哲学通論	2前・後		2				○							兼1 全学開設	
	化学概論	1前		1				○							兼10	
	物理学概論	1前		1				○							兼2	
	生物学序説	1前		1				○							兼12	
	小計 (4科目)		—		5	0	—			0	0	0	0	0	兼25	
専門基礎科目	JE対象科目 Japan-Expert総論	1前	1					○				1				
	障害科学分野	社会保障論I	2前		2				○							兼1
		社会福祉経営論	2前		2				○							兼1
		公的扶助論	1・2・3・4後		2				○							兼1 隔年, 集中
		日本の障害科学	1・2後		1				○							兼2 集中
		Current Topics in Disability Sciences	1・2・3・4後		1				○							兼2
	国際・情報理解分野	グローバルコミュニケーション論	1・2後		2				○							兼1
		文化・開発論	1・2・3後		2				○							兼1
		情報社会と法制度	1後		2				○							兼1
		知的財産概論	2後		2				○							兼1
		知識情報概論	1前		1				○							兼1
		知識情報概論	1後		1				○							兼1
		知識情報システム概説	1前		1				○							兼4
コンピュータシステムとネットワーク		2後		2				○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 看護学の発展 ヘルスケア原	国際ヘルスケア演習	4通	6					○		1				3		集中
	国際ヘルスケア概論	3・4後	1					○						1		集中
	ヘルスケア実習I(介護施設)	3・4休	4											1		集中
	ヘルスケア実習II(医療施設)	3・4休	4											1		集中
小計(18科目)		—	16	21	0	—			1	0	0	3	0	兼15		
合計(130科目)		—	137	84	0	—			10	7	0	15	0	兼389		

学位又は称号	学士(看護学)、 学士(ヘルスケア) (Japan-Expertプログラム 学生のみ)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(看護学関係)
--------	--	-----------	----------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等						
<p>次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。</p> <p>【看護学主専攻】</p> <p>1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修13単位、選択1単位(総合科目(学士基盤科目)から選択) (2) 関連科目 必修2単位(哲学通論)、選択6単位(学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択)</p> <p>2. 専門基礎科目 必修29単位、選択1単位</p> <p>3. 専門科目 必修72単位、選択0単位</p> <p>次の履修方法により合計129単位以上を修得すること。</p> <p>【保健師コース】</p> <p>1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修13単位、選択1単位(総合科目(学士基盤科目)から選択) (2) 関連科目 必修2単位、選択6単位(学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択)</p> <p>2. 専門基礎科目 必修29単位、選択1単位</p> <p>3. 専門科目 必修77単位、選択0単位</p> <p>次の履修方法により合計136単位以上を修得すること。</p> <p>【ヘルスケアコース】</p> <p>1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修13単位、選択必修15単位、選択1~4単位(総合科目(学士基盤科目)、外国語から選択) (2) 関連科目 選択7~10単位(学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択)</p> <p>2. 専門基礎科目 必修32単位、選択10単位(看護学主専攻必修科目及びヘルスケアコース科目)</p> <p>3. 専門科目 必修55単位(看護学主専攻必修科目から40単位、ヘルスケアコース必修科目15単位)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1 学年の学期区分</td> <td>2期</td> </tr> <tr> <td>1 学期の授業期間</td> <td>15週</td> </tr> <tr> <td>1 時限の授業時間</td> <td>75分</td> </tr> </table>	1 学年の学期区分	2期	1 学期の授業期間	15週	1 時限の授業時間	75分
	1 学年の学期区分	2期					
	1 学期の授業期間	15週					
1 時限の授業時間	75分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
医学群 医療科学類															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	共通科目	総合科目 (フレッシュマン・セミナー)	1前	1				○				1	1		全学開設
		総合科目 (学問への誘い)	1前	1				○				1	1		全学開設
		総合科目 (学士基盤科目)	1・2前・後	1				○							兼26 全学開設
		体育	1・2前・後	2						○					兼57 全学開設
		外国語	1・2前・後	4						○					兼53 全学開設
		情報	1前・後	4						○					兼78 ※講義, 全学開設
		小計 (6科目)	—	13	0	0			—		0	0	1	1	0
	関連科目	科学実験の基礎	2前	1				○			1		1		
		医療科学キャリアセミナー	2前	1				○				1			
		小計 (2科目)	—	2	0	0			—		1	1	1	0	0
医療科学専攻・国際医療科学専攻	専門基礎科目 人体の構造と機能分野	人体構造学	1前	2				○							兼2 *
		人体構造学実習	2前	1											兼2 *
		人体機能学	1前	2				○							兼6 *
		人体機能学実習	2前	1											兼1 集中
		医科生化学	1前	2				○		1	1				兼3 *
		生化学実習	2前	1						1	2				集中
		医科分子生物学	1後	2				○		1					*
		細胞システム学	2後		2			○			1				兼1
		イメージング総論	1-4夏季		1			○							兼2 集中
	疾病の成り立ち及び医学検査の基礎分野	基礎医学総論	2前	2				○		1					兼1 *
		微生物学	2前	2				○		1					兼4 *
		微生物学実習	2前	1						1	1				集中
		生命倫理学	4前		1			○		1			1		
		医学史	1後		1			○		3					兼2
		医療・生命科学とテクノロジー	1前		1			○		3	2	1			兼3
	保健医療福祉と医学検査分野	保健衛生論	2前	2				○							兼2 *
		医療法制	3前	1				○							兼10 *
		計量生物学	2後	1				○							兼3 *
	医療工学分野・情報科学分野	医用工学	2前	1				○				1			*
		医用工学実習	2前	1								2			集中
		電磁気学I	1前	1				○							兼1 ※演習, 集中*
		医療情報管理学	4後	1				○		1	1				兼8 *
	共通	医科学英語論文講読の基礎	3・4前	1			○		2	2		2			兼1
	保健医療福祉と生命科学分野	医療経済学	2前		1			○							兼2
		キャリアデザイン研修	2・3・4通		1						1				集中
		国際生命医科学研修	3・4通		1					1					※その他, 集中
		国際生命医科学研修II	3・4通		1					1					※その他, 集中
		国際生命医科学研修III	3・4通		1					1					※その他, 集中
		国際パートナーシップ研修	1・2・3・4休		2	○				1					※演習及び実習・実験・実技, 集中
		国際生命医科学	3・4通		1					1					※実習・実験, 集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際生命医科学II	3・4通		1				○	1						※実習・実験, 集中
	国際生命医科学III	3・4通		1				○	1						※実習・実験, 集中
	実践英語 (TOEFL対策)	2前		1			○								兼1
	小計 (33科目)		25	17											
専門科目	臨床病態学	2前	2					○	3						* 集中 *
	病態検査学	3通	3					○	3						* 集中 *
	臨床薬理学	3前	1					○		1		1			* 集中 *
	臨床薬理学実習	3後	1					○		1		1			兼3 * 集中 *
	病理組織学	2前	2					○	1			1			兼1 * 集中 *
	病理組織学実習	2後	2					○	1			2			* 集中 *
	細胞検査学	2前	2					○							兼2 * 集中 *
	血液検査学	2前	2					○	1						兼1 * 集中 *
	血液検査学実習	2通	1					○	1			1			* 集中 *
	生化学成分検査学	2前	3					○	1	1		1			兼2 * 集中 *
	生化学成分検査学実習	2後	2					○	1		1	1			兼1 * 集中 *
	凝固・線溶学	2通	1					○	1			1			* 集中 *
	凝固・線溶学実習	2後	1					○	1			1			* 集中 *
	遺伝子検査学	2後	1					○	1						* 集中 *
	遺伝子検査学実習	3前	1					○	1						* 集中 *
	RI検査技術学	2後	1					○	1						兼2 * 集中 *
	病原微生物学	2後	2					○	1	1					兼4 * 集中 *
	病原微生物学実習I	3後	1					○	1						兼5 * 集中 *
	病原微生物学実習II	3後	1					○	1						兼5 * 集中 *
	医学物理学概論	2前	1					○	1						* 集中 *
	免疫検査学	2後	2					○		1					兼3 * 集中 *
	免疫検査学実習	3前	1					○		1		2			兼2 * 集中 *
	輸血学	3前	1					○	1						兼1 * 集中 *
	輸血学実習	3前	1					○	1						兼1 * 集中 *
	ゲノム医科学	3前	1					○							兼5 * 集中 *
	衛生化学概論	3・4前		1				○	2						* 集中 *
	国際感染症学	3前		1				○							兼1 * 集中 *
	生理機能検査学	2前	4					○	1						兼2 * 集中 *
	生理機能検査学実習	2後	2					○	1		1				* 集中 *
	画像検査学	3前	3					○	1						兼1 * 集中 *
	先端脳科学	3・4前		1				○							兼5 * 集中 *
	神経科学特論	3・4後		1				○							兼1 * 演習 *
	検査機器学	2前	1					○		1					* 集中 *
	検査情報管理学	3前	1					○		1					* 集中 *
	医学検査学	2前	1					○		1					* 集中 *
	医療科学概論	1後	1					○		1					* 集中 *
	医学検査学実習	2前	1					○		1					* 集中 *
	医学検査学フロンティア	4後	2					○	7	1	1	1			兼2 * 集中 *
	多職種連携医療学概論	1・2・3・4休		1				○	1			2			* 集中 *

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際医療科学専攻 (G30 国際医療科学人養成プログラム)	管理学分野 医療安全管理学	3後	2			○	○		1	1					*	
	臨地実習	臨床実習	3春休-4前	8				○		2						集中 *
		卒業研究	4通	4				○		1						集中
		ケア・コロキウム	3後		1			○		1	1					集中
	分子病態学分野	細胞・発生工学	2前		1		○									兼1
		ためになる血液腫瘍学	3・4後		1		○									兼4
		血管生物学のトピックス	3・4後		1		○									兼1 集中
		ライフサイエンスのための病態生化学	4後		2		○									兼1
	病態医工学分野	医療工学	3・4後		1		○					1				
		人工臓器学	3・4前		1		○					2				兼3 集中
		胚操作・動物実験法	2前		1		○									兼2
	医科学 応用	健康医科学グループワーク	2後		1		○				1					**
	小計 (51科目)		—	67	15	0	—			10	8	4	6	0	兼86	
基礎科目	共通科目	総合科目Ⅰ (フレッシュマン・セミナー)	1前	2			○					1	1		全学開設	
		総合科目Ⅱ	1前	5			○								兼81 全学開設	
		総合科目Ⅲ	1・2前・後	1			○								兼85 全学開設	
		体育	1・2前・後	2				○							兼57 全学開設	
		Japanese 101	1後		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 201	1・2後		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 301	1・2後		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 401	1・2後		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 102	1前		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 202	1・2前		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 302	1・2前		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 402	1・2前		2			○							兼2 全学開設	
		情報	1前・後	2				○							兼78 ※講義, 全学開設	
小計 (13科目)		—	12	16	0	—			0	0	1	1	0	兼290		
関連科目	物理学	1前	1			○									兼1	
	物理学実験	1後	0.5					○							兼1	
	化学	1前	1			○					1					
	化学実験	1後	0.5					○			1					
	生物学	1前	1			○			1							
	生物学実験	1後	0.5					○		1						
	医科学グループワーク演習	1・2後		1.5				○			1					
小計 (7科目)		—	4.5	1.5	0	—			1	1	1	0	0	兼2		
専門基礎科目	人体の構造と機能分野	人体構造学	1前	2			○								兼2	
		人体構造学実習	1後	1					○						兼2	
		人体機能学	1前	2			○								兼6	
		人体機能学実習	1後	1					○						兼1 集中	
		生化学	1前	2			○			1	1				兼3	
		生化学実習	1後	1					○		1	2			集中	
		分子生物学	2前	2			○			1						
		細胞システム学	2後		2		○				1				兼1	
イメージング総論	1-4夏季		1			○								兼2 集中		
医科学 成り立ち の基礎	医療史	1前	1			○			3						兼2	
	微生物学	2前	2			○			1						兼4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
医学群 保健医療福祉と 情報科学分野 保健医療福祉と生命医科学分野 先端医学の基礎	微生物学実習	2前	1					○	1	1					集中
	保健衛生論	2前	2				○								兼2
	医療法制	3前	1				○								兼10
	計量生物学	2後	1				○								兼3
	医用工学	1後	1				○				1				集中
	医用工学実習	1後	1					○			2				集中
	電子工学	1後	1				○								兼1
	医療情報管理学	4後	1				○		1	1					兼8
	生命倫理学	4前		1			○		1			1			兼2
	医療経済学	2前		1			○								兼2
	医科学セミナー	3後		1			○			1					兼2
	キャリアデザイン研修	2・3・4通		1				○		1					集中
	実践英語(TOEFL対策)	2前		1			○								兼1
	国際生命医科学研修	3・4通		1					1						※その他, 集中
	国際生命医科学研修II	3・4通		1					1						※その他, 集中
	国際生命医科学研修III	3・4通		1					1						※その他, 集中
	国際パートナーシップ研修	1・2・3・4休		2	○										兼1 ※演習及び実習・実験・実技, 集中
	国際生命医科学	3・4通		1					1						※実習・実験, 集中
	国際生命医科学II	3・4通		1					1						※実習・実験, 集中
	国際生命医科学III	3・4通		1					1						※実習・実験, 集中
基礎医学の基礎	2前		2			○			1					兼1	
医科学英語論文講読の基礎	3・4前		1.5			○			2	2		2		兼1	
小計 (33科目)			—	23	19.5										
専門科目	生化学成分検査学	2前	3					○	1	1			1		兼1
	RI検査技術学	2後	2					○	1						兼2
	遺伝子検査学	3前		1			○		1						集中
	凝固・線溶学	3後		1			○		1			1			兼4
	ためになる血液腫瘍学	3・4後		1			○								兼4
	血管生物学のトピックス	3・4後		1			○								兼1 集中
	ライフサイエンスのための病態生化学	4後		2			○								兼1
	ゲノム医科学	3前		1			○								兼5 集中
	免疫検査学	3・4通		2			○			1					兼3 集中
	輸血学	3前		1			○		1						兼1 集中
	国際感染症学	3前		1			○								兼1 集中
	病原微生物学	3・4後		2			○		1						兼1 集中
	衛生化学概論	3・4前		1			○								兼2
	病理組織学	2前		2			○			1			1		兼1
	血液検査学	3後		2			○			1					兼1
	生理機能検査学	2前		4			○			1					兼2 集中
	検査機器学	1後		2			○				1				兼1
	臨床病態学	3後		2			○			1			1		兼1
	臨床薬理学	3前		1			○				1		1		兼1
	実験医学	2前		1			○								兼2
細胞・発生工学	2前		1			○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
医科学 応用分野	医科学専門語学	3後・4前	6			○			2	2					兼9		
	医療科学特論I	3後	1			○			1	1					集中		
	医療科学特論II	4前	1			○			1	1							
	医科学演習	3通	1				○								兼1	集中	
	研究演習	3通	4				○								兼1	集中	
	卒業研究	4通	8					○							兼1	集中	
	生理機能 分野	わかりやすい放射線生物学	3・4後		1		○									兼1	
		医学検査学実習	2前		1				○		1					集中	
		先端脳科学	3・4前		1		○									兼5	
		神経科学特論	3・4後		1		○									兼1	※演習
	医工学 分野	医療工学	3・4後		1		○					1					
		人工臓器学	3・4前		1		○					2				兼3	集中
	医療情報・ 検査学 分野	医学検査学フロンティア	4後		2		○			7	1	1	1			兼2	集中
		検査情報管理学	3前		1		○				1						
		画像検査学	3前		2		○			1						兼1	集中
		病態検査学	3通		4		○			3						集中	
		細胞検査学	2前		2		○									兼2	
		臨床実習	3通		3				○	2						集中	
	先端医学 実践 分野	臨床薬理学実習	3後		1				○		1		1			兼3	
		輸血学実習	3前		1				○	1						兼1	集中
		生理機能検査学実習	2後		2				○	1		1					
		画像検査学実習	3後		1				○	1						兼1	
		血液検査学実習	2通		1				○	1			1				
		生化学成分検査学実習	2後		2				○	1	1		1			兼1	
		病理組織学実習	2後		2				○	1			2				
		凝固・線溶学実習	2後		1				○	1			1				
		遺伝子検査学実習	3前		1				○	1							集中
病原微生物学実習		3前		1.5				○	1						兼1		
ウイルス学実習		3前		0.5				○							兼3		
免疫検査学実習	3前		1				○		1		2			兼2	集中		
医療安全 分野	医療安全管理学	3前		1		○			1	1							
	医療安全管理学実習	3前		0.5				○	1			1					
検査総合 分野	多職種連携医療学概論	1・2・3・4休		1		○			1			2				集中	
小計 (87科目)		—	45	47.5	0	—			10	8	4	6	0	兼86			
合計 (200科目)		—	191.5	116.5	0	—			10	8	4	6	0	兼455			
学位又は称号	学士 (医療医学)、 学士 (国際医療科学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係を除く)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分			2期					
【医療科学主専攻】						1 学期の授業期間			15週					
1. 基礎科目						1 時限の授業時間			75分					
(1) 共通科目 必修13単位、選択0単位														
(2) 関連科目 必修2単位、選択6単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修25単位、選択5単位														
3. 専門科目 必修67単位、選択6単位														
【国際医療科学主専攻】														
1. 基礎科目														
(1) 共通科目 必修13単位、選択0単位														
(2) 関連科目 必修2単位、選択6単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修1単位、選択27単位														
3. 専門科目 必修20単位（G30国際医療科学人養成プログラム開設の医学応用分野科目から修得）、選択55単位														
（備考）														
備考欄に「*」を付した科目は国際医療科学主専攻選択、選択科目に「**」を付した科目は国際医療科学主専攻必修														
次の履修方法により合計125.5単位以上を習得すること。														
【国際医療科学主専攻】（G30国際医療科学人養成プログラム）														
1. 基礎科目														
(1) 共通科目 必修12単位、選択必修4.5単位、選択2.5単位														
(2) 関連科目 必修4.5単位、選択1.5単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修23単位、選択7.5単位														
3. 専門科目 必修45単位、選択25単位														

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
体育専門学群															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	共通科目・関連科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○		3	2		4		全学開設
		総合科目（学問への誘い）	1前	1			○			3	2		4		全学開設
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後			1	○								兼26 全学開設
		第1外国語	1・2前・後	4				○							兼53 全学開設
		情報	1前・後	4				○							兼78 ※講義, 全学開設
		国語Ⅰ	1前・後	1			○								兼10 全学開設
		国語Ⅱ	1後	1			○								兼9 全学開設
		小計（9科目）	—	12	1	0	—			3	2	0	4	0	兼167
体育学主専攻	専門基礎科目	専門語学A	2前	1				○		1	7		3		兼1
		専門基礎共通演習	2後	1			○				2				
		体育科学シンポジウム	1後	1			○			3	4		5		
		体育・スポーツ専門英語基礎演習	2後	1				○		1	7		3		兼1
		臨海実習	2通	1			○						1		※実習・実験, 集中
		テーピング・マッサージ	1前	1			○			1	1		2		※実習・実験, 集中(一部)
		体育哲学	2後		1		○				1		1		
		体育・スポーツ史	2後		2		○			1			1		
		武道学Ⅰ	2前		1		○			1	1				
		スポーツ社会学	1後		2		○			1			2		
		体育・スポーツ経営学	2前		2		○			2					
		体育・スポーツ心理学	1前		2		○			1			1		
		スポーツ産業学	2前		1		○				1				
		スポーツ政策学Ⅰ	2前		1		○			1			1		
		運動学Ⅰ	2前		1		○			1	1				
		運動学Ⅱ	2後		1		○			1	1				
		一般コーチング学	2前		1		○				1				
		一般トレーニング学	2前		1		○				1				
		個別コーチング学	1後		1		○			2					
		個別トレーニング学	1後		1		○			2					
		解剖学	1前		1		○				1				
		生理学	1休		1		○			1					集中
		運動生理学	1後		1		○			1			1		
		運動生化学	1後		1		○			2					
		運動栄養学Ⅰ	1後		1		○				1				
		スポーツバイオメカニクスⅠ	1前		1		○			1					
		体力学	2後		1		○			2	1				
		健康増進学	2前		1		○				1				
		体育測定評価学(統計学を含む)	2後		1		○			1					
		スポーツ医学Ⅰ(救急処置を含む)	2前		1		○			1	2				
		衛生・公衆衛生学	2前		1		○			1			1		
		健康教育学(精神保健を含む)	2前		1		○			3			1		
		学校保健学Ⅰ(小児保健及び学校安全を含む)	2後		1		○						1		
		体操	1後		1		○			1		1			※実習・実験
体操	2後		1		○			1		1			※実習・実験		
ダンス	1後		1		○								※実習・実験, 集中(一部)		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ダンス	2後		1		○				1					※実習・実験,集中(一部)
	陸上競技	1前		1		○				1		1			※実習・実験
	陸上競技	2前		1		○				1		1			※実習・実験
	陸上競技	2後		1		○				1		1			※実習・実験
	陸上競技	1後		1		○				1		1			※実習・実験
	器械運動	1前		1		○			1			1			※実習・実験
	器械運動	2前		1		○				1					※実習・実験
	器械運動	2後		1		○			1			1			※実習・実験
	器械運動	1後		1		○				1					※実習・実験
	水泳競技	1前		1		○						1			※実習・実験
	水泳競技	2後		1		○						1			※実習・実験
	水泳競技	3後		1		○						1			※実習・実験
	野外運動	1前		1		○						1			※実習・実験
	野外運動	2後		1		○						1			※実習・実験
	野外運動	3後		1		○						1			※実習・実験
	バレーボール	1前		1		○				1					※実習・実験
	バレーボール	2前		1		○				1					※実習・実験
	バレーボール	3後		1		○				1					※実習・実験
	バレーボール	1後		1		○						1			※実習・実験
	バスケットボール	1前		1		○			1						※実習・実験
	バスケットボール	2前		1		○			1						※実習・実験
	バスケットボール	3後		1		○				1					※実習・実験
	バスケットボール	1後		1		○				1					※実習・実験
	ハンドボール	1前		1		○			1						※実習・実験
	ハンドボール	2前		1		○						1			※実習・実験
	ハンドボール	3後		1		○						1			※実習・実験
	ハンドボール	1後		1		○			1						※実習・実験
	サッカー	2後		1		○			1			1			※実習・実験
	サッカー	2前		1		○				1					※実習・実験
	サッカー	3後		1		○			1			1			※実習・実験
	サッカー	1後		1		○				1					※実習・実験
	ラグビー	2後		1		○						1			※実習・実験
	ラグビー	2前		1		○						1			※実習・実験
	ラグビー	3後		1		○				1					※実習・実験
	ラグビー	1後		1		○				1					※実習・実験
	テニス	3前		1		○				1					※実習・実験
	テニス	3後		1		○				1					※実習・実験
	バドミントン	3前		1		○						1			※実習・実験
	バドミントン	3後		1		○						1			※実習・実験
	卓球	3前		1		○					1	1			※実習・実験
	卓球	3後		1		○					1	1			※実習・実験
	ソフトボール	3前		1		○				1					※実習・実験
	ソフトボール	3後		1		○						1			※実習・実験
	柔道	1後		1		○				1		1			※実習・実験
	柔道	1後		1		○				2					※実習・実験
	柔道	2後		1		○				2					※実習・実験
	剣道	1後		1		○			1						※実習・実験

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	剣道	1後		1		○			1	1					※実習・実験
	剣道	2後		1		○			1	1					※実習・実験
	弓道	1後		1		○				1					※実習・実験
	弓道	1後		1		○				1					※実習・実験
	弓道	2後		1		○				1					※実習・実験
	野外運動(雪上)	1・2・3後		2	○				1			1			集中, ※実習・実験・実技
専門 科目	専門語学B	3通	2					○	5	18	1	3			
	卒業研究	4通	6					○	41	39	2	26			※卒業論文・卒業研究等, 集中
	保健体育科(体力づくり運動)指導法	1前	1			○			3	5	1	1			
	種目別コーチング演習I	1後	1					○	6	8	2	4			
	種目別コーチング演習II	2後	2					○	3	9	2	5			
	種目別コーチング演習III	3後		2				○	4	6	2	6			
	スポーツキャリア形成I	1後	1			○				2					
	スポーツキャリア形成II	1後	1			○			1						
	スポーツキャリア形成III	3後	1			○			1	1		1			
	スポーツ哲学	1前		1		○				1		1			
	スポーツ倫理学	3前		1		○						1			
	世界の体育・スポーツ史	3前		1		○						1			
	武道学II	3後		1		○			1						
	稽古論	3後		1		○				1					
	現代スポーツ論I(歴史社会学)	3後		1		○			1						
	現代スポーツ論II(産業社会学)	3後		1		○				1					
	メンタルトレーニングの原理と方法	3後		1		○			1			1			
	アダプテッド・スポーツ科学	2後		1				○		2					
	運動学習心理学	3後		1		○						1			
	スポーツ健康心理学	3前		1		○			1						
	スポーツと企業	3前		1		○				1					
	レジャー論	3後		1		○				1					
	スポーツ政策学II	2後		1		○			1			1			
	運動観察論	3前		1		○				1					
	スポーツ技術論	3前		1		○			1						
	スポーツ戦術論	2後		1		○			1						
	身体表現論	3前		1		○				1					
	動きの解剖学	3前		1		○				1					
	運動適応生理学	3後		1		○			1			2			
	コンディショニングのスポーツ生化学	3前		1		○			2						
	健康体力マネジメント	3後		1		○				1					隔年
	発育発達学	3後		1		○			1						
	パフォーマンスと体力	3前		1		○			2	1					
	運動栄養学II	3前		1		○				1					
	アンチ・ドーピング	3前		1		○			1	2					
	スポーツ医学II(内科系)	3後		1		○			1	1					
	スポーツ医学III(外科系)	3後		1		○			1	1					
	スポーツバイオメカニクスII	3前		1		○			1						
	スポーツ用具の力学とバイオメカニクス	3前		1		○				1					
	精神保健学	3後		1		○			1						
	健康社会学	3後		1		○			1			1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	スポーツ教育論	2後		1		○				2					
	保健体育教師論	3後		1		○				1					
	体育授業の観察法	2後		1		○				2					集中
	体育のカリキュラムマネジメント	4後		1		○			1						
	武道教育論	3後		1		○				1					
	学校球技指導論	3前		1		○				1					
	学校武道指導論	3後		1		○			1	3					
	指導者のための体力測定法	3後		1		○			1	1					
	体育指導のバイオメカニクス	3後		1		○			1	1					隔年
	からだの成長	1休		1		○				1				兼1	集中
	学校保健学II	3前		1		○						1			
	保健科内容論	3休		1		○			1			1			集中
	スポーツ統計学	3・4後		1		○			1						
	コミュニティ・スポーツの経営・政策論	3後		1		○			2						
	体育・スポーツ行政学	3後		1		○						1			
	地方自治とスポーツ政策	3前		1		○						1			
	スポーツ法学	3前		1		○			1						
	健康づくり政策論	2後		1		○			1						
	サクセスフルエイジング論	2後		1		○				1					隔年
	環境保健学	3後		1		○			1						
	運動療法論	3前		1		○			1	2					
	スポーツ傷害の予防とリハビリテーション	3前		1		○			1	1		2			
	スポーツメディア論	3前		1		○			1			1			集中
	スポーツサービス業と経営戦略	3後		1		○			1						集中
	アダプテッド・スポーツ教育	3後		1		○				2					
	スポーツ産業とイベント・プロモーション	3後		1		○				3					
	スポーツリスクマネジメント論	3前		1		○			1						
	スポーツにおける情報戦略	3後		1		○				1					
	オリンピック教育	4後		1		○			1			1			
	スポーツタレント発掘論	3後		1		○				1					
	スポーツ選手の栄養管理	2・3後		1		○				1					
	指導者のためのスポーツ生化学	3後		1		○			2						
	スポーツを通じた開発	2後		1		○						1			
	体育・スポーツ科学のための英語演習	4後		1				○		1					
	介護予防運動の理論と実技	3後		1		○				1					※実習・実験, 集中
	保健体育科教員養成演習	4前		1				○		1					集中
	運動部活動の指導と経営	3後		1		○			1						
	つくばサマーインスティテュート	2・3前		1		○			1	3					※実習・実験, 集中
	キャリア形成インターンシップA	2・3・4通		1.5				○		1					集中
	キャリア形成インターンシップB	2・3・4通		1.5				○	1	1					集中
	キャリア形成インターンシップC	2・3・4通		1.5				○		1		1			集中
	体育授業観察・分析法演習	3前		2				○		3					集中
	剣道特別実習	1・2・3・4後		1.5				○	1	2					集中
	スポーツと文化	1前		1		○				1					
	ヒューマンハイパフォーマンスを引き出す最新スポーツ科学(2)	1後		1		○			1						
	スポーツ技術を自然科学から考える	1後		1		○						1			
	体育・スポーツ学共通演習A	3後		1				○				2			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	体育・スポーツ学共通演習B	3前		1				○		1	1				
	体育・スポーツ学共通演習C	3後		1				○		1	2				
	体育哲学演習I	3前		2				○			1	1			
	体育哲学演習II	3後		1				○			1	1			
	体育哲学演習III	4後		2				○			1	1			
	体育史・スポーツ人類学演習I	3前		2				○		1		2			
	体育史・スポーツ人類学演習II	3後		1				○		1		2			
	体育史・スポーツ人類学演習III	4後		2				○		1		2			
	武道学演習I	3前		2				○		1	1				
	武道学演習II	3後		1				○		1	1				
	武道学演習III	4後		2				○		1	1				
	スポーツ社会学演習I	3通		2				○		1		1			集中(一部)
	スポーツ社会学演習II	3後		1				○		1		1			集中
	スポーツ社会学演習III	4後		2				○		1		1			
	体育・スポーツ経営学演習I	3前		2				○		2					
	体育・スポーツ経営学演習II	3後		1				○		2					
	体育・スポーツ経営学演習III	4後		2				○		2					
	スポーツ政策学演習I	3通		2				○		1		1			
	スポーツ政策学演習II	3後		1				○		1		1			集中
	スポーツ政策学演習III	4後		2				○		1		1			集中
	スポーツ産業学演習I	3通		2				○			2				集中(一部)
	スポーツ産業学演習II	3後		1				○			1				集中
	スポーツ産業学演習III	4後		2				○			3				
	体育科教育学演習I	3前		2				○			2				
	体育科教育学演習II	3後		1				○			2				
	体育科教育学演習III	4後		2				○			2				
	体育心理学演習I	3前		2				○		1		1			
	体育心理学演習II	3後		1				○		1		1			
	体育心理学演習III	4後		2				○		1		1			
	アダプテッド体育・スポーツ学演習I	3前		2				○			2				
	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	3後		1				○			2				
	アダプテッド体育・スポーツ学演習III	4後		2				○			2				
	スポーツ運動学演習I	3前		2				○		1	1				
	スポーツ運動学演習II	3後		2				○		1	1				
	スポーツ運動学演習III	4後		2				○		1	1				
	コーチング論・トレーニング学演習I	3前		2				○		1	4	1			集中
	コーチング論・トレーニング学演習II	3後		2				○		1	4				集中
	コーチング論・トレーニング学演習III	4後		2				○		1	4				集中
	体操コーチング論演習I	3前		2				○		1		1			
	体操コーチング論演習II	3後		2				○		1		1			
	体操コーチング論演習III	4後		2				○		1		1			
	体操競技コーチング論演習I	3前		2				○		1		1			
	体操競技コーチング論演習II	3後		2				○		1		1			
	体操競技コーチング論演習III	4後		2				○		1		1			集中(一部)
	陸上競技コーチング論演習I	3通		2				○		1	1	1			
	陸上競技コーチング論演習II	3前		2				○		1	1	1			集中
	陸上競技コーチング論演習III	4後		2				○		1	1	1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	水泳競技コーチング論演習I	3前		2				○					1		
	水泳競技コーチング論演習II	3後		2				○					1		
	水泳競技コーチング論演習III	4後		2				○					1		集中
	舞踊論演習I	3前		2				○			1				
	舞踊論演習II	3後		2				○			1				
	舞踊論演習III	4後		2				○			2				
	野外運動論演習I	3前		2				○					1		集中(一部)
	野外運動論演習II	3後		2				○		1					集中(一部)
	野外運動論演習III	3前		1				○		1			1		
	野外運動論演習IV	3後		1				○		1			1		
	バスケットボールコーチング論演習I	3前		2				○		1	1				
	バスケットボールコーチング論演習II	3後		2				○		1	1				
	バスケットボールコーチング論演習III	4後		2				○		1	1				
	バレーボールコーチング論演習I	3前		2				○			1		1		
	バレーボールコーチング論演習II	3後		2				○			1		1		
	バレーボールコーチング論演習III	4後		2				○			1				集中
	ハンドボールコーチング論演習I	3前		2				○		1			1		
	ハンドボールコーチング論演習II	3後		2				○		1			1		
	ハンドボールコーチング論演習III	4後		2				○		1			2		集中
	サッカーコーチング論演習I	3前		2				○		1	1		1		
	サッカーコーチング論演習II	3後		2				○		1	1		1		
	サッカーコーチング論演習III	4後		2				○		1	1		2		
	ラグビーコーチング論演習I	3前		2				○					1		
	ラグビーコーチング論演習II	3後		2				○			1				
	ラグビーコーチング論演習III	4後		2				○			1		1		
	ラケットバットスポーツコーチング論演習I	3前		2				○		1	2	1	1		
	ラケットバットスポーツコーチング論演習II	3後		2				○		1	2	1	1		
	ラケットバットスポーツコーチング論演習III	4後		2				○		1	2	1	1		
	柔道コーチング論演習I	3前		2				○			2				
	柔道コーチング論演習II	3後		2				○			2				
	柔道コーチング論演習III	4前		2				○			2				
	剣道コーチング論演習I	3前		2				○		1	1				
	剣道コーチング論演習II	3後		2				○		1	1				
	剣道コーチング論演習III	4後		2				○		1	1				集中
	弓道コーチング論演習I	3前		2				○			1				集中
	弓道コーチング論演習II	3後		2				○			1				集中
	弓道コーチング論演習III	4後		2				○			1				集中
	健康体力学共通演習	3前		2				○		9	6			2	
	応用解剖学演習I	3通		2				○			1				
	応用解剖学演習II	4後		2				○			1				
	運動生理学演習I	3通		2				○		2			2		集中(一部)
	運動生理学演習II	4通		2				○		2			2		集中(一部)
	運動生化学演習I	3通		2				○		2			1		集中
	運動生化学演習II	4後		2				○		2			1		集中
	運動栄養学演習I	3通		2				○			1				
	運動栄養学演習II	4後		2				○			1				集中(一部)
	スポーツバイオメカニクス演習I	3前		2				○		1	1				

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	スポーツバイオメカニクス演習II	4後		2			○		1	1					集中(一部)
	体力学演習I	3通		2			○		2	2					
	体力学演習II	4後		2			○		2	2					
	健康増進学演習I	3通		2			○			1					
	健康増進学演習II	4後		2			○			1					集中
	体育測定評価学演習I	3通		2			○		1						集中
	体育測定評価学演習II	4後		2			○		1						集中
	内科系スポーツ医学演習I	3通		2			○		1	2					集中
	内科系スポーツ医学演習II	4後		2			○		1	2					集中
	外科系スポーツ医学演習I	3通		2			○		1	2		2			集中
	外科系スポーツ医学演習II	4後		2			○		1	2		2			集中
	環境保健学演習I	3前		2			○		1						
	環境保健学演習II	4後		2			○		1						集中
	健康教育学演習I	3通		2			○		4			2			集中
	健康教育学演習II	4後		2			○		4			2			集中
小計(286科目)		—	21	376	0	—			41	39	2	26	2	兼2	

合計(295科目)		—	33	377	0	—			41	39	2	26	2	兼169	
-----------	--	---	----	-----	---	---	--	--	----	----	---	----	---	------	--

学位又は称号	学士(体育学)	学位又は学科の分野	体育関係
--------	---------	-----------	------

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。 【体育学主専攻】 1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修12単位、選択1～10単位(総合科目(学士基盤科目)、第2外国語(初修外国語)、芸術から選択) (2) 関連科目 選択12～25単位(学群長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択) 2. 専門基礎科目 必修6単位、選択31～39単位 3. 専門科目 必修15単位、選択28～43単位	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	75分

- (注)
- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
 - 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
芸術専門学群															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	共通科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○			2		1		全学開設 全学開設 兼26 全学開設 兼57 全学開設 兼53 全学開設 兼78 ※講義, 全学開設
	・関連科目	総合科目（学問への誘い）	1前	1			○			2		1			
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1		○								
		体育	1・2前・後	2					○						
		第1外国語（英語） 情報	1・2前・後 1前・後	4 4					○ ○						
小計（6科目）		—	12	1	0	—			0	2	0	1	0	兼214	
芸術学・美術・構成・デザイン専攻	専門基礎科目	芸術キャリア教育	2・3通	1			○			1				集中	
		アート&デザイン入門	1・2前	1			○					1			
		芸術と文化	1・2前	1			○				1				
		芸術と社会	1・2後	1			○			2	6	1			
		美術史学概論	1前		1		○			1	2	1			
		芸術支援学概論	1前		1		○			2		1			
		洋画概論	1前		1		○					1			
		素描基礎演習1	1・2前		2			○		1					
		油彩画基礎演習1	1・2前		2			○				1			
		油彩画基礎演習2	1・2後		2			○		1					
		版画概論	1前		1		○				1				
		版画基礎演習	1・2後		2			○			1				
		日本画概論	1後		1		○			1	1				
		素描基礎演習2	1・2後		2			○		1	1				
		日本画基礎演習1	1・2前		2			○			1				
		日本画基礎演習2	1・2後		2			○			1				
		彫塑概論	1後		1		○					1			
		彫塑基礎演習1	1・2前		2			○		1		1			
		彫塑基礎演習2	1・2前		2			○		1		1			
		彫塑基礎演習3	1・2後		2			○		1		1			
		書概論	1前		1		○			1					
		工芸概論	1後		1		○				1				
		工芸基礎演習（ガラス）	1・2後		2			○				1			
		工芸基礎演習（陶磁）	1・2後		2			○			1				
		工芸基礎演習（木工）	1・2後		2			○			1				
		総合造形概論	1前		1		○			1					
		デジタル写真基礎演習	1・2・3・4前		1			○				1			
		立体加工基礎演習	1・2前		2			○				1			
		構成概論	1前		1		○				1				
		ビジュアルデザイン概論	1後		1		○			1					
		グラフィックツール基礎演習	1・2前		1			○			1				
		情報・プロダクトデザイン概論	1前		1		○			1					
		レンダリング基礎演習	1前		1			○			1				
		環境デザイン概論	1前		1		○			1	1				
	プレゼンテーション基礎演習	1前		1			○			1					
	建築デザイン概論	1後		1		○			1						
	建築製図基礎演習	1後		1			○			1	1				
	芸術学概論-1	1前		1		○				1					
	芸術学概論-2	1後		1		○			1						
	世界遺産学入門	2前		1		○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	芸術材料論	1・2・3後		1		○									兼1	集中(一部)
	英語基礎演習A-1	2・3・4前		0.5			○						1			
	英語基礎演習A-2	2・3・4後		0.5			○						1			
	英語基礎演習B-1	2・3・4前		0.5			○						1			
	英語基礎演習B-2	2・3・4後		0.5			○						1			
	英語基礎演習C-1	2・3・4前		0.5			○						1			
	英語基礎演習C-2	2・3・4後		0.5			○						1			
	美術史概説A-1	1前		1		○			1							隔年
	美術史概説A-2	1前		1		○				1						隔年
	美術史概説B-1	1後		1		○						1				隔年
	美術史概説B-2	1後		1		○								兼1		隔年
	デザイン史概説A	1前		1		○					1					
	デザイン史概説B	1後		1		○					1					
専門科目	美術史領域研究I	2前	1			○			1	2			1			※演習、及び実習・実験、集中
	美術史領域研究II	3前	1			○			1	2			1			※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域研究I	2前	1			○			2				1			※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域研究II	3前	1			○			2				1			※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域研究I	2前	1			○			2	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域研究II	3前	1			○			2	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	版画領域研究I	2前	1			○				1						※演習、及び実習・実験、集中
	版画領域研究II	3前	1			○				1						※演習、及び実習・実験、集中
	日本画領域研究I	2前	1			○			1	2						※演習、及び実習・実験、集中
	日本画領域研究II	3前	1			○			1	2						※演習、及び実習・実験、集中
	彫塑領域研究I	2前	1			○			1				1			※演習、及び実習・実験、集中
	彫塑領域研究II	3前	1			○			1				1			※演習、及び実習・実験、集中
	書領域研究I	2前	1			○			3							※演習、及び実習・実験、集中
	書領域研究II	3前	1			○			3							※演習、及び実習・実験、集中
	工芸領域研究I	2前	1			○				2			1			※演習、及び実習・実験、集中
	工芸領域研究II	3前	1			○				2			1			※演習、及び実習・実験、集中
	総合造形領域研究I	2前	1			○			1				2			※演習、及び実習・実験、集中
	総合造形領域研究II	3前	1			○			1				2			※演習、及び実習・実験、集中
	構成領域研究I	2前	1			○				1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	構成領域研究II	3前	1			○				1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	ビジュアルデザイン領域研究I	2前	1			○			1	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	ビジュアルデザイン領域研究II	3前	1			○			1	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	情報・プロダクトデザイン領域研究I	2前	1			○			3	3						※演習、及び実習・実験、集中
	情報・プロダクトデザイン領域研究II	3前	1			○			3	3						※演習、及び実習・実験、集中
	環境デザイン領域研究I	2前	1			○			1	2						※演習、及び実習・実験、集中
	環境デザイン領域研究II	3前	1			○			1	2						※演習、及び実習・実験、集中
	建築デザイン領域研究I	2前	1			○			2	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	建築デザイン領域研究II	3前	1			○			2	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	美術史領域特別演習I	3後	1			○			1	2			1			※演習、及び実習・実験、集中
	美術史領域特別演習II	4前	1			○			1	2			1			※演習、及び実習・実験、集中
	美術史領域特別演習III	4後	1			○			1	2			1			※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域特別演習I	3後	1			○			2				1			※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域特別演習II	4前	1			○			2				1			※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域特別演習III	4後	1			○			2				1			※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域特別演習I	3後	1			○			2	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域特別演習II	4前	1			○			2	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域特別演習III	4後	1			○			2	1			1			※演習、及び実習・実験、集中
	版画領域特別演習I	3後	1			○				1						※演習、及び実習・実験、集中

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	版画領域特別演習II	4前	1			○				1					※演習、及び実習・実験,集中
	版画領域特別演習III	4後	1			○				1					※演習、及び実習・実験,集中
	日本画領域特別演習I	3後	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	日本画領域特別演習II	4前	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	日本画領域特別演習III	4後	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	彫塑領域特別演習I	3後	1			○			1			1			※演習、及び実習・実験,集中
	彫塑領域特別演習II	4前	1			○			1			1			※演習、及び実習・実験,集中
	彫塑領域特別演習III	4後	1			○			1			1			※演習、及び実習・実験,集中
	書領域特別演習I	3後	1			○			3						※演習、及び実習・実験,集中
	書領域特別演習II	4前	1			○			3						※演習、及び実習・実験,集中
	書領域特別演習III	4後	1			○			3						※演習、及び実習・実験,集中
	工芸領域特別演習I	3後	1			○				2		1			※演習、及び実習・実験,集中
	工芸領域特別演習II	4前	1			○				2		1			※演習、及び実習・実験,集中
	工芸領域特別演習III	4後	1			○				2		1			※演習、及び実習・実験,集中
	総合造形領域特別演習I	3後	1			○			1			2			※演習、及び実習・実験,集中
	総合造形領域特別演習II	4前	1			○			1			2			※演習、及び実習・実験,集中
	総合造形領域特別演習III	4後	1			○			1			2			※演習、及び実習・実験,集中
	構成領域特別演習I	3後	1			○				1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	構成領域特別演習II	4前	1			○				1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	構成領域特別演習III	4後	1			○				1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	ビジュアルデザイン領域特別演習I	3後	1			○			1	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	ビジュアルデザイン領域特別演習II	4前	1			○			1	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	ビジュアルデザイン領域特別演習III	4後	1			○			1	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	情報・プロダクトデザイン領域特別演習I	3後	1			○			3	3					※演習、及び実習・実験,集中
	情報・プロダクトデザイン領域特別演習II	4前	1			○			3	3					※演習、及び実習・実験,集中
	情報・プロダクトデザイン領域特別演習III	4後	1			○			3	3					※演習、及び実習・実験,集中
	環境デザイン領域特別演習I	3後	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	環境デザイン領域特別演習II	4前	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	環境デザイン領域特別演習III	4後	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	建築デザイン領域特別演習I	3後	1			○			2	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	建築デザイン領域特別演習II	4前	1			○			2	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	建築デザイン領域特別演習III	4後	1			○			2	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	美術史特講A-1	2・3前		1		○						1			隔年
	美術史特講A-2	2・3後		1		○						1			隔年
	美術史特講B-1	2・3前		1		○				1					隔年
	美術史特講B-2	2・3後		1		○				1					隔年
	美術史特講C-1	2・3前		1		○				1					隔年
	美術史特講C-2	2・3後		1		○				1					隔年
	美術史特講D-1	2・3前		1		○			1						隔年
	美術史特講D-2	2・3後		1		○			1						隔年
	アート展示論	2・3前		1		○				1					隔年
	アート・テキスト論	2・3前		1		○				1					隔年
	美術史演習A-1	2・3前		2		○				1					隔年
	美術史演習A-2	2・3後		2		○				1					隔年
	美術史演習B-1	2・3前		2		○						1			隔年
	美術史演習B-2	2・3後		2		○						1			隔年
	美術史演習C-1	2・3前		2		○			1						隔年
	美術史演習C-2	2・3後		2		○			1						隔年
	美術史演習D-1	2・3前		2		○				1					隔年
	美術史演習D-2	2・3後		2		○				1					隔年
	アート展示論演習	2・3前		2		○				1					隔年,集中(一部)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	アート・テキスト論演習	2・3前		2			○			1					隔年,集中(一部)
	美術史文献学-1	2・3後		2		○			1						※演習,隔年
	美術史文献学-2	2・3後		2		○						1			※演習,隔年
	学外演習I(美術史)	2後		2			○		1	2		1			集中
	学外演習II(美術史)	3後		2			○		1	2		1			集中
	卒業研究(美術史領域)	4通		6			○		1	2		1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	芸術支援学IA-1	2・3前		1		○						1			隔年
	芸術支援学IA-2	2・3後		1		○						1			隔年
	芸術支援学IB-1	2・3前		1		○			1						隔年
	芸術支援学IB-2	2・3後		1		○			1						隔年
	芸術支援学IC-1	2・3前		1		○			1						隔年
	芸術支援学IC-2	2・3後		1		○			1						隔年
	学外演習I(芸術支援学)	1・2通		1.5			○		2			1			集中
	芸術支援学IIA-1	2・3前		1		○						1			隔年
	芸術支援学IIA-2	2・3後		1		○						1			隔年
	芸術支援学IIB-1	2・3前		1		○			1						隔年
	芸術支援学IIB-2	2・3後		1		○			1						隔年
	芸術支援学IIC-1	2・3前		1		○			1						隔年
	芸術支援学IIC-2	2・3後		1		○			1						隔年
	芸術支援学演習A-I	1・2通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習A-II	2・3通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習B-I	1・2通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習B-II	2・3通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習C-I	1・2通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習C-II	2・3通		1			○		1			1			集中
	学外演習II(芸術支援学)	2・3通		1.5			○		2			1			集中
	芸術支援学演習A-III	3・4通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習B-III	3・4通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習C-III	3・4通		1			○		1						集中
	美術館教育演習I	1・2通		1			○		1						集中
	美術館教育演習II	2・3通		1			○		1						集中
	美術館教育演習III	3・4通		1			○		1						集中
	学外演習III(芸術支援学)	3・4通		1.5			○		2			1			集中
	卒業研究(芸術支援領域)	4通		6			○		2			1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	洋画技法論	2前		1		○			1						
	洋画構想論	2・3後		1		○				1					
	油絵基礎技法演習	2前		2			○			1					
	油絵基礎実習	2通		2				○		1					
	素描実習I-1	1前		1.5				○	1	1					
	素描実習I-2	1後		1.5				○	1	1					
	洋画技法演習	3通		4			○		1						
	素描実習II-A-1	2前		1.5				○		1		1			
	素描実習II-A-2	2後		1.5				○		1					
	素描実習II-B-1	2前		1.5				○		1		1			
	素描実習II-B-2	2後		1.5				○				1			
	油絵実習I-A-1	3前		1.5				○				1			
	油絵実習I-A-2	3後		1.5				○				1			
	油絵実習I-B-1	3前		1.5				○	1						
	油絵実習I-B-2	3後		1.5				○	1						
	油絵実習I-C-1	3前		1.5				○	1						
	油絵実習I-C-2	3後		1.5				○	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	油絵実習I-D-1	3前		1.5				○		1					
	油絵実習I-D-2	3後		1.5				○		1					
	洋画野外風景実習I	2前		1				○	2	1		1			集中
	洋画野外風景実習II	3前		1				○	2	1		1			集中
	洋画野外風景実習III	4前		1				○	2	1		1			集中
	油絵実習II-A-1	4前		1.5				○				1			集中(一部)
	油絵実習II-A-2	4通		1.5				○				1			集中(一部)
	油絵実習II-B-1	4前		1.5				○	1						集中(一部)
	油絵実習II-B-2	4通		1.5				○	1						集中(一部)
	油絵実習II-C-1	4前		1.5				○	1						集中(一部)
	油絵実習II-C-2	4通		1.5				○	1						集中(一部)
	油絵実習II-D-1	4前		1.5				○		1					集中(一部)
	油絵実習II-D-2	4通		1.5				○		1					集中(一部)
	卒業研究(洋画領域)	4通		6				○	2	1		1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	版画基礎実習-1	2前		1.5				○		1					
	版画基礎実習-2	2後		1.5				○		1					
	リトグラフ演習	2・3前		2				○						兼1	隔年,集中
	版画実習A-1	3前		1.5				○		1					
	版画実習A-2	3後		1.5				○		1					集中(一部)
	版画実習B-1	3前		1.5				○		1					
	版画実習B-2	3後		1.5				○		1					
	版画演習A	4前		3				○		1					
	版画演習B	4後		3				○		1					
	学外演習(版画)	3・4通		1				○		1					集中
	版画実習C-1	3・4前		1.5				○		1					隔年
	版画実習C-2	3・4後		1.5				○		1					隔年
	卒業研究(版画領域)	4通		6				○		1					※卒業論文・卒業研究等,集中
	日本画技法論	2前		1			○			1					
	日本画鑑賞研究	3通		0.5				○	1						集中
	日本画技法演習	3通		4				○		2					
	日本画実習基礎II	2通		1.5				○	1	1					
	日本画実習I-A-1	3前		1.5				○		1					
	日本画実習I-A-2	3後		1.5				○		1					
	日本画実習I-B-1	3前		1.5				○	1						
	日本画実習I-B-2	3後		1.5				○	1						
	日本画実習I-C-1	3前		1.5				○		1					
	日本画実習I-C-2	3後		1.5				○		1					
	日本画実習I-D-1	3前		1.5				○		1					
	日本画実習I-D-2	3後		1.5				○		1					
	日本画実習II-A-1	4前		1.5				○		1					
	日本画実習II-A-2	4後		1.5				○		1					
	日本画実習II-B-1	4前		1.5				○	1	1					
	日本画実習II-B-2	4後		1.5				○	1	1					
	日本画実習II-C-1	4前		1				○	1						
	日本画実習II-C-2	4通		1				○	1						
	日本画実習II-D-1	4前		1				○		1					
	日本画実習II-D-2	4通		1				○		1					
	野外風景実習I	2前		1.5				○	1	2					集中
	野外風景実習II	3前		1.5				○	1	2					集中
	日本画基礎実習1	2前		1.5				○	1	2					
	日本画基礎実習2	2後		1.5				○	1	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	卒業研究(日本画領域)	4通		6				○	1	2					※卒業論文・卒業研究等,集中
	彫塑論・演習I	2前		1			○		1			1			※演習,集中(一部)
	彫塑論・演習II	3後		1			○		1			1			※演習
	塑造実習II-A-1	3前		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-A-2	3後		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-B-1	3前		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-B-2	3後		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-C-1	3前		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-C-2	3後		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-D-1	3前		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-D-2	3後		1.5				○	1			1			
	塑造実習III-A	4前		1.5				○	1			1			
	塑造実習III-B	4前		1.5				○	1			1			
	塑造実習III-C	4前		1.5				○	1			1			
	塑造実習III-D	4前		1.5				○	1			1			
	彫刻基礎実習	2後		1.5				○	1						
	彫刻実習I-A-1	3前		1.5				○	1						
	彫刻実習I-A-2	3後		1.5				○	1						
	彫刻実習I-B-1	3前		1.5				○	1			1			
	彫刻実習I-B-2	3後		1.5				○	1			1			
	彫刻実習II-A	4前		1.5				○	1						
	彫刻実習II-B	4前		1.5				○	1			1			集中(一部)
	鋳造実習I	3前		1.5				○	1			1			集中(一部)
	鋳造実習II	4後		1.5				○	1			1			集中(一部)
	彫塑特別実習	4通		1				○	1			1			集中
	学外演習(彫塑)	3・4通		1				○	1			1			集中
	塑造実習I-A-1	2前		1.5				○	1			1			
	塑造実習I-A-2	2後		1.5				○	1			1			
	塑造実習I-B-1	2前		1.5				○	1			1			
	塑造実習I-B-2	2後		1.5				○	1			1			
	テラコッタ実習	2・3・4前		1.5				○	1			1			
	卒業研究(彫塑領域)	4通		6				○	1			1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	書鑑賞論I	2前		1.5			○		1						
	書鑑賞論II	2後		1.5			○		1						
	書学方法論I	3前		1.5			○		1						
	書学方法論II	3後		1.5			○		1						
	書実習基礎I-1	1前		1.5				○	2						
	書実習基礎I-2	1後		1.5				○	2						
	書実習基礎II-1	2前		1.5				○	2						
	書実習基礎II-2	2後		1.5				○	2						
	書実習漢字制作A-1	2・3前		1.5				○	1						隔年
	書実習漢字制作A-2	2・3後		1.5				○	1						隔年
	書実習漢字制作B-1	2・3前		1.5				○	1						隔年
	書実習漢字制作B-2	2・3後		1.5				○	1						隔年
	書実習漢字制作C-1	4前		1.5				○	1						
	書実習漢字制作C-2	4後		1.5				○	1						
	書実習仮名制作A-1	2・3前		1.5				○	1						隔年
	書実習仮名制作A-2	2・3後		1.5				○	1						隔年
	書実習仮名制作B-1	2・3前		1.5				○	1						隔年
	書実習仮名制作B-2	2・3後		1.5				○	1						隔年
	書実習仮名制作C-1	4前		1.5				○	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	書実習仮名制作C-2	4後		1.5				○	1						
	学外演習(書)A	1・2・3・4通		1.5				○	3						隔年, 集中
	学外演習(書)B	1・2・3・4通		1.5				○	3						隔年, 集中
	中国書法史I	2前		1.5			○		1						
	中国書法史II	2後		1.5			○		1						
	日本書道史I	3前		1.5			○		1						
	日本書道史II	3後		1.5			○		1						
	専門語学(中国語)B-1	2・3・4前		1			○		1						隔年
	専門語学(中国語)B-2	2・3・4通		1			○		1						隔年
	専門語学(中国語)B-3	2・3・4後		1			○		1						隔年
	卒業研究(書領域)	4通		6				○	3						※卒業論文・卒業研究等, 集中
	木材造形論	2前		1			○			1					
	工芸特講	1・2通		1			○			1		1			隔年, 集中
	学外演習(工芸領域)	3通		1				○		2		1			集中
	ガラス基礎演習	2前		1				○				1			
	ガラス技術演習	2後		2				○				1			
	ガラス工芸演習	3前		4				○				1			
	ガラス造形演習	3後		4				○				1			
	ガラス制作演習	2前		1				○				1			
	木工基礎演習	2前		1				○		1					
	木工技術演習	2・3後		2				○		1					
	漆芸技法演習	2・3前		2				○		1					
	漆芸制作演習	2・3後		2				○		1					
	木材造形演習	3前		4				○		1					
	木工制作演習	2前		1				○		1					
	陶磁基礎演習	2前		1				○		1					
	窯芸技術演習	2・3前		1				○		1					
	ロクロ技法演習	2・3後		2				○		1					
	陶磁造形演習I	3前		2				○		1					
	陶磁造形演習II	3後		2				○		1					
	陶磁制作演習	2前		1				○		1					
	卒業研究(工芸領域)	4通		6				○		2		1			※卒業論文・卒業研究等, 集中
	メディア・アート論	3前		1			○					1			
	現代美術論A	3・4前		1			○		1						
	現代美術論B	3・4後		1			○		1						
	学外演習(総合造形領域)	3通		1				○	1			2			集中
	インスタレーションアート	3・4前		1			○					1			
	メディアアート・プログラミング	2・3前		2				○				1			
	メディアアート・フィジカルコンピューティング	2・3後		2				○				1			
	ハイブリッドアート演習	3・4後		3				○				1			
	卒業研究(総合造形領域)	4通		6				○	1			2			※卒業論文・卒業研究等, 集中
	学外演習(構成領域)	3通		1				○	2	4		5			集中
	色彩学	2前		1			○			1					
	造形発想論	2後		1			○					1			
	平面構成演習	2前		2				○				1			
	立体構成演習	2後		2				○				1			
	造形心理学	2後		1			○			1					
	平面構成総合演習	3前		1				○				1			
	立体構成総合演習	3前		1				○				1			
	色彩構成演習I	2前		1				○		1					
	色彩構成演習II	2後		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	実験造形演習	3後		2			○						1		
	卒業研究(構成領域)	4通		6			○		2	4			5		※卒業論文・卒業研究等,集中
	学外演習(ビジュアルデザイン領域)	3通		1			○		1	1			1		集中
	広告デザイン演習	3・4後		1			○		1						
	ブランディングデザイン演習	3・4前		2			○			1					
	画像論	2・3後		1		○							1		
	コンテンポラリー・フォトグラフィ演習	3後		2			○						1		
	ナラティブイラストレーション演習	2前		2			○						1		
	印刷・製本演習	3後		2			○						1		
	ビジュアルストーリー創作演習	3・4休		1			○						1		集中
	ビジュアルデザインシンキング	2前		2			○			1					
	ビジュアルデザイン演習A	2前		1			○		1						
	ビジュアルデザイン演習B	2後		1			○			1					
	エディトリアルデザイン演習	3・4前		1			○		1						
	グラフィックデザイン特別演習	3・4通		1			○			1					隔年,集中
	パッケージデザイン演習	3・4前		1			○			1					
	サイエンスビジュアルゼーション演習	3・4休		1			○		1						集中
	卒業研究(ビジュアルデザイン領域)	4通		6			○		1	1			1		※卒業論文・卒業研究等,集中
	人間工学	2後		1		○			1						
	デザイン演習1-A	2前		1			○		1						
	デザイン演習2-A	2前		1			○		1						
	デザイン演習5-A	2後		1			○			1					
	デザイン演習6-A	2後		1			○		1						
	情報・プロダクトデザイン演習1-I	3前		1			○			1					
	情報・プロダクトデザイン演習1-II	3前		1			○		1						
	情報・プロダクトデザイン演習2-I	3休		3			○		1						集中(一部)
	情報・プロダクトデザイン演習2-II	3休		2			○			1					集中
	情報・プロダクトデザイン演習3-I	3後		1			○			1					
	情報・プロダクトデザイン演習3-II	3後		1			○		1						
	生産システムデザイン学	2・3通		2		○			2						
	感性デザイン学	2前		1		○				1					
	プロトタイピング基礎	2前		1		○				1					※演習
	プロトタイピング応用	2前		1		○				1					※演習
	生産材料・技術論	2・3休		2		○				1				兼1	隔年,集中
	情報メディア論I	3前		1		○				1					
	プログラミング基礎	2前		1		○				1					※演習
	情報メディア論II	3後		1		○				1					
	プログラミング応用	2後		1		○				1					※演習
	デザイン解析論基礎	2後		1		○			1						集中
	デザインイノベーション論	2・3前		1		○				1					
	デザイン解析論応用	3後		1		○								兼1	集中
	ダイナミックインタラクションデザイン演習	2後		1			○			1			1		
	学外演習(情報・プロダクトデザイン)	3後		1			○		3	3					集中
	インターンシップ(情報・プロダクトデザイン)	4後		1				○		1					集中
	デザイン系企業研究	3後		3			○			1					
	卒業研究(情報・プロダクトデザイン領域)	4通		6			○		3	3					※卒業論文・卒業研究等,集中
	デザイン演習2-B	2前		1			○			1					
	デザイン演習6-B	2後		1			○		1						
	環境デザイン演習1	3前		3			○		1						
	環境デザイン演習2	3後		3			○			1					
	学外演習(環境デザイン)	3前		1			○		1	2					集中

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	インターンシップ(環境デザイン)	3後		1				○		1					集中
	都市デザイン論	3後		2			○		1						
	ランドスケープデザイン論	3後		2			○			1					
	住宅地計画論	3前		2			○			1					
	卒業研究(環境デザイン領域)	4通		6				○	1	2					※卒業論文・卒業研究等,集中
	デザイン演習1-B	2前		1				○				1			
	デザイン演習5-B	2後		1				○	1	1					
	建築デザイン演習1	3前		3				○	1						
	建築デザイン演習2	3後		3				○				1			
	建築デザイン演習3	3後		3				○		1					集中(一部)
	建築史	1・2・3・4前		2			○			1					
	建築材料論	2・3・4前		2			○							兼1	隔年
	学外演習(建築デザイン)	3通		1				○	1	2		1			集中
	インターンシップ(建築デザイン)	3通		1				○	1						集中
	建築設計論	3通		2			○			1					集中
	建築環境計画論	3後		2			○			1					
	建築設備計画論	3前		2			○			1					
	建築計画論A	3前		1			○		1						
	建築計画論B	3前		1			○		1						
	建築構法論	3後		2			○					1			
	建築構法論演習	3前		1				○				1			
	構造力学	2・3・4通		2			○							兼1	隔年
	構造計画	2・3・4後		2			○							兼1	隔年
	卒業研究(建築デザイン領域)	4通		6				○	1	2		1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	専門語学(英語)1	2・3・4前		1			○					1			
	専門語学(英語)2	2・3・4後		1			○					1			
	美術論A-1	3・4通		1			○			1					隔年,集中
	美術論A-2	3・4通		1			○			1					隔年,集中
	美術論B-1	3・4前		1			○			1					隔年
	美術論B-2	3・4後		1			○			1					隔年
	彫刻史A-I	2・3前		1			○							兼1	隔年
	彫刻史A-II	2・3後		1			○							兼1	隔年
	芸用解剖学I	3・4前		1.5			○							兼1	隔年
	芸用解剖学II	3・4後		1.5			○							兼1	隔年
	創造的復興:チャレンジ学外演習I	3後		2				○		3		2			集中
	創造的復興:チャレンジ学外演習II	4後		2				○		3		2			集中
	アートセラピー入門1	2・3・4前		1				○				1			集中
	アートセラピー入門2	2・3・4後		1				○				1			集中
	アートセラピー入門3	2・3・4前		1				○				1			集中
	アートセラピー入門4	2・3・4後		1				○				1			集中
	拡張表現スタジオ1-1	1前		1				○				1			
	拡張表現スタジオ1-2	1前		1				○		1					
	拡張表現スタジオ1-3	1後		1				○				1			
	拡張表現スタジオ1-4	1後		1				○	1						
	拡張表現スタジオ2	2後		2				○	2	4		5			集中
	拡張表現スタジオ3	3後		2				○	2	4		5			集中
	拡張表現スタジオ4	4通		2				○	2	4		5			集中
	デザイン基礎演習1	1前		2				○		1					
	デザイン基礎演習2	1後		2				○		1					
	デザイン基礎演習1-I	1前		1				○		1					
	デザイン基礎演習1-II	1前		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	デザイン基礎演習2-I	1後		1			○			1					
	デザイン基礎演習2-II	1後		1			○			1					
	デザイン演習1	2前		1			○			1					
	デザイン演習2	2前		1			○		1						
	デザイン演習3	2前		1			○		1						
	デザイン演習4	2後		1			○			1					
	デザイン演習5	2後		1			○			1					
	デザイン演習6	2後		1			○		1	1					
	環境・建築デザイン演習	3前		3			○			2					
	アート・デザインプロデュース演習1	2・3・4前		1			○		1	3					集中
	アート・デザインプロデュース演習2	2・3・4通		1			○		1	3					集中
	アート・デザインプロデュース演習3	2・3・4後		1			○		1	3					集中
	デザイン特別演習	4通		2			○		5	6		1			集中
	創造的復興:ローカルデザイン演習I	3前		2			○			3		2			
	創造的復興:ローカルデザイン演習II	4前		2			○			3		2			
	建築設備	3・4後		2			○								兼1
	建築関連法規	2・3・4後		1			○								兼3 集中
	建築経済	2・3・4後		1			○								兼1 集中
	建築生産	2・3・4前		1			○								兼1 集中
	小計 (467科目)	—		74	621.5	0		—		23	17	0	13	0	兼19
J a p a n · E x p e r t P r o g r a m 日 本 芸 術 コ ー ス	共通科目 (フレッシュマン・セミナー)	1前	1				○		1	1					全学開設
	共通科目 (Japan-Expertフレッシュマン・セミナー)	1後	1				○								兼1 全学開設
	共通科目 (学問への誘い)	1前	1				○		1	1					全学開設
	共通科目 (学士基盤科目)	1・2前・後		1			○								兼26 全学開設
	体育	1・2前・後	2					○							兼57 全学開設
	Japan-Expert日本語 中上級話す	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 上級話す	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 中上級聞く	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 上級聞く	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 中上級読む	1後		3			○								兼1
	Japan-Expert日本語 上級読む	1後		3			○								兼1
	Japan-Expert日本語 中上級書く	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 上級書く	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 中上級文法	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 上級文法	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 中上級漢字	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 上級漢字	1後		2			○								兼1
	Japan-Expert日本語 中上級総合日本語	1後		1			○								兼1
	Japan-Expert日本語 上級総合日本語	1後		1			○								兼1
	Japan-Expert専門日本語 (日本芸術コース)	1後		1			○			1					
情報	1前・後	4					○							兼78 ※講義, 全学開設	
(J E 対 象 専 門 基 礎 科 目 ・ 専 門 科 目)	Japan-Expert総論	1前	1				○								兼1
	インターンシップ	3・4通	1							1					
	小計 (23科目)	—	11	30	0		—		2	4	0	0	0	兼162	
合計 (496科目)		—	97	652.5	0		—		23	17	0	13	0	兼234	
学位又は称号	学士 (芸術学)		学位又は学科の分野				美術関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分			2期					
【芸術学・美術・構成・デザイン主専攻】						1 学期の授業期間			15週					
1. 基礎科目						1 時限の授業時間			75分					
<p>(1) 共通科目 必修12単位、選択1～12単位（総合科目（学士基盤科目）、第1外国語（英語）、第2外国語（初修外国語）、国語、芸術から選択）</p> <p>(2) 関連科目 選択6～24単位（学群長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）</p> <p>2. 専門基礎科目 必修5単位、選択13～20単位</p> <p>3. 専門科目 必修11単位、選択50～64単位</p> <p>・人文学類及び比較文化学類、工学システム学類、社会工学類開設科目で学群長が指定する科目から15単位まで選択可。</p> <p>・工学システム学類、社会工学類開設科目のうち学群長が指定する科目から5単位まで選択可。</p>														
【日本芸術コース】														
1. 基礎科目														
<p>(1) 共通科目 必修9単位、選択必修15単位、選択1～12単位（総合科目（学士基盤科目）、体育、第1外国語（日本語）、第2外国語（初修外国語）、国語、芸術から選択）</p> <p>(2) 関連科目 選択6～24単位（学群長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）</p> <p>2. 専門基礎科目 必修5単位、選択12～19単位</p> <p>3. 専門科目 必修12単位、選択50～64単位</p> <p>・人文学類及び比較文化学類、工学システム学類、社会工学類開設科目で学群長が指定する科目から15単位まで選択可。</p> <p>・工学システム学類、社会工学類開設科目のうち学群長が指定する科目から5単位まで選択可。</p>														

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(全学群対象科目、自由科目(特設)、教職・博物館に関する科目)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学群対象科目	哲学通論AI	2前		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論AII	2後		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論BI	2前		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論BII	2後		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論CI	2前		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論CII	2後		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論DI	2前		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論DII	2後		1		○								兼1 全学開設
	日本国憲法	2後		2		○								兼1 全学開設
	日本国憲法	2前		2		○								兼1 全学開設
	日本国憲法	1後		2		○								兼1 全学開設
	日本国憲法	1前		2		○								兼1 集中, 全学開設
日本国憲法	1・2・3前		2		○								兼1 集中, 全学開設	
日本国憲法	2前		2		○								兼1 集中, 全学開設	
合計(14科目)		—		20		—								兼11
自由科目(特設)	21世紀の中国—現代中国の諸相—	2・3・4後		1		○								兼1 全学開設
	海外武者修行	2・3・4通		1		○								兼1 ※演習, 全学開設
	グローバル共存・共生	3・4後		1		○								兼1 ※演習, 全学開設
	青木彰記念講座・変貌するメディアと社会I	2・3前		1		○								兼1 全学開設
	青木彰記念講座・変貌するメディアと社会II	2・3後		1		○								兼1 全学開設
	学際的社会科学演習	3・4後		3			○							兼1 一部集中, 全学開設
	筑波山から学ぶ—地域の文化資源発掘	2・3通		2		○								兼1 一部集中, 全学開設
	国際パートナーシップ研修(中南米)	1・2・3・4通		2		○								兼1 演習及び実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	国際パートナーシップ協働演習(中南米)	2・3・4通		2			○							兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	障害学生支援技術	1・2・3通		1			○							兼6 集中, 全学開設
	障害者スポーツボランティア実践講座	1・2・3・4前・後		1		○								兼8 ※演習, 集中, 全学開設
	つくばロボットコンテスト2019	1・2・3通		1				○						兼8 集中, 全学開設
	コンテツツ表現工学	1・2・3後		1					○					兼6 全学開設
	巨大プロジェクトエンジニア入門	1・2前		1		○								兼1 ※演習, 集中(一部), 全学開設
	国際パートナーシップ研修(東南アジア)	1・2・3・4休		2		○								兼1 演習及び実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	スポーツが変われば、大学が変わる	1・2・3・4後		1		○								兼1 集中, 全学開設
	創造学群表現学類—OBOG指導によるクリエイティブ体験講座	3・4前		2			○							兼1 集中, 全学開設
	ワーク・ライフ学—男女共同参画とダイバーシティ	1前		1		○								兼2 ※演習, 集中, 全学開設
	次世代起業家養成のための経営・知財必須知識	2・3前		1		○								兼2 ※演習, 集中, 全学開設
	筑波クリエイティブ・キャンプ・ベシク—アントレプレナー入門講座—	1・2・3・4前		1		○								兼3 集中(一部), 全学開設
	筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスト	1・2・3・4後		1			○							兼1 全学開設
	海外語学研修ドイツ語	2・3・4前		3		○								兼1 演習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修中国語A	2・3・4前		3		○								兼1 演習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修中国語B	1・2・3・4前		3		○								兼1 演習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修ロシア語A	2・3・4後		3		○								兼1 演習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修ロシア語B	2・3・4後		3		○								兼1 演習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修ロシア語C	2・3・4後		3		○								兼1 演習・実験・実技, 集中, 全学開設
	囲碁で培う思考力	1・2・3・4後		2		○								兼3 ※演習, 全学開設
	海外語学研修英語A	1・2・3・4後		3			○							兼1 演習・実験・実技, 集中, 全学開設
	グローバル教養I: Learning Strategy	1前		1		○								兼1 ※演習, 集中, 全学開設
	グローバル教養II: Future Leaders Program	1後		1		○								兼1 ※演習, 集中, 全学開設
合計(31科目)		—		53		—								兼48
教職・博物館に関する科	こころの発達	1前・後	1			○								兼6 全学開設
	学習の心理	1後	1			○								兼5 全学開設
	教育心理学	2後	2			○								兼2 全学開設
	現代教育と教育理念	1前・後	1			○								兼1 全学開設
	教育史概論	1前	1			○								兼3 全学開設
	教育社会学概論	1通	1			○								兼3 集中, 全学開設
	教育の法と制度	1後	1			○								兼3 全学開設
	学校経営概説	1後	1			○								兼2 全学開設

道德教育I	2前	1	○	兼3	全学開設
道德教育II	2後	1	○	兼3	全学開設
国語科教育概論I	3前	1	○	兼1	全学開設
国語科教育概論II	3前	1	○	兼1	全学開設
国語科教育演習I	3後	2	○	兼1	※演習, 全学開設
国語科教育演習II	3後	2	○	兼1	※演習, 全学開設
国語科指導法	3後	2	○	兼2	※演習, 集中, 全学開設
英語科教育基礎論a	2前	1	○	兼1	※演習, 全学開設
英語科教育基礎論b	2後	1	○	兼1	※演習, 全学開設
英語科教育概説a	3前	1	○	兼1	※演習, 全学開設
英語科教育概説b	3後	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等英語科教育法Ia	2前	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等英語科教育法Ib	2後	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等英語科教育法IIa	3前	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等英語科教育法IIb	3後	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等社会・地理歴史科教育法I	3前	1	○	兼1	全学開設
中等社会・地理歴史科教育法II	3後	2	○	兼1	全学開設
中等社会・公民科教育法I	3前	1	○	兼1	全学開設
中等社会・公民科教育法II	3後	2	○	兼1	全学開設
社会科地理歴史指導法	3後	1	○	兼1	全学開設
社会科公民指導法	3前	1	○	兼2	集中, 全学開設
地理歴史科指導法	3後	1	○	兼2	集中, 全学開設
公民科指導法	3前・後	1	○	兼2	集中, 全学開設
数学科教育概論I	3前	1	○	兼1	全学開設
数学科教育概論II	3後	2	○	兼2	全学開設
数学教育内容論	3後	1	○	兼1	全学開設
数学授業研究	3前	1	○	兼1	集中, 全学開設
数学科指導法	3前	1	○	兼1	全学開設
数学教材論	3後	2	○	兼1	集中, 全学開設
理科教育概論IA	2・3前	1	○	兼2	全学開設
理科教育概論IIA	2・3前	1	○	兼1	全学開設
理科教育概論IB	2・3後	1	○	兼2	全学開設
理科教育概論IIB	2・3後	1	○	兼1	全学開設
中等理科教育論I	3後	2	○	兼1	集中, 全学開設
中等理科教育論II	3後	2	○	兼1	集中, 全学開設
中学校理科教育論	3前	1	○	兼1	集中, 全学開設
中学校理科教育実践論I	3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
中学校理科教育実践論II	3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
福祉科指導法I	3前・後	3	○	兼2	集中, 全学開設
福祉科指導法II	3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
農業科教育法概論	3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
農業科指導法	3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
技術科教育法概論	2・3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
技術科指導法I	2・3後	3	○	兼1	集中, 全学開設
技術科指導法II	2・3後	3	○	兼1	集中, 全学開設
工業科指導法	3前	4	○	兼1	集中, 全学開設
情報科指導法I	2・3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
情報科指導法II	2・3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
保健体育科教育法概論I	2後	1	○	兼1	全学開設
保健体育科教育法概論II	2後	1	○	兼2	全学開設
保健体育科教育法概論III	3前	1	○	兼2	全学開設
美術科教育法概論I	2・3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
美術科教育法概論II	2・3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
美術科指導法I	2・3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
美術科指導法II	2・3前	1	○	兼1	全学開設
美術科指導法演習I	2・3前	1	○	兼1	全学開設
美術科指導法演習II	2・3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
造形教育論I	2・3・4前	1	○	兼1	全学開設
造形教育論II	2・3・4後	1	○	兼1	全学開設
工芸科教育法概論I	2・3前・後	1	○	兼1	集中, 全学開設
工芸科教育法概論II	2・3前・後	1	○	兼1	集中, 全学開設
工芸科指導法	2・3通	1	○	兼1	集中, 全学開設
工芸科指導法演習	2・3通	1	○	兼1	集中, 全学開設
書道科教育法I	3前	1.5	○	兼1	全学開設
書道科教育法II	3後	1.5	○	兼1	全学開設
書道科教育法特講	3後	1	○	兼1	集中, 全学開設

体育理論の授業づくり	3後	1			○								兼1	全学開設
アダプテッド体育授業理論・実習	3通	1							○				兼2	集中, 全学開設
体育授業理論・実習I	3前・後	1								○			兼3	全学開設
体育授業理論・実習II	3後	1								○			兼3	全学開設
体育授業理論・実習III	3後	1								○			兼2	集中, 全学開設
保健授業理論・実習	3前	1								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(国語)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(英語)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(社会)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(地理歴史)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(公民)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(数学)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(理科)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(福祉)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(農業)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(技術)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(工業)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(情報)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(保健体育)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(美術)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(工芸)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
教育実習(書道)	4通	5								○			兼1	集中, 全学開設
養護実習	4通	5									○		兼2	集中, 全学開設
教育課程編成論	3前・後	1				○							兼3	全学開設
教育の方法と技術	3前	1				○							兼6	全学開設
特別支援教育	3前・後	1				○							兼13	全学開設
特別活動の理論と実践	2後	1				○							兼4	全学開設
生徒指導	3通	1				○							兼5	集中, 全学開設
教育相談の基礎	3前・後	1				○							兼3	全学開設
教育相談の実践	3前・後	1				○							兼3	全学開設
進路指導・キャリア教育	3通	1				○							兼1	全学開設
教職論I	1前	1				○							兼2	全学開設
教職論II	1後	1				○							兼3	全学開設
教育相談	3前	1				○							兼2	集中, 全学開設
教職実践演習(中・高)	4通	2							○				兼1	集中, 全学開設
教職実践演習(養護教諭)	4通	2							○				兼1	集中, 全学開設
総合的な学習の時間の指導法I	2後	1				○							兼1	集中, 全学開設
総合的な学習の時間の指導法II	2後	1				○							兼1	集中, 全学開設
職業指導	3・4通	4				○							兼1	集中, 全学開設
介護等体験の意義	1前	1				○							兼1	集中, 全学開設
情報と職業	2・3・4後	1				○							兼1	全学開設
博物館実習	3・4通	3									○		兼6	集中, 全学開設
博物館資料保存論I	2・3前	1				○							兼1	全学開設
博物館資料保存論II	2・3後	1				○							兼1	全学開設
博物館展示論I	2・3前	1				○							兼1	全学開設
博物館展示論II	2・3前	1				○							兼1	集中(一部), 全学開設
博物館情報・メディア基礎論	2・3後	1				○							兼2	全学開設
博物館教育基礎論	2・3後	1				○							兼1	全学開設
博物館学I	2・3前	2				○							兼2	集中(一部), 全学開設
博物館学II	2・3後	2				○							兼3	全学開設
博物館学III	2・3前	2				○							兼2	集中(一部), 全学開設
合計(125科目)	—	228				—							兼120	
学位又は称号	—	—	学位又は学科の分野				—							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				75分				

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
（人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士前期課程／修士課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学 院 共 通 科 目	応用倫理	<p>Situational ethical principles such as research ethics for research laboratories and medical ethics for hospitals do not always correspond well each other in giving us a clear direction in pursuing the best quality of life in modern society. Rather than taking individual principles for granted, this course attempts to understand how we may disentangle somewhat conflicting ethical principles. In so doing, this course provides unique perspectives to ethical principles by incorporating cultural and historical contexts of human rights and environmental concerns.</p> <p>研究倫理や医療倫理など状況に特化した倫理原理は、必ずしも相互に補完する関係にないため、現代社会の中で最善の質を求めるための明確な指針とはなっていない。こうした絡まった倫理原理を解きほぐすことを試みる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（608 松井健一／7回） Provides perspectives to ethical principles by incorporating cultural and historical contexts of human rights and environmental concerns. 文化や歴史的な文脈から人権や環境に関する問題も含め、応用倫理のための視点を醸成する。</p> <p>（696 大神明／1回） Provides perspectives of industrial doctors and considers ethics related to risks. 産業医の視点からリスクに関わる倫理的な問題を提起する。</p>	集中 オムニバス方式
	環境倫理学概論	<p>Environmental ethics helps us not only think about interpersonal relations in society but also the ones between people and the natural environment. This expansive scope helps us see our daily activities, ethical or not, within ecosystems or biotic communities. This course invites students to think about a need to establish a universally applicable ethical principle/ law for global citizens to tackle with environmental problems. To answer this question, it introduces many environmental ethical ideas related to biodiversity, bioethics, animal rights/ welfare, and household activities.</p> <p>環境倫理は、社会における対人関係だけでなく、人と自然環境の関係について考える助けとなる。こうした広い視野を持つことで、我々は生態系の一部として日々の活動が倫理的かどうかを考えることができる。この授業では、学生に対し世界市民として、環境問題を解決するため、ユニバーサルな倫理大綱や法律を構築する必要性について考えてもらう。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（608 松井健一／7回） Introduces many environmental ethical ideas related to biodiversity, bioethics, animal rights/ welfare, and household activities. 生物多様性や生命倫理、動物の権利・福祉、生活者のための環境倫理を紹介する。</p> <p>（576 渡邊和男／1回） Introduces ethical principles related to international environmental law. 国際法に関する環境倫理原理を紹介する。</p>	集中 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	研究倫理	<p>研究活動に従事する上で踏まえるべき研究倫理の基礎を、具体的事例を交えて講義する。研究不正（FFP）、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスなどを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、科学技術政策、研究助成のしくみ、申請や審査のしくみなどについても触れる。</p> <p>本科目は講義を主体としつつ、講義の間に演習（個別演習・グループ演習）を交互に挟む構成とする。講義においては、研究倫理と研究公正に関連する基本概念を整理すると共に、研究不正（FFP）、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスに関わる問題などを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、学術研究活動を取りまく環境の変化や、科学研究費の申請や審査のしくみなどについても触れる。特に特定不正行為に関しては具体的事例を元にその原因や背景を解説し、受講者が研究活動を行う上で必要な対策について具体的に考える機会を与える。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（617 岡林浩嗣／9回）上記の講義を行う。演習においては、ワークシートを用いて自らの研究活動の構造を分析した上で、研究倫理上の問題点とその背景について討議する。さらに、研究不正を防止するために必要な施策について討議を行い、グループ単位での発表とその指導を行う。</p> <p>（697 大須賀壮／1回）理化学研究所における研究管理状況をふまえて、適切な実験ノートの取り方について講義を行う。また、演習の際に岡林と合同でグループ討議の指導を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 9時間 演習 6時間
	生命倫理学	<p>遺伝子治療、臓器移植、人工臓器、生殖医療、遺伝子診療、薬物やその他の治療法の治験などの現代の医療や医学研究には、インフォームドコンセント、個人の尊厳やプライバシー、脳死判定やリスクマネージメント、治療停止の選択など生命倫理にかかわる多くの問題を含んでいる。現代医療が抱える生命倫理諸問題の基礎知識、基本的考え方を習得するとともに、実例により学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全10回）</p> <p>（467 菅野幸子／1回）テーマとして「生命倫理とその歴史」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（354 柳久子／1回）テーマとして「予防医学における生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（303 西村健／1回）テーマとして「再生医学と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（241 川崎彰子／1回）テーマとして「生殖医療と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（90 杉山文博／1回）テーマとして「動物実験と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（700 木澤義之／1回）テーマとして「緩和医療と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（398 高橋一広／1回）テーマとして「臓器移植と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（705 宗田聡／1回）テーマとして「遺伝学と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（196 我妻ゆき子／1回）テーマとして「国際保健における生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（125 野口恵美子／1回）テーマとして「医学・医療の倫理」について取り上げ、講義を行う。</p>	オムニバス方式
	企業と技術者の倫理	<p>多くの技術者は企業に属し、その中で社会とビジネス的な関わりを持ちながら仕事を行っている。本講義では、具体的事例や現場の声を取り上げながら、企業における技術者の倫理について議論する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（579 掛谷英紀／7回）技術の社会的役割の変遷について講義を行う。併せて、「東日本大震災と今後の防災・エネルギー」、「企業不正のグレーゾーン（Facebook、NHK受信料等）」の2つのグループ・ディスカッションを行い、21世紀の「人に役立つ技術」を考える。</p> <p>（710 西澤真理子／3回）実際の企業現場の事例を取り上げながら、「企業のリスクコミュニケーション」について講義を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 9時間 演習 6時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報伝達力・コミュニケーション力養成科目群	テクニカルコミュニケーション	事実やデータに基づいて行われる情報発信であるテクニカルコミュニケーションを円滑に行うための基本を、講義と演習で修得する。講義では、発信する内容を組み立てるための発想法の活用法、誰にでも一通りに伝えるための文法、レイアウトデザインの基礎理論、文字と絵の役割の違いなどをあつかう。さらに、語彙を豊富にするための演習、物事を数多くの視点から説明するための演習、専門用語に頼らずに内容の本質を伝える演習などを通して、テクニカルコミュニケーションを実践的に学ぶ。	集中 講義10時間 演習 5時間
	英語発表	This course provides an overview of basic techniques for public speaking and presentations in English. Students are then given ample opportunity to practice these techniques in front of the class. 本講義ではコミュニケーションの基礎理論、英語でのパブリック・スピーキング、プレゼンテーションの技術の修得を目標とする。また、学んだ理論・技術を応用活用する経験として、実際に聴衆を前にしたプレゼンテーションをおこなう。	集中 講義10時間 演習 5時間
	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	プレゼンテーションの初歩から中級までを対象とし、異分野学生それぞれによるプレゼンテーションをベースに現代に必要なアカデミックスキルを磨くことを目的とする。参加者が異分野の学生との協働によってアイデアを出し合い、新しいコンテンツの作成に向かって協働することで、異なる領域の知識や技術を互いに理解しコミュニケーション能力を高める。演習トラック毎によって設定する目標を決め、それに従ってコンテンツを実際に作成する。時にドラマレッスンを盛り込む。	集中
	Global Communication Skills Training	Precise communication with people having diverse perspectives and personalities is the key to building relationships, and success. Through practices of communication, including effective listening, effective presentation, assertive communication, we help you learn and practice communication methods. You should be prepared to have open and active class participation and require a certain level of English skill. 対面でのコミュニケーションのスタイルには、人それぞれに個性があります。どのようなコミュニケーションスタイルを持つ相手とも正確に情報を伝達しあうことが、信頼を得て成功するための鍵になります。この授業では、情報を効率よく受け取ったり、正確に話すための練習を通して、コミュニケーション力を高めます。受講するためには、ある程度の英語力が必要です。また、受身ではなく発言や議論を通して積極的に授業に参加することが求められます。	集中 講義 7時間 演習 8時間
	サイエンスコミュニケーション概論	サイエンスコミュニケーション (SC) とは「難しく敬遠されがちなサイエンスをわかりやすく説明することである」という理解はきわめて一面的である。SCの対象は科学技術分野の専門家、非専門家を問わないため、「サイエンスの専門家と非専門家との対話促進」がSCであるとも言いきれない。広い意味でのSCとは、個人々ひいては社会全体が、サイエンスを活用することで豊かな生活を送るための知恵、関心、意欲、意見、理解、楽しみを身につけ、サイエンスリテラシーを高め合うことに寄与するコミュニケーションである。そのために必要なこと、理念、スキルなどについて概観する。	集中
	サイエンスコミュニケーション特論	現代社会は科学技術の恩恵なくして成り立たない。科学技術はわれわれの生活に深く根ざしており、よりよい社会を築いていくためには一人でも多くの人々が科学技術との付き合い方に関心を向けることで、社会全体として科学技術をうまく活用していく必要がある。そのためには様々な立場から科学技術についてのコミュニケーションをし合うことで科学技術を身近な文化として定着させ、社会全体の意識を高める必要がある。このような問題意識から登場したのがサイエンスコミュニケーションという理念である。この理念が登場した背景を知ると同時に、方法論としてはどのようなものがあるのかを議論しつつ、コミュニケーションスキルの向上も目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	サイエンスコミュニケーター養成実践講座	<p>主として、自分の専門の科学を一般の人々にわかりやすく伝えられるコミュニケーション能力の養成を中心に、国立科学博物館の資源や環境を活用した理論と実践を組み合わせた対話型学習を進める。</p> <p>理論面では、サイエンスコミュニケーションとは？サイエンスとは？といった考え方をはじめ、メディア・研究機関・大学・博物館など、各機関・領域で活躍しているサイエンスコミュニケーターの実践を踏まえた理論を学習する。また、様々な人々に科学を伝える際に効果的なプレゼンテーションの方法について学修する。</p> <p>実践面では、ライティングに関する課題を通じた文章の書き方や表現方法の学習、国立科学博物館の展示室における来館者との双方向的な対話を目指し、自らの専門分野についてのトークを作成・改善・実施・考察する。</p>	集中
	人文知コミュニケーション：人文社会科学と自然科学の壁を超える	<p>哲学、歴史、文学、言語学、社会科学、地域研究などの人文社会分野における学術研究の成果をどのように社会に伝え、人々の知的好奇心を呼び起こし、当該学問分野の社会的認知度を如何に向上させるか、その考え方、方法、それらを担う人材に求められる必要なスキルなどについて学ぶ機会を提供する。人文社会分野における「学問と社会を結ぶ」ためのスキルを磨くための内容を含む。加えて、現在発展が著しい人文社会分野における最先端機器を駆使して行う研究は多くの学術的成果を生み出しており、その魅力は計り知れない。このような最先端研究に基づく解析法は自然科学分野の最先端技術を活用したものでもあり、ここに人文社会科学と自然科学の接点があり、分野融合の意義、有用性、重要性を含めた科学の現状を多くの大学院生に紹介するための科目とする意図も企画者側にある。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(538 池田潤／4回) 「文芸・言語学、世界と地域の文化・歴史、世界と地域の社会科学に関する人文社会科学知見に関して、自然科学と最先端科学技術を駆使する成果がどのように活かされているかについて、その相関を俯瞰しつつ解説し、人文社会科学と自然科学・工学的技術の融合の重要性」について講義を行うことで人文社会科学における自然科学基礎的・応用的知的基盤の重要性について学習する。</p> <p>(545 大澤良／4回) 「生物多様性、生物の地理的拡散、有用植物や作物の地理的分布などに関する自然科学的研究成果をベースに、それらが人間及び人間の生活とどのようなかかわりを有してきたかなどの人文社会科学知見を加えて分析し、自然科学と人文社会科学的要素がどのように融合・連関をなしているか、その相関を俯瞰しつつ解説し、自然科学と人文社会科学の融合の重要性」について講義を行うことで自然科学の視点から自然科学の基礎的・応用的知的基盤がいかに人文社会科学に重要な役割を果たしているかについて学習する。</p> <p>(704 白岩善博／2回) 「自然科学研究の成果を基盤に、最先端研究成果を如何に社会に広報、拡散、応用するかなどに関して、サイエンスコミュニケーションやトランスフェラブルスキルを駆使して、自然科学的研究成果が人間及び人間の生活とどのようなかかわりを有してきたかを解説し、自然科学の科学的・技術的成果をどのように社会に導入するかの方法論」について講義を行い、さらにそのスキルアップをどう図るかを学ばせることで、大学院修了後のキャリアパスにそれをどう生かすかに関して学習する。</p>	集中 オムニバス方式
国際性養成科目群	21世紀的中国 ―現代中国的多相―	<p>巨大な隣国である中国は、1976年の文化大革命の終結以降、経済の改革開放政策の成果により、大きな変貌をとげた。21世紀初頭の今、ますます存在感を増した中華人民共和国の現在の諸相を、学生にとって身近な目線で講じる。中国と日本の関わりを実際の動きの中で捉えていくことを目論む。</p> <p>現在中国との関わりの深い筑波大学OBを講師とし、現代中国の文化、社会、経済、環境、日中翻訳など、様々な観点から、現場に立つ講師ならではの姿を描き出す。既成の学問の枠で説明されたものを理解して満足するのではなく、実社会の動きの中で課題を捉え、みずから解決していくために何が必要か、講義中から受講者自身で考えだすことを望みたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際研究プロジェクト	<p>学生自らが海外の大学・研究機関における専門および関連分野の研究計画を企画し実現することで、自身の能力涵養を図る科目である。海外における受け入れ先の開拓、海外渡航の手続き、海外での研究・実習、受入先でのコミュニケーション、海外での生活等を経験することで、英語によるコミュニケーション能力・国際性・研究マネジメント能力の向上を実現する。学習成果をより効果的なものとするため、海外において研究活動を行うだけでなく、実施計画書を基にした事前指導及び帰国後の成果報告書の作成とフィードバックを受けることを必要とする。</p>	
	国際インターンシップ	<p>学生自らが国際的な職業体験（海外の大学におけるPFF体験を含む）や海外の大学・研究機関で主催される各種トレーニングコースを開拓し参加することで、自身の能力涵養を図る科目である。海外における受入先との調整、海外渡航の手続き、海外での職業体験、受入先でのコミュニケーション、海外生活経験を通して、コミュニケーション能力、国際性、キャリアマネジメント能力の向上を実現する。学習成果をより効果的なものとするため、海外において研究活動を行うだけでなく、実施計画書を基にした事前指導及び帰国後の成果報告書の作成とフィードバックを受けることを必要とする。</p>	
	地球規模課題と国際社会:食料問題	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」の中でGoal 2 & 12に関連した、国際社会が直面する「食料問題」について取り扱う。世界の人口動態と食料生産・消費動向、植物育種新技術、食料生産新技術、植物防除新技術などについての講義を通して国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	集中
	地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 13 & 14に関連した、国際社会が直面する「海洋環境変動と生命」について取り扱う。CO2濃度上昇に関わる地球規模環境課題、海洋酸性化、地球温暖化による生物影響、北極・南極の海氷融解などの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（541 稲葉一男／5回）「海洋生物、特に海洋動物に関する形態学、生理学、生化学、分子生物学的手法を駆使した最先端の科学的知見を基盤に、地球規模かつローカルな海洋環境の変化を海洋動物がどのような仕組みで感知するか、さらにその環境変化によってどのような生物学的変化を引き起こすか」について講義を行うことで地球規模の海洋環境変動が生命に与える影響について学習する。</p> <p>（704 白岩善博／5回）「海洋生物、特に海洋植物・藻類の光合成生物や光合成機能を有する微生物に関する形態学、生理学、生化学、分子生物学的手法を駆使した最先端の科学的知見を基盤に、地球規模かつローカルな海洋環境の変化を海洋動物がどのような仕組みで感知するか、さらにその環境変化によってどのような生物学的変化を引き起こすか」について講義を行うことで地球規模の海洋環境変動が生命に与える影響について学習する。</p>	集中 オムニバス方式
	地球規模課題と国際社会:社会脳	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」の中で、主として、Goal 3 & 4に関連するが、社会性や共生という観点から現代に生きる人類に共通する課題とそれに対する取り組みの方向性を提起する先端的な講義を展開する。</p> <p>国際社会が直面する「社会性の変容」に起因する様々な問題を「社会脳」として新たな分野を創成しそれを取り扱う。</p> <p>個別課題として、社会性の発達と環境、社会認知の脳内基盤、高齢者の認知機能などについて講義する。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地球規模課題と国際社会：感染症・保健医療問題	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 3に関連した、国際社会が直面する「感染症・保健医療問題」について取り扱う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(493 福重瑞徳/全5回) 「持続可能な開発目標（SDGs）」、「感染症」、「プロジェクト・サイクル・マネージメント（PCM）手法」をテーマに講義を行い、また、学生はPCMを用いた国際保健に関するプロジェクト形成・発表を行う。</p> <p>(196 我妻ゆき子/全3回) 「国際保健とその歴史」、「人口・リプロダクティブヘルス・栄養」、「慢性疾患とリスク」をテーマに講義を行う。</p> <p>(61 近藤正英/全2回) 「途上国における保健医療問題と優先付け」、「途上国における保健医療制度・医療経済」をテーマに講義を行う。</p>	集中 オムニバス方式
	地球規模課題と国際社会：社会問題	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」を地域自立と振興の観点から全て網羅する課題である「社会問題」について取り扱う。</p> <p>発展と持続性に関し、天然資源、環境保全、及び経済発展を軸として、国家としてのガバナンス、国家間の懸案事項、ボーダーレス社会での“歪み”、非政府組織や先住民族の存在によるグラスルートでの課題対応をグローバルに概論する。</p>	集中
	地球規模課題と国際社会：環境汚染と健康影響	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 3に関連した、国際社会が直面する「環境汚染と健康影響」について取り扱う。</p> <p>国際的汚染問題の概要、ナノ粒子、外因性内分泌攪乱化学物質、環境中親電子物質、エクスポソーム、カドミウム、ヒ素、有機ハロゲン化合物、メチル水銀、トリブチルスズなどの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	集中
	地球規模課題と国際社会：環境・エネルギー	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 7, 9 & 13に関連した、国際社会が直面する「環境・エネルギー」について取り扱う。</p> <p>太陽電池、燃料電池、人工光合成、ナノエレクトロニクスによる省エネルギー、パワーエレクトロニクスによる電力制御、核融合発電などの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	集中
キャリア ア マ ネ ジ メ ン ト 科 目 群	JAPICアドバンストディスカッションコースI-流動化する世界とこれからの日本	<p>最新の社会問題、国際問題、ビジネス上の課題を対象に議論を行うため、産業界のトップリーダーを講師として招聘する。</p> <p>世界が益々流動化する中で日本の現状と課題を再確認すると共に、今後の変化に対応する為になにが必要か検証・議論することで、社会人基礎力として重要なさまざまな能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>事前学習を通じて情報収集力を、授業時間中の議論を通じてディベート力を、レポート作成を通じてまとめる能力を身につける。</p>	集中
	JAPICアドバンストディスカッションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	<p>最新の社会問題、国際問題、ビジネス上の課題を対象に議論を行うため、産業界のトップリーダーを講師として招聘する。</p> <p>グローバルとテクノロジーについて、実ビジネスの観点から議論し学習することで、社会人基礎力として重要なさまざまな能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>事前学習を通じて情報収集力を、授業時間中の議論を通じてディベート力を、レポート作成を通じてまとめる能力を身につける。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	<p>産業化、技術革新、国際化による変化にともない、人々の生活や働き方、人間関係にもさまざまな変化が生まれています。本科目では、さまざまな属性や特徴を有する個人がどのように「仕事と生活の両立（ワークライフバランス）」を図りながら人生を生きるのか、なぜ男女共同参画やダイバーシティ（多様性）を推進する必要があるのか、その方法と意味を理解することを目指します。特に近年のダイバーシティ推進の重要なトピックである「SOGI」「LGBT+」に代表されるセクシュアル・マイノリティについて集中的に授業を行います。</p> <p>くわえて、授業ではダイバーシティ推進に欠かせない実践力（グループワークにより聴く力、伝える力、情報収集力、マネジメント力等）を身につけることも目標とします。</p>	集中 講義7.5時間 演習7.5時間
	ワークライフミックス – モーハウスに学ぶパラダイムシフト	<p>仕事と私生活を調和した新たなビジネススタイルである、「ワークライフミックス」を講義の基本テーマとして取り上げることで、新たな価値創造の基礎となるアントレプレナーシップや、多角的思考からワークライフを捉え、受講者のキャリアマネジメント能力の向上を図る。</p> <p>また、「ワークライフミックス」を実践している企業である「モーハウス」を事例として取り上げることで、ワークライフに関わる物の見方と考え方を習得し、受講生が自分の仕事や今後のライフプランについて、多様な角度から思考できるようにする。</p>	集中
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	<p>気象、地質、岩石、昆虫、植物、菌、微生物、内燃機関といった、「生物」と「地学」を合体した内容をフィールドワーク重視の実習形式で実施することにより、受講者が将来理科教員になった場合に役立つ実践的な実習・実験の高度専門知識を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全6回)</p> <p>(577 上松佐知子/1回) フィールドでの化石探索を通し、地球の歴史に関する実習を行う。 (556 田島淳史/1回) 「食べものを作る動物たち」をテーマに実習を行う。 (600 野口良造/1回) 「内燃機関の原理と組み立て」をテーマに実習を行う。 (546 戒能洋一・47 澤村京一・51 中山剛・71 八畑謙介/1回) (共同) 「生物に関するフィールドワーク」をテーマに実習を行う。 (562 久田健一郎/1回) 「地質調査入門」をテーマに実習を行う。 (573 山岡裕一/1回) 「微生物（菌類）に関するフィールドワーク」をテーマに実習を行う。</p>	集中 オムニバス方式 共同（一部）
	アクセシビリティリーダー特論	<p>障害のある人々が包摂された社会を実現するために、身体障害や発達障害といった様々な障害の理解や支援に関する幅広い講義を行う。また、障害のある人への災害時支援や、障害のある人に役立つ支援技術、諸外国と日本における支援の比較や展開といったマクロな視点や今日的な話題を通して、多様な背景をもつ人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて考える力を身につけることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(99 竹田一則/1回) 「障害児・者支援の理念と背景」について講義を行うことで、障害者支援の現状や歴史的背景、今日的課題について学習する。 (636 野口代/2回) 「障害児・者の現状および支援の流れ、支援体制」について講義を行うことで、支援領域（就学、生活、就職ほか）ごとの支援方法や支援体制について学ぶ。 (253 小林秀之/3回) 「視覚障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、視覚障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 (136 原島恒夫/4回) 「聴覚障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、聴覚障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 (405 名川勝/5回) 「運動・内部障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、運動・内部障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 (227 岡崎慎治/6回) 「発達障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、発達障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(636 野口代／7回) 「障害のある人への災害時支援」について講義を行うことで、障害種別に災害時に留意すべき事項について学習する。</p> <p>(586 佐々木銀河／8回) 「障害のある人に役立つ支援技術」について講義を行うことで、最新の支援機器や支援技術について学習する。</p> <p>(586 佐々木銀河／9回) 「諸外国と日本における支援の比較と展開」について講義を行うことで、国際的な動向を踏まえた障害者のある人へのアクセシビリティについて学習する。</p> <p>(99 竹田一則・28 野呂文行／10回) (共同) 講義のまとめと討論を行うことで、これまでに学んだ障害の特性や、障害のある人のアクセシビリティを支援するための知識を表現できるようにする。</p>	
知的基盤形成科目群	脳の多様性とセルフマネジメント	<p>本学大学院生が産業界や地域社会で自身の能力を十分に発揮できるよう、自己および他者における脳の多様性を適切に理解することを通して、自身の特性に合ったセルフマネジメントスキルを身に付けることを目標とする。</p> <p>講義としては、発達障害から定型発達との連続体として捉えられる「脳の多様性（ニューロダイバーシティ）」について概説する。加えて学業や日常生活において有効なセルフマネジメントテクニック・ツールを紹介する。</p> <p>演習としては、自身にはどのような特性があるかを客観視する個人ワークを行う。また自身の特性に合ったマネジメント方法を身に付ける。さらに社会で活躍する発達障害当事者をゲストスピーカーとして招き、自己および他者における脳の多様性を深く理解するための事例を提供する。</p>	集中 講義 9時間 演習 6時間
	生物多様性と地球環境	<p>本科目では、筑波大学と科学博物館筑波植物園のコラボレーションにより、生物多様性と地球環境についての理解を促進するための講義と展示・フィールドを利用した現場型の生物多様性・地球環境教育についてのフィールド実習を行う。</p> <p>有用植物の進化を実物で見ながら、植物の進化とは異なる人間の手が加わった栽培化シンドロームを実感してもらうことで、生物多様性の実体と生物遺伝資源について、自然科学的・社会的にとらえられるようにすることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全4回)</p> <p>(545 大澤良／1回) 「栽培植物の起源」についての講義と植物園見学を行うことで、多様性研究の意味について学習する。</p> <p>(695 海老原淳／1回) 「生物多様性ホットスポットとしての日本列島」をテーマとする講義と絶滅危惧であるシダ植物園見学・管理実習を行う。</p> <p>(701 國府方吾郎／1回) 「絶滅危惧植物と生物多様性」をテーマに植物園における社会発信と保全の見学、植物登録管理の実習を行う。</p> <p>(561 林久喜／1回) 「作物の多様性」をテーマに講義と実習を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 7.5時間 実習 15時間
	内部共生と生物進化	<p>非常に多くの生物が、恒常的もしくは半恒常的に他の生物（ほとんどの場合は微生物）を体内にすまわせている。</p> <p>このような「内部共生」という現象から、しばしば新しい生物機能が創出される。共生微生物と宿主生物がほとんど一体化して、あたかも一つの生物のような複合体を構築する場合も少なくない。</p> <p>共生関係からどのような新しい生物機能や現象があらわれるのか？ 共生することにより、いかにして異なる生物のゲノムや機能が統合されて一つの生命システムを構築するまでに至るのか？ 共に生きることの意義と代償はどのようなものなのか？ 個と個、自己と非自己が融け合うときになにが起こるのか？ 共生と生物進化の関わりについて、その多様性、相互作用の本質、生物学的意義、進化過程など、基本的な概念から最新の知見にいたるまでを概観することで、そのおもしろさと重要性についての認識を共有することをめざす。</p>	集中
	海洋生物の世界と海洋環境講座	<p>海は地球上の生命の源であり、生物の多様性を生みだしてきた。地球と我々人間を理解するためには、海洋生物に関する知識が不可欠である。</p> <p>本科目では魚類をはじめ、さまざまな海洋生物の体制、生殖、寄生種に関する観察や実験、講義を行うことにより、海洋生物の多様性および海洋環境についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>下田臨海実験センターにて実施することで、研究調査船による採集や磯採集など野外でのより実践的な実習も行う。</p>	集中 講義 4.5時間 実習 21時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	科学的発見と創造性	科学的発見がおこなわれる現場の歴史的状況を再現し、行為者の創造性がどのような形で発揮されたのか、「ハンソンの理論的負荷性」、「ニュートンの林檎と万有引力の理論」、「ゼメルヴェイスによる産褥熱の予防」、「ジョン・ドルトンと化学的原子論」等様々な事例研究を通じて解明する。 科学的発見が単なる偶然でも、幸運でもなく、周到に企図された創造性によるものであることを理解することを目的とする。	集中
	自然災害にどう向き合うか	国土交通省で活躍する有識者を講師として招聘し、災害列島とも言われる我が国の現状及び温暖化等により今後益々増加する災害リスクに対して、社会としてどのように対応するべきかを考える。 「総合的な津波対策」、「大規模土砂災害への対応」、「地震対策」等のテーマを通じて、防災施設の整備の状況、リスク等を踏まえた今後の社会資本整備のあり方について考え方が整理されること、個人や地域の核としての防災対応力を身につけることを目的とする。	
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	「考える」のは人間の特性である。人間は言葉を使って知性によって「考える」。だが「考える」とはどのような営為なのか、東西の哲学がどのように「考え」てきたのかを参照しながら「考える」ことについて「考える」。 (オムニバス方式/全10回) (575 吉水千鶴子/2回) 仏教の思想を参照して「考える」ことについて考える。 (537 井川義次/2回) 中国の思想を参照して「考える」ことについて考える。 (622 千葉建/2回) ドイツ哲学思想を参照して「考える」ことについて考える。 (595 津崎良典/2回) フランス哲学思想を参照して「考える」ことについて考える。 (588 志田泰盛/2回) インド思想を紹介しながら「考える」ことについて考える。	集中 オムニバス方式
	21世紀と宗教	21世紀の現代社会の情勢は宗教と深く関わっており、複雑な国際情勢、テロなどの暴力と対峙せねばならない現代社会において、それを解く鍵ともなる宗教について正しい知識と理解を得ることは重要である。 当科目では、21世紀の現代社会の情勢と宗教とのかかわりについて、いくつかの事例を取り上げながら考察する。 宗教による対立や政治への介入は紀元前の昔から続いてきた人類の課題とも言え、その歴史や背景を正しく知り、現在のグローバルな社会において正しく対応するための知識と理解を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全10回) (549 木村武史/5回) 「先住民族の宗教の関り」について講義を行うことで現代グローバル社会における先住民族宗教の意義について学習する。 (575 吉水千鶴子/5回) 「アジアの民族と宗教の関り」について講義を行うことで現代グローバル社会における伝統宗教の意義について学習する。	集中 オムニバス方式
身心基盤形成科目群	塑造実習	当科目は豊かな心、逞しい精神、豊かな人間力を涵養する大学院生のための塑造の実践講座である。作品鑑賞と、人物モデルを使用した粘土による頭像制作を行う。「デッサン」、「心棒組み」、「大掴みな土付け」、「量塊の構成」、「面と量塊」、「量感豊かな表現、比例・均衡・動勢について」といった制作に関する内容の学習を通して、立体的な形態把握と、これを表現する能力を養うことを目的とする。	隔年
	コミュニケーションアート&デザインA	授業の到達目標及びテーマ：現代アート全般、ビジュアルデザイン全般、陶磁、木工、構成学について概説し各諸分野の位置付けを明らかにする。 (オムニバス方式/全10回) (445 上浦佑太/1回) (1) ガイダンス (50 國安孝昌/2回) (2) 総合造形の研究、(3) 総合造形の教育 (255 齋藤敏寿/1回) (4) 現代の実材主義的な造形	隔年 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(103 田中佐代子/1回) (5) ビジュアル・コミュニケーション・デザイン (314 原忠信/1回) (6) ブランディングデザイン (343 宮原克人/1回) (7) 木工・漆芸 (439 小野裕子/1回) (8) 特殊造形、環境とアート (503 Mcleod Gary/1回) (9) 写真 (445 上浦佑太/1回) (10) 構成学	
	コミュニケーションアート&デザインB	授業の到達目標及びテーマ：環境デザイン全般、ガラス工芸、メディアアート、絵本や漫画について概説し各諸分野の位置付けを明らかにする。 (オムニバス方式/全10回) (527 山本美希/1回) (1) ガイダンス (127 野中勝利/1回) (2) 市民参加によるまちづくり (154 藤田直子/1回) (3) ランドスケープデザイン (373 渡和由/2回) (4) サイトプランニング、(5) 住環境の総合的デザイン (307 橋本剛/2回) (6) 快適な環境、(7) 伝統民家のデザイン (465 鄭然ギョン/1回) (8) ガラス (515 村上史明/1回) (9) メディアアート、テクノロジーと芸術 (527 山本美希/1回) (10) 絵本、マンガ、イラストレーション	隔年 オムニバス方式
	日本画実習	日本の芸術を理解し、生涯において楽しむことのできる豊かな人間性を涵養することを目的とする授業。日本画用の筆・和紙・絵具を用いた作品制作を通して、長い歴史に育まれた日本画への理解を深め、豊かなこころを養う。必要に応じて、日本画の鑑賞について、材料や技法についての講義も織り交ぜる。グローバルゼーションの中においては、世界を意識すると同時に日本の芸術文化に改めて注目し理解することが必要で、当科目はそのきっかけとなる。	隔年
	ヨーガコース	当科目は「ヨーガ行法の体系、歴史、思想（ヨーガの日本文化への貢献）」、「ヨーガの効果」、「社会的意義（環境思想への影響、自然科学思想への貢献）」といったヨーガ思想と技法の講義、「予備体操」、「アーサナ」、「呼吸法」、「冥想」の実習を行うことで、インドが生み出したヨーガを通じて、深く自己を掘り下げる東洋の実践的な身心思想を学び実践する。 健康でかつ不安や絶望に対処できる柔軟な身心と強い意志をもって、よりよい人生を築ける自己を養うことを目的とする。	集中 講義10時間 実習20時間
	絵画実習A	全人的な教養教育として、知識のみならず、自分自身の「手仕事」として「絵を描く」という体験は、作る楽しさや喜びを感じつつ、まさに芸術的感性を磨くことが可能である。 当科目は、芸術を楽しむ豊かな人間性を涵養するため、特に油絵具を使用し、制作・実習をおこなうものである。 様々なモチーフの写生などを通して、絵画表現に対する理解を深め、造形感覚を養うことも目的とする。	隔年
	現代アート入門	なぜこれが芸術なのか、現代アートは一見、普通の生活者に無縁のように感じられることが多い。しかし、難しい現代アートも勉強をすれば、誰にでもわかるものなのだ。そうした基礎的芸術教養を身に付ければ、「無用の用」である芸術は、一人ひとりの人生を豊かにしてくれるものになる。 この授業では、現代アートについて、作家としての体験的視点から、多くのヴィジュアル資料を見せながら、現代芸術の考え方（コンセプト）や大きな流れ（芸術運動史や主要な芸術家や作品）を知り芸術への理解を深めることを目的とする。対象は19世紀末から21世紀の現在までとする。	隔年
	大学院体育Ia	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	大学院体育Ib	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Ic	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIa	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIb	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIc	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIa	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	大学院体育IVa	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IVb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IVc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Va	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Vb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Vc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学術院共通専門基盤科目	研究のビジュアルデザイン	<p>研究成果を効果的に発表するために必要なビジュアルデザインの基本的な知識や技術を、PowerPointやExcelによる演習課題の制作を通して学ぶ。人間の心身及び諸活動に関する研究成果を効果的に発表するために必要なビジュアルデザインの実践力を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(103 田中佐代子/8回) ビジュアルデザイン全般について講義を行う。 (417 三輪佳宏/1回) プレゼンテーションの構成について講義を行う。 (390 小林麻己人/1回) 研究者による実践例について紹介し講義を行う。</p>	オムニバス方式
	スポーツ芸術表現学への招待	<p>スポーツを題材とした「スポーツ芸術」について、アートのみならずサブカルチャーや文芸など、多様な領域におけるスポーツ芸術の表現について学ぶ。 各回のテーマは以下のとおり。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(24 太田圭/3回) オリンピック芸術競技、スポーツ芸術、リボン・アートボールプロジェクト (257 嵯峨寿/2回) スポーツと文化 (296 寺山由美/1回) ダンスにおける「表現」 (97 田島直樹/1回) 版画と現代美術における身体を使った芸術 (26 大原央聡/1回) 彫刻とムーブマン (709 中谷日出/1回) 文化としてのスポーツ (699 大野益弘/1回) オリンピックとアート</p>	オムニバス方式
	世界遺産を科学する	<p>世界遺産保護における課題と解決方法を自然科学、人文社会科学の視点から講述する。美術史、政策、観光、保存科学、景観保護、自然保護など世界遺産を対象に多様な切り口から知識と総合的な視座を獲得する。同時に国内外の世界遺産における国際協力の事例と手法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(192 吉田正人/1回) 自然保護と自然遺産 (20 上北恭史/1回) 遺産整備計画 (55 黒田乃生/1回) 文化的景観 (165 松井敏也/1回) 保存科学 (179 八木春生/1回) 東洋美術史 (211 伊藤弘/1回) 開発観光計画 (426 池田真利子/1回) 国際遺産学 (286 武正憲/1回) エコツーリズムと自然保護 (464 下田一太/1回) 建築遺産 (698 稲葉信子/1回) 国際協力</p>	オムニバス方式
	研究者のための学術情報流通論	<p>自らの専門分野の学術情報流通と評価を見つめなおし、他分野の研究評価の在り方を知ることで、学術全般についての意識を高めるとともに、研究と学術情報流通のあり方についてマクロに考える。</p> <p>(オムニバス方式/全5回)</p> <p>(16 逸村裕/2回) (1)学術情報流通とは (16 逸村裕/2回) (2)研究評価と学術情報 (16 逸村裕/2回) (3)学術情報の変遷 (714 宮入暢子・16 逸村裕/2回) (4)学術情報流通の現状と未来像1 (714 宮入暢子・16 逸村裕/2回) (5)学術情報流通の現状と未来像2</p>	オムニバス方式
	音響メディア情報	<p>社会における音の課題（音声コミュニケーション、音環境、聴取と認知など）について学び、音楽やメディアアートといった応用的な事例の検討を通じて、実社会におけるコミュニケーションのユニバーサルデザインを考える。</p> <p>(オムニバス方式/全5回)</p> <p>(477 寺澤洋子/1回) (1) 聴覚とデジタルメディア</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(477 寺澤洋子/1回) (2) 音声言語とコミュニケーション (145 平賀譲/1回) (3) 音のパターン認知と音楽 (214 内山俊朗/1回) (4) メディアアートにおける音とインタラク (630 善甫啓一/1回) (5) 空間音響と音環境	
	こころの神経科学	<p>「こころ」を理解するための神経科学的研究の手法と成果について学習し、社会への応用の可能性を考える。専門学問領域の修得を深めるために、分野横断的融合型研究の視点を活用する豊かな発想を養う。</p> <p>分子から精神までを網羅するニューロサイエンスの基礎を学ぶことにより、こころの理解に向けての分野横断的視点や考え方を学ぶことができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回) (96 武井陽介/1回) 神経科学の基礎について講義を行う。 (4 綾部早徳/1回) 感覚と知覚の神経科学について講義を行う。 (357 山田一夫/1回) 記憶と学習の神経科学について講義を行う。 (524 山田洋/1回) 意欲と情動の神経科学について講義を行う。 (169 松本正幸/1回) 意思決定の神経科学について講義を行う。 (509 水挽貴至/1回) 精神疾患の神経科学について講義を行う。 (227 岡崎慎治/1回) 認知機能障害の神経科学について講義を行 (279 高橋阿貴/1回) 攻撃性の神経科学について講義を行う。 (34 小川園子/1回) 社会性の神経科学について講義を行う。 (642 岩木直/1回) 人間工学と神経科学について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	人間総合科学基礎論	人間総合科学学術院の各学位プログラムの学生が、持ち回りで、各自の研究テーマや学位プログラムの学問領域の特徴をプレゼンし、履修者全員で議論することにより、自身の専門とは異なる分野の研究に関する基礎知識、研究手法、物の見方、考え方を学ぶ。この演習を通して、分野融合的視点を身につけることにより、人間に関する総合的理解を深め、探究心に磨きをかける。各学位Pの後期課程学生が、プレゼン指導やディスカッションのファシリテーターの役割を担うTFとして参画する。	
	武道学	<p>わが国の武道文化は、広く世界に広がり、異文化の中で興味関心を持って受け入れられている。本授業では、まずその現状についていくつかの事例を参照しつつ学ぶ。</p> <p>また、異文化の中で、わが国の武道が興味関心を持って受け入れられている背景には、身体運動文化としての、そして精神文化としての武道文化の特異性がある。本授業では、映像資料も援用しつつ身体運動文化としての概要を学ぶとともに、武道の精神性について古典文献の講読を通して考える。</p>	
	健康増進学特講	加齢に伴う生活機能の変化と健康との関連に基づき、健康増進(サクセスフルエイジング)に必要なトレーニング法、生活実践法などについて講義する。一般健常者、高齢者、有患者に対する運動処方についても講義する。学習目標は、中年期から高齢期までのヘルスプロモーションのあり方および加齢にともなう体力(生活機能)の低下と健康との関連について理解することである。特に、サクセスフルエイジング、元気長寿のための運動プログラム、中年期における体重管理の意義、健康におよぼす運動習慣化の効果、保健指導の問題点と健康支援の重要性、統計データから読み解く高齢者問題、生活機能、身体機能と介護予防の関係、認知機能と介護予防の関係、心理社会機能と介護予防の関係について学ぶ。	
	トレーニング学	スポーツトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定法、課題解決法や手段の選択・創造法、時間資源と時系列的な関連性を考慮した計画立案法、効果的なトレーニング実践法、トレーニング効果のアセスメント法に関する理論を理解し、高度なトレーニング実践を展開できる知を学習する。また、トレーニング学独自の学領域としてのオリジナリティーとその研究方法論について学んでいく。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Olympic and Paralympic History (オリンピック・パラリンピック史)	オリンピック競技会、パラリンピック競技会の歴史について、その始まりと発展過程について今日の課題とともに学ぶ。授業計画は次のとおり。(1)古代オリンピックの起源と展開について、(2)ネメア競技祭の復興と展開について、(3)イギリスと近代ギリシャにおける古代オリンピック復興、(4)近代オリンピックの展開、(5)日本におけるオリンピック競技会の歴史、(6)ストックマンデビル競技会の創設、(7)パラリンピック競技会の創設と発展、(8)日本におけるパラリンピック競技会の歴史、(9)筑波大学とオリンピックの歴史。	
	心理統計学特講	心理統計学をはじめ統計学や教育測定学に関する最近の文献を題材にして講義を行い、心理統計学、統計学、教育測定学に関する理解を深める。また、講義で学んだ分析手法等を実際にデータに対して適用してみることを通して、受講者が、自らの研究において、当該手法等を利用できるようにする。	
	社会医学概論	<p>人びとの健康に寄与する要因が多岐にわたること、人びとの健康を増進するには学際的な取り組みが欠かせないことを理解することを目標とする。社会医学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(15 市川政雄/3回) 社会と健康について概説する。 (425 伊藤智子/1回) 家族介護について概説する。 (G32 田宮菜奈子/1回) 地域ケアにおけるヘルスサービスリサーチについて概説する。 (351 森田展彰/1回) 精神保健の実際(家庭内暴力)について概説する。 (431 大谷保和/1回) 精神保健への心理学的アプローチについて概説する。 (63 斎藤環/1回) コミュニティケアとオープンダイアログについて概説する。 (185 山岸良匡/1回) 生活習慣病の疫学について概説する。 (354 柳久子/1回) 小児期からの生活習慣病予防について概説する。 (196 我妻ゆき子/1回) 国際保健学について概説する。 (58 五所正彦/1回) 医学研究のための生物統計学概論について概説する。 (482 Togoobaatar Ganchimeg/1回) 母子保健について概説する。 (493 福重瑞徳/1回) 国際感染症学について概説する。 (500 堀愛/1回) 産業保健について概説する。 (61 近藤正英/1回) 医療経済学について概説する。 (262 笹原信一郎/1回) 長寿医学について概説する。 (429 大井雄一/1回) 産業精神医学・宇宙医学について概説する。 (157 本田克也/1回) 法医学について概説する。 (467 菅野幸子/1回) 法医学について概説する。</p>	オムニバス方式
	医科学セミナーⅠ (ブレインサイエンス)	<p>分子神経生物学からシステム脳科学および臨床医学にわたる様々な神経科学の分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、研究の最前線を知るとともに、神経科学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。</p> <p>トピック：脳、神経、病気、精神、パーキンソン病、自閉症、統合失調症、ロボットスーツHAL</p>	
	医科学セミナーⅡ (医科学, 生化学)	<p>生化学, 分子生物学の分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、研究の最前線を知るとともに、生化学, 分子生物学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。</p> <p>トピック：代謝、DNA複製、転写、翻訳、遺伝子発現制御、細胞周期、アポトーシス、がん</p>	
	医科学セミナーⅢ (免疫学)	<p>免疫学の分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、研究の最前線を知るとともに、免疫学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。</p> <p>トピック：免疫系は生体を異物から防御するための必須の機構であるが、一方でアレルギーや自己免疫のように不都合な反応も起こしうる。学生を研究者の卵として位置づけ、学外の免疫学研究者の最先端の研究に触れることによって研究に対するモチベーションを高め、また今日の免疫学研究の現状と動向について考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医科学セミナーⅣ（プライマリ・ケア）	プライマ・ケアや保健医療福祉の現場で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、現場の最前線を知るとともに、プライマ・ケアや保健医療福祉の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。 トピック：プライマ・ケア、保健医療福祉	
	医科学セミナーⅦ（臨床研究セミナー）	疫学や生物統計学に関する講義の補完として、疫学や生物統計学分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、現場の最前線を知るとともに、疫学や生物統計学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。また、原著論文を担当を決めて紹介し、セミナー形式にてディスカッションすることで学習効果を高める。 トピック：疫学、生物統計学	
	医科学セミナー基礎	医科学研究全般（生化学分野・分子生物学分野・細胞生物学分野・脳神経科学分野・免疫学分野・人を対象とする医学系研究分野など）にわたる最新の話題を第一線で活躍する研究者が紹介する。当該研究者は、担当教員が毎回ゲストとして招く。医科学（生化学分野・分子生物学分野・細胞生物学分野・脳神経科学分野・免疫学分野・人を対象とする医学系研究分野など）に関する現状と課題について理解する能力と、さまざまな観点から論じる能力を身につけることが可能となる。	
	神経科学先端セミナー	遺伝子、分子、細胞、組織、生理、システム、数理、行動、認知、応用、支援など、ニューロサイエンスの各領域の先端的研究について、担当教員が毎回ゲストとして招く研究者によるセミナー講演を通して学ぶ。最新の研究手法や理論についての知識を深めるとともに、講師とのインフォーマルディスカッションを通して、生命科学、行動科学、情報科学、社会科学を架橋するニューロサイエンスの醍醐味、面白さを学び、ヒトのこころの理解を目指す人間科学の研究者としての視野を広げる。	
	教育学理論研究	教育学研究を展開する上で、関連する学問分野の理論的な基礎を学ぶ。「教育」に関わるテーマを研究するのは教育学だけでなく、関連領域として様々な学問分野においてもテーマとなりえる。そのため、様々な学問分野における基礎的な理論や方法について学ぶことで、教育学研究を進めるための視野を広げ、複眼的な視点から教育学を研究する素養を身に付ける。具体的には、教育をテーマにした以下の学問分野における研究から教育学への知見を導く。教育学と思想・哲学/歴史学/外国研究/地方行政学/政治学/社会学/経営学/法律学/文化人類学/福祉学の各学問分野が検討される。	
	次世代教育開発研究	次世代教育開発をテーマに、最新の教育時事の理論的検討やディスカッションを行う。本学が定める汎用コンピテンスである「知の活用力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「チームワーク力」「国際性」、及び、教育学（前期）学位プログラムの専門コンピテンスである「教育課題発見能力」「教育内容探究能力」「教育的分析能力」「教育課題解決能力」の基礎を培うことを目標とする。具体的には、『Society 5.0 に向けた人材育成』に関わる理論や国内外の実践事例等を中心に広範に調査し、学校教育、キャリア教育、教育工学など多様な視点から分析的・総合的な検討を受講者間の議論を通して行う。	
	Theory of International Education	国際教育に関する諸問題を多角的な視点から理解し、またその論点について十分な知識をもとに論じることができるようになることを目標とする。授業では、国際教育に関する諸問題について、国際教育開発及び国際教育協力、国際理解教育、グローバル化の中での高等教育の変容などを事例として考察し、国際教育及び教育の国際化をめぐる今日的な動向及びその論点について理解を深める。英語によって授業を行う。	
	Research Foundation	This course is the introduction to academic research and publishing. The goal is to acquire basic knowledge and skills required for researchers. It showcases some of the research projects in a variety of domains, and addresses some of the important topics in research activities, such as documentation, research ethics, brainstorming, collaboration, and presentation. We also show some of the useful tools for researchers.	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>まず、それぞれの担当教員が専門とする研究領域を紹介し、研究テーマの設定方法や調査・実験の方法、研究成果の公表方法などの特徴について解説する。その後、修士論文執筆を最終目標として、文書作成、研究倫理、ブレンストーミング、協調作業、プレゼンテーションの5つのテーマについて学ぶ。（取り上げるテーマの順番は変更になる可能性がある。）さらに、研究の遂行と論文作成のために有用な各種のツールの使い方を演習を通して学ぶ。これらを通して、研究者となるための基礎的知識と技能を身に着ける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(177 森嶋厚行/2回) (3) 研究倫理1: 研究領域紹介(情報数理分野)、研究不正・研究倫理とは、INFOSS情報倫理、(4) 研究倫理2: APRIN e ラーニングプログラム、論文剽窃チェックツール、倫理申請書の作成 (206 李昇姫/2回) (5) ブレンストーミング1: 研究領域紹介(日本図書学)、ブレンストーミングの進め方、(6) ブレンストーミング2: ブレンストーミング後の情報整理、アイデアの整理と創出 (244 金尚泰/2回) (9) プレゼンテーション1: 研究領域紹介(HCI分野)、ポスター・スライド作成・口頭発表の技法、(10) プレゼンテーション2: 各種ツールの高度な利用法 (270 上保秀夫/2回) (1) 文書作成1: 研究領域紹介(メディア情報学)、学術論文とは何か、論文の構造、(2) 文書作成2: LaTeX、Mindmeister などの使い方、研究計画書の作成 (460 Sarcar Sayan/2回) (7) 協調作業1: 研究領域紹介(コンパイラ構成法)、データ共有、(8) 協調作業2: コミュニケーションツール</p>	
情報アクセス		<p>大量の情報へのアクセスは、ビッグデータ時代の鍵となる技術であり、その重要性は益々増大するばかりである。本講義では、情報アクセスの中心的な技術である情報検索、情報管理・統合技術、自然言語処理について、最先端の技術動向を交えながら説明する。これらの領域における最先端の話題として、WWWを舞台としたコレクティブインテリジェンスや共創知、クラウドソーシング、ソーシャルメディアにおける情報統合についても解説し、情報アクセス技術のこれまでとこれからの研究や社会応用の展望について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(71 佐藤哲司/4回) (1) 情報アクセス概説、(2) ソーシャルメディアの情報アクセス、(3) 情報アクセスとユーザプロファイル、(4) ウェブサイエンスの発展 (177 森嶋厚行/3回) (5) クラウドソーシングにおける情報管理と統合、(6) クラウドソーシング設計の構成要素、(7) クラウドソーシング設計の戦略 (276 関洋平/3回) (8) コレクティブインテリジェンスと共創知、(9) 自然言語処理技術を利用した情報アクセス、(10) 情報アクセスの評価</p>	オムニバス方式
カウンセリング方法論基礎 I		<p>広義のカウンセリング領域における基本概念整理を行い、文献検索による課題の絞りこみや様々な研究方法の概要について習得する。本科目においては広義のカウンセリング領域について基本概念や方法等を学ぶことにより、人間の心身及び諸活動に関する幅広い知識と総合的視座を身に付けることを目的とする。他領域の学生にとっても、知識の習得、文献検索、研究方法の修得などから専門知識及び専門技能に必要な倫理を学ぶことが可能となる。</p>	
リハビリテーション方法論基礎 I		<p>目的・ねらい：修士論文作成のために関連分野の基礎的な研究方法の概要を理解し、論文作成の基本について理解を深める。 授業概要：研究方法の基礎として、研究デザイン、学術論文の要件、臨床研究の倫理、実験計画法、調査法、観察法、面接法、質的研究法、事例研究法、文献研究法、検査法などについて概説する。 キーワード：生涯発達、生涯発達科学、研究デザイン</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(全教員/2回)：全体オリエンテーション(2回) (353 八重田淳/1回)：プログラム評価法 (263 佐島毅/1回)：調査的面接法 (44 川間健之介/1回)：尺度構成法 (188 山田実/1回)：医学リハ研究法</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(36 小澤温／1回)：社会福祉調査法 (448 河野禎之／1回)：心理研究法 (403 徳竹忠司／1回)：臨床研究法(1) (406 濱田淳／1回)：臨床研究法(2)	
	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な方法論について概説する。各自の研究計画の実現に向けて、研究デザインと科学的方法の客観性を担保する方法基礎論を理解し、文献や資料のオンライン検索の方法を学ぶ。また、社会調査法の一般的な手順を概説する。さらに、調査や実験データの分析法・検定法などの統計手法について、分析や検定結果の解釈法について文献を用いて理解したり、実際に統計解析ソフトを用いながら理解を深める。 (オムニバス方式／全10回) (170 水上勝義／2回) 修士論文や特定課題研究報告書における先行文献や資料の役割を学び、それらの収集方法、特にオンライン検索について講義する。 (32 尾縣貢／2回) 論文の書き方及び論文完成までのロードマップと論文の全体像について講義する。 (47 菊幸一／2回) 研究テーマの設定及び研究デザインの具体化について講義する。 (267 柴田愛／2回) 論文の文章表現の仕方、図表の作成の仕方、文献検索の方法、引用の仕方など、論文作成のルールについて講義する。 (372 渡部厚一／2回) 研究倫理の考え方と活用法について講義する。	オムニバス方式
	大学を開くデザインプロジェクト A	複数の教員がプロジェクトを立ち上げ、多様な学生でチームを組み、地域や大学の協働者・依頼者とともに、アート・デザインの手法を使った地域貢献・大学貢献を実践的に行う。短期・長期留学生の参加を歓迎する。 本科目においては、チームごとにプロジェクト対象地域や施設の調査を通して課題を探り、提案のアイデア出しを行い協働者と共有する。その後、課題や提案をまとめ、全教員と全チームで合同発表会を行う。	共同
	大学を開くデザインプロジェクト B	複数の教員が立ち上げたプロジェクトについて、多様な学生のチームが地域や大学の協働者・依頼者とともに、アート・デザインの手法を使った地域貢献・大学貢献を実践的に行う。短期・長期留学生の参加を歓迎する。 本科目においては、チームごとに協働者とプロジェクトの試行や実装実験とワークショップ等の実践を行う。その後、実践の結果と課題をまとめる。	共同
	大学を開くデザインプロジェクト C	複数の教員が立ち上げたプロジェクトについて、多様な学生のチームが地域や大学の協働者・依頼者とともに、アート・デザインの手法を使った地域貢献・大学貢献を実践的に行う。短期・長期留学生の参加を歓迎する。 本科目においては、チームごとに協働者とプロジェクトの実装および制作などの実践を行う。その後、提案と実践の課程および成果や課題をまとめ、全教員と全チームで合同発表会を行う。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育学 関連科目	日本教育史特講	日本教育史のベーシックな知見を習得しながら、歴史的視野から教育や学校の系譜について説明することができるようになるのが目標である。前近代および近代以降の日本の教育や学校について巨視的に概観し、ナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムの概念とその視点を獲得しながら整理する。具体的には、日本教育史およびナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムに関する基礎的な文献を講読し、受講者による発表と討議によって検討する。	
	日本教育史演習	日本教育史に関する論文・資料に習熟しながら、歴史的視野から教育や学校について思考し、展望することができるようになるのが目標である。ナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムの研究成果にも学びつつ、近現代日本の教育や学校について多角的に再検討を加え、専門的な知見を深めていく。具体的には、日本教育史およびナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムに関する専門的な文献を、受講者による発表と討議によって検討する。	
	教育哲学特講	個性の育成と社会性の育成をはじめとした、教育を取り巻く価値の二項対立に注目しながら、現代の教育に関わるさまざまな問題と、教育のあり方とを検討していく。具体的には、多文化教育論、教育目的論、教育財の分配論、学校選択制を含む教育政策、ジョン・デューイの教育論、価値多元的社会的社会統合論等を検討対象とする。その際、近代教育理論・教育思想、特にリベラリズム思想に課題解決の糸口を求めていき、問題の本質を深く探究していく。授業の到達目標は、①授業で取り上げる現代の教育課題について他者と討議することができる。②個性の伸張と社会性の育成の両立の課題について、近代教育理論・教育思想をふまえて考察し、自らの考えを論述できる。の2つとする。	
	教育哲学演習	個人の自由の拡大と社会の維持・発展を担う市民性の育成という、対立的要素を含んだ二つの教育目的をいかに両立させるか、という近代教育が抱える課題について、現代の教育に関わる多様な問題を取り上げながら、考察する。具体的には、学校教育における対話の位置、子どものための哲学実践、シティズンシップ教育思想、熟議民主主義的教育論、近代教育批判としてのフェミニズム思想、教育の国家関与と家庭の問題等を検討対象とする。その際、近代教育理論・教育思想、特にフェミニズム思想に課題解決の糸口を求めていき、問題の本質を深く探究していく。授業の到達目標は、① 授業で取り上げる現代の教育課題について他者と討議し、自分の考えを整理してまとめることができる。② 教育における現代的課題を自ら発見し、その課題の解決法について自らの考えを論述し、わかりやすくプレゼンテーションできる。の2つを目標とする。	
	生涯学習・社会教育学特講	近年における社会教育・生涯学習をテーマとした最新の研究動向を理解し、基礎的な理論と方法を習得することを目的とする。具体的には、社会教育・生涯学習をめぐる学習理論研究、歴史研究、法制度の改正を踏まえた政策動向、地方自治体における生涯学習行政、住民自治や市民活動の展開、社会教育施設をめぐる実践動向など、受講者の関心に基づいた先行研究を取り上げ、討議によって検討を行う。このことを通じて社会教育・生涯学習の研究的視点を習得し、幅広い知識と方法論を身に付ける。	
	生涯学習・社会教育学演習	社会教育・生涯学習の公教育としての意味について検討することで、歴史的に構築されてきた「権利としての社会教育」の思想についての理解を深める。学校教育と並び社会教育が公教育として制度化された背景には、社会教育・生涯学習が「権利」として捉えられてきた背景がある。こうした理論的基盤を構築してきた基本文献を講読する。具体的には、乗杉嘉壽、吉田熊次、春山作樹、下村湖人、小尾範治、川本宇之介、宮原誠一、平沢薫、吉田昇、津高正文、小川利夫、藤岡貞彦、小林文人、島田修一ら戦前から戦後初期にかけて社会教育研究における理論構築を担った基本文献を検討する。検討を通じて、権利としての社会教育・生涯学習の今日的意味と公教育の役割について考察を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育制度学特講	学校間の移行と接続、教育制度論におけるアーティキュレーションの意義と課題について、学術的な研究に基づき説明できることを目標とする。具体的には、教育制度論におけるアーティキュレーションにかかる国内外の先行研究を取り上げ、学校間の移行と接続について、その意義（なせ必要なのか）、内容（接続において何が問われるのか）、課題（克服すべき点）などに関する学術的成果を概説する。具体的な内容は、学校体系の基本理論、小1プロブレムにおける日本の問題状況、「接続期」の設定とその意義、義務教育学校、中等教育学校、諸外国の改革動向などである。	
	教育制度学演習	今日の我が国及び諸外国の教育改革における資質・能力論の現状とその理論的根拠について学術的研究に基づき説明できることを目標とする。具体的には、今日、我が国及び諸外国の教育政策において、資質・能力（コンピテンシー）論に基づく改革が主流となりつつある。そうした中で、現状の改革動向を踏まえたうえで、その理論的根拠がいかなるものかを、関係文献の読解を中心に検討する。具体的には、奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』、国立教育政策研究所『資質・能力[理論編]』、OECDのキー・コンピテンシー論、グリフィン他『21世紀型スキル』とファデル他『21世紀の学習者と教育の4つの次元』である。	
	学校経営学特講	学校経営に関する理論、現代的動向、及びこれからの研究課題について理解し考察することをテーマとする。学校経営の理論と現代の政策と実践の動向について理解を深めた上で、様々な視点や問題意識をふまえて、今後必要とされる学校経営研究の課題について考えることができるようになることを目標とする。具体的には、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の学校経営に関する理論と現代的課題について学び、学校経営に関する研究の成果と課題について討議をおこなう。まず、学校経営に関する基礎理論およびその歴史的展開過程を、代表的な文献の講読を通じて理解する。次いで、小学校・中学校・高等学校の学校経営についての政策と実践に関する様々な文献や調査報告書等を参照しながら、現代的な課題について討議する。それらを踏まえて、これまでの学校経営研究の成果を確かめ、今後求められる研究課題について考える。	
	学校経営学演習	学校経営研究の展開、動向、実際について理解、考察することをテーマとし、学校経営研究の動向、実際、今後の課題について理解し、様々な視点や背景をふまえて、学校経営研究の今後の展望等について論じられるようになることを目標とする。具体的には、学校経営に関するこれまでの研究の展開、学校経営をめぐる最新の研究、諸外国で行われている研究の動向を検討する。小学校、中学校、高等学校を対象とした研究も検討する。研究者の背景や特徴も捉えつつ、文献等を分析し、学校経営研究をめぐる成果、課題、展望について議論、考察する。	
	比較・国際教育学特講	この授業では比較教育研究の理論と実践をテーマとし、比較教育研究の方法論を学び、多様な教育問題を多様なアプローチで研究できることを把握することを目標とする。具体的には、比較教育学研究は地域、国、言語圏、また研究の主体と対象によってアプローチが異なることについて検討する。欧米諸国、東洋諸国、旧ソ連諸国における研究方法の特徴を整理する。理論書を基に、比較教育研究の目的、意義、対象、方法について学び、具体的な実践例を分析し、検討する。授業形態は講義、学生の個別発表とグループディスカッションである。	
	比較・国際教育学演習	この授業では比較教育学研究における量的研究と質的研究の方法論を学び、比較教育学研究の国内外の動向を把握する。全体を通して、比較教育学研究における論文の書き方を学ぶことを目標とする。具体的には、『比較教育学研究』と“Comparative Education Review”に特集として編成されている研究論文の検討分析を行い、比較教育学研究の量的研究と質的研究の方法論を整理する。日本語と英語で書かれる論文の特徴を検討し、論文の書き方を学ぶ。	
	道徳教育学特講	道徳教育に関する基礎的知識を確認した上で、道徳教育学研究に資する論文や著書等の文献講読を行う。具体的には国内外の先行研究の動向を調べ、収集できる論文等の読解を通して、道徳教育学分野における先行研究の動向把握を行ったり、自己の問題関心の掘り起こしを試みたりする。あるいは、道徳教育学研究における本質的な問いや考え方などについて考えるために有益な著書を選択し、それを精読することで改めて道徳教育学に関する問題等について掘り下げて検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	道徳教育学演習	各自、道徳教育に関する基礎的知識を踏まえた上で、道徳教育学研究における先行研究群の中から、各自、もっとも関心をもった課題やテーマ等に焦点を当てて、読み込みや関連資料の収集等を行う。演習ではとくに、先行研究に対する批判的検討を心掛ける。受講者はこの課題に取り組むことを通して、各々の研究構想を立てていく。授業の後半では、各々が着想した課題やテーマ等について受講者同士で発表し合い、質疑応答を繰り返しながら構想を固めていけるようにする。なお、研究構想を立てる際は、国内の道徳教育学研究だけでなく、世界的な価値教育の動向や現代的諸課題等についても触れながら、できるだけ国際的な視野に立った道徳教育学研究を目指せるよう努める。	
	カリキュラム論特講	カリキュラムに関する研究動向と今後の課題の分析、検討を通して、この分野の基本的理解を深めることを目標とする。そのため、学段階の教職科目の内容など、教育課程や学習指導要領に関する基礎知識を確認しつつ、より広範なカリキュラム研究における今日の多様な動向を理解する。具体的には、教職科目の各種テキストや教育学関連事典類の比較検討、日本カリキュラム学会をはじめとする専門諸学会の機関誌掲載論文などの講読を行う予定である。	
	カリキュラム論演習	新しい教科の研究開発や教科再編を軸とした演習を通じ、カリキュラム開発に関する専門的理解を深めることを目標とする。いわゆるカリキュラムのユーザーからメーカー、ひいてはマネジャーへと、認識の移行や拡大を促し、この分野の知見を深めるねらいがある。具体的には、文部科学省の研究開発学校や教育課程特例校に代表される、各種研究開発の事例を検討し、その成果と課題にもとづいた新教科の研究開発を試みる。受講者による課題への取り組みと発表が中心となる予定である。	
	教育方法学特講	教育方法学に関する文献講読を通して、研究動向と課題について考察する。これらを通じて、学習指導や授業分析に関する基礎的な知見を習得できるようになることを目標とする。具体的には、学習指導スキルに関する諸理論について、文献を読み進めながら発表および討論を行う。また、学校現場における授業観察や学習補助にも携わることがのぞまれる。これらの取り組みを通じて、理論構築ならびに実践研究のデータ収集をあわせて行う。	
	教育方法学演習	受講者各自の発表と討論を通して、教育方法学に関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学分野で修士論文を執筆する際の応用的知見を習得できるようになることを目標とする。具体的には、授業分析および指導効果要因に関する理論等、受講者各自の関心のあるテーマについて、発表および討論を行う。また、学校現場やビデオにおける授業観察を取り入れ、授業分析の実際にも携わる。これらの取り組みを通じて、研究方法論の基礎についても習得できることを期待したい。	
	キャリア教育学特講	今日のキャリア教育推進施策の特質と課題を明らかにすることを通して、今日的な研究課題についての理解を深めることを目標とする。具体的には、キャリア教育に関する基礎的な理解を前提としつつ、今日のキャリア教育推進施策関連文書を読み解くことを通して、キャリア教育分野の研究課題を検討する。	
	キャリア教育学演習	「キャリア教育学特論Ⅰ」を通して培った今日的な研究課題に関する理解を前提として、学校におけるすべての教育活動を通じたキャリア教育の実践の在り方について理解することを目標とする。具体的には、2017（平成29）年版学習指導要領に基づきつつ、すべての教育活動を通じたキャリア教育の指導計画の策定及びその実践の在り方を検討する。	
	教育社会学特講	最新の教育社会学研究のリーディングスの講読を通じて、グローバルに展開される教育社会学研究の多様な視座を身に着けることを目的とし、国内外の教育社会学の多様化する研究領域・理論的視座・方法論を学ぶ。具体的には、主にJenny Ozga編著『Sociology of Education』（Sage）を使用し、いくつかの論文を選び講読し、討論する。適宜、関連する日本語文献も紹介しながら、1) 教育社会学の理論と方法、2) 教育政策、3) 教育・文化・アイデンティティ、4) 学校教育の4つのテーマを議論する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育社会学演習	国内外の教育社会学や関連領域における理論・概念を学び、さまざまな教育現象を分析する視点や方法を身に付けることを目的とし、文献を読みながら、教育社会学研究の課題設定、問いの立て方、研究方法などについて学び、最終的には各受講者が学んだ視点や方法を取り入れた研究構想を発表する。具体的には、受講者の関心に合わせて、学校教育、教育問題、マイノリティと教育、グローバル化と教育、教育政策など多様な研究領域の文献を読み、教育社会学研究の成果や課題を議論する。毎回、学生が文献に基づく報告をし、全員で討論する。	
	高等教育論特講	授業のテーマは、大学の歴史に関する代表的なテキスト講読を通して、大学の成り立ちを理解すること、そして、現在の課題（教育改革や質保証の在り方、進学機会の拡大など）の解決方法を多国籍比較の観点から議論することである。授業の到達目標は次の3つである。 (1) 主要国の大学の歴史と現在の制度の特徴を説明できる。 (2) 現在の課題を発見し、その課題が生じた理由を論じられる。 (3) 課題の解決方法を他国の制度をモデルに提示できる。 大学（主に日米独）の歴史に関する代表的なテキスト講読を通して、大学の成り立ちを理解し、そして、現在の課題（教育改革や質保証の在り方、進学機会の拡大など）の解決方法を多様な観点から議論する。	
	高等教育論演習	授業のテーマは、大学の国際化（特に学生の国際移動）に関する代表的なテキスト講読を通して、各国において、どのような取り組みが行われてきたかを理解する。そして、現在の課題（英語プログラムの導入や単位互換の促進、国際的な大学教員の養成のあり方など）の解決方法を多国籍比較の観点から議論することである。授業の到達目標は次の3つである。 (1) 主要国における大学の国際化の特徴を説明できる。 (2) 現在の課題を発見し、その課題が生じた理由を論じられる。 (3) 課題の解決方法を他国の制度をモデルに提示できる。 大学の国際化（主に日米英豪独仏中韓）に関する代表的なテキスト講読を通して、各国における国際化の取り組みの違いを理解し、そして、現在の課題（英語プログラムの導入や単位互換の促進、国際的な大学教員の養成のあり方など）の解決方法を多様な観点から議論する。	
	特別活動学特講	特別活動（学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事、クラブ活動）は、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」のための資質・能力の育成を目指す取組である。本授業では、市民社会・職業社会を生き抜くために必要なこれらの資質・能力を培うために、集団のダイナミクス（協働性）、子どもの自治（自律性）、話し合いによる合意形成（民主性）を、どのように学校制度（カリキュラム）に取り入れていくべきか、多角的に考察する。 春学期には、国内的視点から特別活動の現状・課題・可能性を検討する。第1回～第5回では歴史や理論に関する講義を行い、それをふまえて第6回～第10回では特別活動の各領域において各自テーマを設定し、その理論と実践について発表してもらう。 秋学期には、国際的視点から特別活動の制度やカリキュラムを分析する。第11回～14回では日本型教育モデルの輸出に関する動向や、国際比較の視点・方法について講義を行い、それをふまえて第15回～第19回では、外国の教科外活動の特徴および日本との相違点について発表してもらう。	
	特別活動学演習	会情動的スキルの発達に有効であるとして、世界的に注目を集めている。課外活動は大部分の先進国で導入されているが、日本のようにナショナル・カリキュラムを整備して体系的に実践している国は、ごくわずかである。2016年2月には、「エジプト・日本教育パートナーシップ」が発表され、日本式教育モデルとして“TOKKATSU PLUS”が導入されている。本授業では、特別活動の内容的・方法的な独自性について、国際的な視点から検討し、その教育的意義と課題について考察する。 授業の進め方としては、Lewis, C. (1995) Educating Hearts and Minds をテキストとして、毎回担当を決めて、翻訳・プレゼンテーションをしてもらう。同書の出版は今から20年以上前だが、日本の教育研究で顕著な業績を残しているアメリカ人の目からみた、日本の特別活動の特徴と意義がまとめられており、その多くは現在にも通じる。著者の鋭い切り口で捉えた分析を手がかりに日本の教育を再評価し、その海外発信の可能性について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校教育論	<p>本授業のテーマは「学校教育の制度論」である。到達目標は、学校教育制度に関する今日的な基本課題について学術的な根拠をもとに説明できること、及びその課題について受講生が自分なりの考えを深めることができることである。学校教育に対しては様々なアプローチが可能であるが、本授業は、学校教育を「枠づけているもの」（すなわち制度）という観点から、学校教育の基本課題を取り上げ、検討する。なお、本授業は2コマ続きであり、1コマ目は受講生による報告・協議を含む「協調学習」の方法をとる。</p>	
	学校心理学	<p>授業の目標は、次の4つである。</p> <p>①学校心理学の基礎概念について理解する。</p> <p>②学校心理学が扱う領域に含まれる様々なトピックについて理解を深める（不登校、発達障害など）。</p> <p>③学校心理学のなかで行われている最新の研究について学ぶ。</p> <p>④心理教育的援助サービスの技法（アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション）を学ぶ。</p> <p>子どもが出会う問題状況の解決や成長の促進を目指す援助サービスの理論と実践を支える学問体系である学校心理学について、その理論や心理教育的援助サービスの実際について講義で学ぶと同時に、学校心理学の中心概念である「援助サービス」についてロールプレー等を交えて実践力を高める。</p>	
	スクールリーダーシップ論	<p>小・中・高等学校・特別支援学校等を組織として捉えることの意味を理解し、学校組織の特徴を踏まえた有効なリーダーシップのあり方について理論的・実践的な知見を獲得することを目標とする。具体的には、現代の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等における学校経営の課題を学ぶとともに、最近の研究成果に基づいて、学校組織の特性を踏まえたリーダーシップのあり方について考察する。学校を「組織」として捉える意義と、組織としての学校の特性・独自性を確かめ、実践事例を検討することを通じて、学校経営の改善を推進するために有効なリーダーシップの条件について考えたい。</p>	
	青年の発達	<p>授業の目標は、次の3つと発展的な目標の以下である。</p> <p>①青年、青年期、青年心理学についての理解を深めること</p> <p>②青年心理学の研究パラダイムについて理解すること</p> <p>③青年の発達を理解するための多様な観点を身につけること</p> <p>発展的には、青年の発達に関する学習を通して、自分の修士論文に直結する研究構想及び研究計画の水準を上昇させること。</p> <p>このために、青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年の発達に関する知見を深める。少人数で実施し、発表や討論などを活発に行う学生参加型の授業とする。</p>	
	国際・多文化教育論	<p>学校で多文化状況（外国人、「障がい」を持った子どもなど）が進む中で、形式的平等・実質的平等／平等（equality）と「公正さ」（equity）をテーマにして、望ましい資源配分や対応の在り方を考えることができる資質・能力を身につけることを目標とする。</p> <p>国際・多文化教育は公正のための教育（Equity pedagogy）である。多様な文化的背景（障がいの有無、性別、民族、言語、宗教など）をもつ子どもが学校において直面する問題を事例として取り上げ、形式的平等・実質的平等／平等（equality）・「公正さ」（equity）、「合理的配慮」の観点から検討を加え、具体的な対応を考える。事例ごとに受講生をグループ分けし、順次発表及び討論をしていく形態をとる。</p>	
	生涯学習論	<p>社会教育・生涯学習に関する最新動向について学ぶことで、学齢期だけでなく人生を通じた教育や学習の意義と役割について理解を深める。具体的には、社会教育法の改正、地方自治体における社会教育・生涯学習行政の改編、学校と家庭・地域の連携をめぐる政策動向、ボランティアや市民活動などの市民セクターによる住民自治や地域づくり実践、社会教育施設や職員の現状などについて理解を深める。また、UNESCOをはじめとする諸外国の生涯学習や途上国におけるノンフォーマル教育の実践的展開を踏まえながら、SDGsをめぐる将来展望についても考察する。</p>	
	道徳と人権	<p>道徳教育と人権教育に関する基本的な知識理解を深めながら、国際社会における日本の価値教育の在り方について、新しい地平を拓いていこうとする態度と技能を獲得することを目標とする。具体的には、道徳教育の現代的諸課題について、とりわけ人権教育と関係するテーマに関して、講義、討議、アクティビティ、グループワークなど多様なアプローチ方法を使って学習しながら、今日、国際社会のなかで求められる日本の価値教育のあるべき姿について考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理教育的アセスメント	<p>心理教育的援助におけるアセスメントでは、「理解する、対策を立てる、対処する」というプロセスをくりかえしながら、よりよい援助の方向性をたえず模索していく過程が重要な位置を占める。この授業では、面接、主だった心理テスト等を通して、対象者自身および対象者と面接者の関係、さらには対象者の関わる環境を視野に入れたアセスメントの方法について検討する。</p> <p>前半では、心理教育的アセスメントとは何かの概要を述べる。その後、主だった心理テスト(知能テスト、性格テストを中心に)を通してのアセスメントの方法、及び報告書作成とその際の注意事項を議論し学習する。その後、面接を通してのアセスメントの方法を学ぶ。実際に視聴覚教材を用いて、あるカウンセリング面接のクライエントを変化をアセスメントする。</p>	
	スクールカウンセリング実習I	<p>1) 本実習は、学校における「スクールカウンセリング」の実習のため、その理論と技術に関する知識を身につけ、事例検討を通して、これを学習、習得する。</p> <p>2) 「スクールカウンセリング」とは何か 「従来、学校教育において行われてきた教員による教育相談、平成7年度から導入された専門家が行うスクールカウンセリング、その他さまざまな問題や悩みを抱える児童生徒、教師、保護者などへの学校(教育)における援助、さらには心の教育の一環として行われる児童生徒のメンタルヘルスに関わるさまざまな支援と教育、予防のための教育を広く包括するもの」と考える。</p> <p>3) スクールカウンセリングに係る対象は ・主な対象：①児童・生徒 ②教師 ③保護者(家庭・家族) ④仲間・友人 ・主な実践者：①教師(担任、教科担任、学年主任、部活顧問、生徒指導主任、教育相談担当教員等)、②養護教諭、③カウンセラー、④相談員、⑤その他学校に於いて児童生徒の援助を行うもの(医師、警察、福祉関係者などでカウンセリングに関わる援助を行う者) ・教育環境：①家庭環境 ②地域社会 ③社会・文化 など</p> <p>4) 授業は、理論と技法の演習、学生によるレポート、教育現場での教員、臨床心理士、学校心理士、および学校ボランティア学生の参加による事例検討、集団討議を通し、援助のための児童生徒理解と支援技術の習得を目的として進める。</p>	
	スクールカウンセリング実習II	<p>1) 本実習は、高度専門職としての専門的支援技術を身につけることを目的とし、学校における「スクールカウンセリング」の実習を行い、学校での支援の実際、事例検討(カンファレンス)、教職員との連携を通して生徒支援の技術を習得することが目的である。</p> <p>2) 実習校：小学校、中学校、高等学校、対象：小学生、中学生、高校生</p> <p>3) 連携協力者：①中学校・高等学校教員、②スクールカウンセラー、③学校心理士</p> <p>本授業は、学校での生徒支援の実習、学校、大学で行われる生徒支援のための事前打ち合わせ、支援実習中に月に一度、定期的に開催される大学教員、学校教員、専門家(スクールカウンセラー、学校心理士)、学生が一同に会し、事例検討会、支援の実際に関する話し合い等を通して、学生のスクールカウンセリングの専門的支援技術とその能力を向上させ、生徒への効果的支援が可能になることが目標である。</p>	
	学校の社会学	<p>社会的カテゴリーの視点(階層、エスニシティ、ジェンダーなど)から国内外の教育政策・実践の可能性と課題について考察し、公正でインクルーシブな学校教育のあり方について議論を深めることを目的とする。具体的には、社会的包摂・排除、マジョリティ・マイノリティ、インターセクショナルリティ、差別と共生、統合と包摂、居場所、特権、当事者主権、多文化教育などのキーワードを掘り下げながら、マイノリティの視点から学校教育を問い直す。毎回、学生が文献に基づく報告をし、全員で討論する。</p>	
	学校安全と危機管理	<p>学校における安全・危機管理の基本的事項や原理・原則を理解するとともに、子どもを取り巻く今日的な状況を踏まえた学校安全と危機管理の実践の在り方について考察することができることを目標とする。具体的には、今日、学校や教師が多様に求められている学校安全と危機管理について、その背景やリスク・マネジメント、クライシス・マネジメントの基本的事項を理解する。その上で、事例検討を通して学校安全と危機管理の在り方を受講生とともに考察したい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校経営事例研究	この授業では、学校経営の事例を行う。具体的には、学校経営の事例、課題、展望について考えることができること、学校経営に関して、国際的視野を持って考察できること、教職の意義、役割、職務、進路選択と教育に関する知識を持つことを目指す。このために、日本と外国における教育の理論、教職の意義と教員の役割・職務内容、学校経営の理論と技法、学校経営の実践事例を検討し、学校改革の在り方を考察する。学校経営を中心としながら、教育政策、教育経営、授業実践、教師研究、国際比較研究も視野に入れて、現代の学校と教育をめぐる諸課題にアプローチする。事例研究の方法と国際比較研究の方法についても検討する。	
	学習指導と授業	授業中の教師や児童・生徒の行動や思考を観察、分析することによって、すぐれた授業および指導方法の特徴について考察することを目的とする。これらを通して、授業を科学的に把握するための基礎的能力を育成したい。 本科目では、授業を構成する諸要素について、先行研究を参考にしながらその概念を検討する。また、授業分析の歴史をはじめ、今日における授業分析法、刺激回想法、参与観察法等の諸方法を習得する。必要に応じて、小・中・高等学校等に赴いて観察や記録を行う機会を設けるとともに、これまでのVTRや授業記録も活用する。	
	学習と学級の心理	学習のプロセスを最新の学習科学に基づいて理解し、自らの授業実践にいかすことができるようにすることを目標とする。そのために、最新の学習科学の成果である状況的認知論から教室での学習について考える。単なる座学ではなく、様々な事例や課題を少人数で議論しながら、状況的認知の理解を進めて行く。	
	学校臨床心理	主に児童期後半から青年期にかけて好発する心理・社会的不適応の諸問題に関し、学校という場における臨床心理学的な対応の仕方を、内外の文献の精読を通じて、学習する。具体的には、不登校、いじめ、非行、学校ストレス、抑うつ、不安障害などの不適応と、それらに対する心理教育プログラム等について学ぶ。	
	教育臨床学特講	学校教育および家庭や社会が抱える教育にかかわる問題、児童生徒の問題について、問題の理解（データの見方）、分析の仕方（データ処理）、メカニズムの理解と解明、問題解決に向けた援助方法について学ぶ。具体的には、児童生徒理解、問題理解、そのための研究的アプローチ（関係資料の収集、論文・データの见方、データ処理の仕方、問題のメカニズムの解明と考察）で授業を構成する。教育臨床学的見地からどのように問題を解明・理解し、課題解決にむけた仮説をたてるのか、について学ぶ。	
	教育臨床学演習	学校教育および家庭や社会が抱える教育にかかわる問題、児童生徒の問題について、問題の理解、問題のメカニズムの理解、問題解決に向けた、援助の方法について学び、これを身につけることが主な目的である。具体的には問題解明と解決に向けたアプローチ（教育現場における問題の解決と援助に向けた実践）から授業を構成する。教育臨床の現場においてどのように問題を解明・理解し、問題解決にむけて仮説をたて、支援につなげいかに実践するかを学ぶ。	
	国語科教育学a	国語科の目標、内容、方法に関する研究水準に基づいて、今日的な課題について討議を行い、解決策を検討する。具体的には、国語学習指導の意義、国語科の目標と内容、学習者の把握と指導計画作成の観点、話すこと・聞くことに関する授業づくりの方法、書くことに関する授業づくりの方法、読むことに関する授業づくりの方法、伝統的な言語文化と国語に関する事項の内容、国語科における評価の方法、国語科をとりまく課題について討議する。	
	国語科教育学b	PISA、全国学力・学習状況調査などの評価方法、また、アクティブ・ラーニングなど、現在の国語教育を取り巻く問題を取り上げて関連資料に基づき討議を行い、対応策を検討する。具体的には、PISA2000のもたらした課題、全国学力・学習状況調査、高等学校・大学の入試問題、読解力向上プログラムの背景、「新しい学力観」の帰趨、学校教育における言語活動の位置づけをめぐる議論、アクティブ・ラーニングの諸問題、FD活動の課題などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国語科教育史研究 a	筑波大学附属中央図書館所蔵の学制期以降の教科書を用いつつ、国語科の成立過程における教材選択および構成の推移を初等教育と中等教育、国語関連教科と他教科、国語科成立前と後などの観点によって検討する。具体的には、国語科の教科内容を決定する要素と検討資料、学制期の教科書、教育令期の教科書における初等教育と中等教育の関連、第一次学校令時の教科書制度と初等教育と中等教育の関連、初等教育における国語科の成立と第二次学校令期との間の連続性の有無、第三次学校令期における初等教育と中等教育の関連、古典教育・文学教育の起源について、作文教育における課題の変化とその要因、教科書にみる国語科と他教科との関連について討議する。	
	国語科教育史研究 b	国語教育の実践理論史上には時を隔てた類同性を見出すことができる。それらに関して問題の構造を解明し、解決のための方途を討議する。具体的には、国語科の教育史における時を隔てた類同性に着目することの意味、他教科と国語科の異同を議論する観点、国語科成立時における「話し方」教授の位置づけからみる話すこと・聞くことの問題、明治末期における発表教授不振の要因と随意選題論の成立、学習法の提唱とアクティブ・ラーニング、調べる綴り方と教育課程の問題、調べる綴り方と国語単元学習、第一次・第二次学習指導要領と国語単元学習、第三次・第四次学習指導要領と第七次・第八次学習指導要領、第五次・第六次学習指導要領と第九次学習指導要領などについて討議する。	
	国語科教育実践論研究 a	国語科教育の代表的実践理論を概観した上で、それぞれの領域の授業分析事例について討議し、分析対象とする授業計画や調査計画を立案する。具体的には、国語科授業分析の概説、国語科教育実践理論の代表的研究（読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと、言語事項の教育、伝統的な言語文化の教育）を概観した上で、国語科授業分析研究の代表的研究（読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと、言語事項の教育、伝統的な言語文化の教育）を行う。その上で国語科授業分析の目標および指導内容に関する考察をする。	
	国語科教育実践論研究 b	研究授業を院生が自ら企画立案したものを実際の教室で実施する。実施後は、授業中の学習者のデータを記録・分析したものを報告書にまとめる。具体的には、国語科授業分析の調査法方法の考察、国語科授業分析における評価方法の考察をし、独自の授業案の作成や模擬授業の実施および分析をする。授業分析についての復習、ワークシートの作成、ワークシートの検討、アンケート用紙の作成、アンケート用紙の検討をしたうえで、研究授業の実施、研究授業の振り返り、調査データの分析と考察、授業研究調査報告書の作成をする。	
	表現教育論a	国語教科書における表現領域の教材を確認したうえで、表現トレーニングを受講することで各自の表現のスキルや能力を向上させる。具体的には、言語表現論の概説、国語教育における言語表現、教科書に見る言語表現（話すこと・聞くこと）、教科書に見る言語表現（書くこと）、言語表現トレーニング（話すことの基礎）、言語表現トレーニング（話すことへの応用）、言語表現トレーニング（書くことの基礎）、言語表現トレーニング（書くことへの応用）、言語表現の振り返りの方法などについて討議する。	
	表現教育論b	日本における表現教育の主要な事例を歴史的に振り返った上で、特に大村はま実践における事例を討議する。具体的には、言語表現に関する実践事例（戦前）、言語表現に関する実践事例（昭和）、言語表現に関する実践事例（平成）、大村はまにみる表現教育の方法（スピーチ）、大村はまにみる表現教育の方法（インタビュー）、大村はまにみる表現教育の方法（話し合い）、大村はまにみる表現教育の方法（説明的文章）、大村はまにみる表現教育の方法（文学的文章）、大村はまにみる表現教育の方法（総合的な単元）について討議する。	
	文学教育論a	国語科教育、とくに中等教育における文学に関する教育についての基礎的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には、文学とはなにか（総論）、文学とはなにか（問題点）、文学を教育することの意義（総論）、文学を教育することの意義（問題点）、中学校における文学教育（総論）、中学校における文学教育（問題点）、高等学校における文学教育（総論）、高等学校における文学教育（問題点）などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文学教育論b	国語科教育、とくに中等教育における文学に関する教育についての応用的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には、文学とはなにか（総論）、文学とはなにか（問題点）、文学を教育することの意義（総論）、文学を教育することの意義（問題点）、中学校における文学教育（総論）、中学校における文学教育（問題点）、高等学校における文学教育（総論）、高等学校における文学教育（問題点）などについて応用的な視点から討議する。	
	古典教育論 a	国語科教育、とくに中等教育における古典に関する教育についての基礎的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には古典とはなにか（概説）、古典とはなにか（問題点）、古典を教育することの意義（古文）、古典を教育することの意義（漢文）、中学校における古典教育（古文）、中学校における古典教育（漢文）、高等学校における古典教育（古文）、高等学校における古典教育（漢文）などについて討議する。	
	古典教育論 b	国語教育における古典分野について教員としてふさわしい指導方法・指導内容を身につける。具体的には、古典とはなにか（概説）、古典とはなにか（問題点）、古典を教育することの意義（古文）、古典を教育することの意義（漢文）、中学校における古典教育（古文）、中学校における古典教育（漢文）、高等学校における古典教育（漢文）などについて討議する。それらをもとに古典分野についてふさわしい教員像について考察する。	
	国語科リテラシー教育論 a	国語教科書の教材を対象として、リテラシー教育の考え方について実践的に学ぶ。具体的には国語教育におけるリテラシーの考え方、学習指導要領にみるリテラシー教育の思想、国語教科書にみるリテラシー教育の可能性、「話すこと・聞くこと」の教材研究（1）中学校教科書から、「話すこと・聞くこと」の教材研究（2）高校教科書から、「書くこと」の教材研究（1）中学校教科書から、「書くこと」の教材研究（2）高校教科書から、「読むこと」の教材研究（1）中学校教科書から、「読むこと」の教材研究（2）高校教科書から、リテラシー教育の考え方に立つ国語教育の在り方などについて概観する。	
	国語科リテラシー教育論 b	教材開発の視点と方法を学び、国語科各領域のリテラシー教材開発を実践的に学ぶ。具体的には、リテラシー教育における教材の機能と役割、教材開発の観点と方法、「話すこと・聞くこと」の教材開発（1）プレゼンテーション、「話すこと・聞くこと」の教材開発（2）メディアの活用、「書くこと」の教材開発（1）説明と描写における修辞、「書くこと」の教材開発（2）論じるということ、「読むこと」の教材開発（1）近現代の文学的文章、「読むこと」の教材開発（2）古文・漢文、「読むこと」の教材開発（3）「実用的な文章」、総括ーリテラシー教育の考え方に立つ教材開発のこれからについて討議する。	
	国語教育特講	各国の教育課程、PISAの結果、教科書の分析に基づき、他国・地域と日本の母語教育における共通点と相違点について討議する。具体的には、研究方法としての他国・地域との比較についての概説、PISAの学習環境に関する結果について、PISAの読解リテラシーに関する結果について、各国・地域における母語教育の位置づけ、中国における語文の教育内容、台湾における国語の教育内容、韓国における国語の教育内容、東アジアにおける共通教材としての漢文、他言語文化圏における古典学習の意義について討議する。	
	国語科研究法	国語科の各領域に関する実践研究を収集し、今日的な課題を把握すると同時に、現時点での達成水準を理解する。また筑波大学所蔵の現職派遣生の実践レポートを分析対象として、討議をとおしてそれらを分析し評価するとともに自ら提案するための方法を獲得する。その上で実際に実践レポートを作成する。具体的には、国語科の実践研究の水準を把握する意義とその方法、実践研究のレビューの収集、レビュー記述の観点、話すこと・聞くことの実践に関するレビューの分析、などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国語科研究法演習	国語科における各領域（読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと、日本語の特質、伝統的な言語文化（古文、漢文）でなされてきた代表的な研究を概観した上で、各自でそれぞれの領域の研究を調査し、討論する。また国語科教育における代表的研究方法を理解した上で、各自でそれぞれの手法から一つを選び調査し演習発表を行う。その際、研究方法だけでなく、各領域の指導内容にも十分に注意を払い検討を進める。これらをとおして国語科教育の研究法を向上させる。	
	社会日本語論Ⅰ a	多言語多文化社会、情報化社会に対応した言語能力や情報処理能力を身につけるために母語教育で習得すべき事項について検討する。具体的には、グローバル時代における母語教育について（ガイダンス）、母語教育における言語基盤教育について、論理展開を支える言語能力について、論理展開に必要な抽象的な概念と児童・生徒の語彙・表現の拡張、小学校における論理展開表現と文型、およびその指導について（分担報告を含む）、中学校における論理展開表現と文型、およびその指導について（分担報告を含む）、高等学校における論理展開表現と文型、およびその指導について（分担報告を含む）、国語教育と日本語教育の連携について討議する。	
	社会日本語論Ⅰ b	日本語を主な材料として、社会言語学の主要概念について論じる。一部受講者による議論を含む。具体的には、「母語」教育と「国語」教育について、言語事項から見た国語科と英語科の連携について、言語事項から見た国語教育と日本語教育の連携について、多言語多文化社会における言語情報の提供サービスについて、中学校レベルで求められる言語情報と現在の中学生向け国語辞典（分担報告を含む）、高等学校レベルで求められる言語情報と現在の国語辞典（分担報告を含む）、国語教育で求められる言語情報と日本語教育で求められる言語情報について討議する。	
	社会日本語論Ⅱ a	国語教育と英語教育、国語教育と日本語教育など、関連分野との連携を踏まえた母語教育のあり方について検討する。あわせて、それぞれの学習者が能力や用途に応じて求める言語情報について分析し、それを提供する言語情報サービスとしての国語辞典について考察する。具体的には、「母語」教育と「国語」教育について、言語事項から見た国語科と英語科の連携について、言語事項から見た国語教育と日本語教育の連携について、多言語多文化社会における言語情報の提供サービスについてなどについて討議する。	
	古典日本語論Ⅱ b	文法に重点をおいた、日本語史の基本的概念、基本的知識の習得、定着を行ったのち、応用的な議論を行う。具体的には、国語教育と情報教育（ガイダンス）、規範的な日本語と実際の日本語、コーパスと日本語の分析、各種日本語コーパスとその利用法について、国語科教科書に記載された文法事項の記述の検証（分担報告を含む）、国語科教科書に記載された表記事項の記述の検証（分担報告を含む）、教科書の使用語彙に関する分析（分担報告を含む）、日本語教科書の記述の検証（分担報告を含む）、国語辞書の記述内容の検証（分担報告を含む）について討議する。	
	古典日本語論Ⅰ a	高校で学んだ古典文法を、実例を確認し再検討することで、暗記ではない過去の日本語の実態に迫る。具体的には下一段活用動詞の活用の変遷の再検討、時や推量の助動詞の語誌を、受講生の調査報告をまとめるかたちで進める。具体的には、古典文法の目的と、古語辞典の役割、古文作文と日本語動詞活用の変遷のとらえ方、下一段活用の「蹴る」の実態。再検討の必要性、文献の用例調査報告、文法は変化するのか、などについて討議する。	
	古典日本語論Ⅰ b	原本コピーを講読しながら、文献資料の扱い方、語学的な問題のとらえ方、狂言という芸能に関する知識など、日本語史研究の基本的な事項にふれてゆく。具体的には、日本語史研究と文献資料、能と狂言 狂言の歴史1前史、狂言の歴史2 日本語史上の中世・近世、『狂言記』という資料について、「末広がり」を読む、「釣り女」を読む、「柿山伏」を読む、「武悪」を読むなどについて討議する。そのうえで実際の狂言を鑑賞する。	
	古典日本語論Ⅱ a	狂言諸台本の日本語史料としての位置づけを本質的に考える。その手がかりとして江戸期の版本狂言記を他台本と比較して読む。具体的には、狂言について 能との共通点・相違点、狂言の歴史、狂言台本について、版本狂言記について、版本の講読と他台本との比較1、版本の講読と他台本との比較2、版本の講読と他台本との比較3、版本の講読と他台本との比較4、台本間の位置付けの検討、中世・近世の資料と狂言台本などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会日本語論Ⅱb	基本的な言語処理の知識と方法を身につけ、実際に、国語教科書に記載された「国語の特質」に関わる記述を大規模コーパスから検証する。この過程の中で、言語教育において求められる科学的な思考のあり方について検討する。具体的には、国語教育と情報教育（ガイダンス）、規範的な日本語と実際の日本語、コーパスと日本語の分析、各種日本語コーパスとその利用法について、国語教科書に記載された文法事項の記述の検証（分担報告を含む）、日本語教科書の記述の検証（分担報告を含む）、国語辞書の記述内容などについて討議する。	
	現代日本語論Ⅰa	日本語研究における活用および関連諸現象の位置付け・分析方法について、これまでの研究における取り扱いを整理することによって主要な論点と立場を洗い出す。また、自ら形態現象を分析する際のデータの収集・分析方法についても、実際の作業を通して検討する。具体的には、形態論と文法・音韻論、日本語の活用研究史、活用(1): 活用と述部複合体、活用(2): 語の範囲と形態論的カテゴリー、活用(3): 付加と対立、活用(4): 連用形の分布、活用(5): 未然形の位置づけ、同形性と補充、日本語の諸方言の活用などについて討議する。	
	現代日本語論Ⅰb	現代日本語の音声・音韻のしくみについて、自立拍の特性ならびに各行の音声・音韻の特徴を中心に学ぶ。音韻史に関する知識についても扱う。具体的には、現代日本語の拍体系、カ行・ガ行の音声・音韻、サ行・ザ行の音声・音韻、タ行・ダ行の音声・音韻、ハ行・バ行・パ行の音声・音韻、マ行・ナ行の音声・音韻、ヤ行・ワ行の音声・音韻、ラ行の音声・音韻、ア行（母音）の音声・音韻、などについて討議する。	
	現代日本語論Ⅱa	日本語研究における語構成の位置付け・分析方法について、これまでの研究における取り扱いを整理する。また、自ら形態現象・語彙を分析する際のデータの収集・分析方法についても、コーパス等を用いた実際の作業を通して学ぶ。具体的には、形態論と文法・音韻論、日本語に特徴的な語構成、語構成(1): 複合動詞、語構成(2): 動詞由来複合語、語構成(3): 複合形容詞、語構成(4): 接辞と品詞、語構成(5): 語種と外来語研究、語構成(6): 外来語動名詞の分布と分類、コーパスを用いた形態論・語彙研究、などについて討議する。	
	現代日本語論Ⅱb	現代日本語の韻律のしくみや特徴について理解を深め、音韻ならびに表記にかかわる国語教育上の諸課題について考察する力をつける。また国語教育の問題についても応用的に考える。具体的には、日本語の拍と音節、撥音の音声と音韻、促音の音声と音韻、長音の音声と音韻、特殊拍と表記、共通語アクセント、名詞アクセントの特徴、活用語アクセントの特徴、複合語アクセントの特徴、付属語アクセントの特徴、清濁の対立と音韻現象などについて討議する。	
	日本文学研究Ⅰa	『源氏物語』注釈史が、諸本の問題に不可分にかかわることを具体的に見、異文発生がケアレシにではなく、必然として生じた問題についてあきらかにすることをこころみる。異文が思想的な問題を考察する糸口にもなり得ることについて解説する。具体的には『源氏物語』注釈史概説（古注）、『河海抄』、『源氏物語』注釈史概説（旧注）、『花鳥余情』、『源氏物語』注釈史概説（旧注）、連歌師、中世における『源氏物語』享受、能、『源氏物語』の諸本などについて討議する。	
	日本文学研究Ⅰb	『源氏物語』注釈史のなかでも、近代以降、その意味、『源氏物語』理解のための必要性、が見えにくくなっている注釈書を中心にとりあげて、それらがどのような時空のなかで生きていたのかを考え、わたしたしがうしなってしまったものの所在をあきらかにすることをこころみる。具体的には中世の『源氏物語』注釈、『河海抄』、中世の『源氏物語』注釈、『仙源抄』、『源氏物語』注釈史と字書、『節用集』、近世の『源氏物語』、契沖、賀茂真淵、注釈書の諸本などについて討議する。	
	日本文学研究Ⅱa	虚構の物語作品である『源氏物語』が、注釈史のある時期に歴史記述によって注されてきた状況を見、あわせて、『源氏物語』注釈書にのみ伝承される歴史記述のゆくえを見、官撰国史断絶後、歴史はどのように記されたかという問題についても考える。具体的には年代記類概説、官撰国史、類書と歴史記述、『二中歴』、『源氏物語』注釈書所引の歴史記述、『帝王編年記』、『源氏物語』注釈書所引の歴史記述、『神皇正統記』、などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本文学研究Ⅱ b	主として近代以降の『源氏物語』研究において、ジャンルが異なることから殆ど注目されることのなかった『三教指帰』注釈書類が『源氏物語』注釈史の伝承と深くかかわることについて具体的に考察する。『源氏物語』が歴史記述によって注された問題を解きあかすことをこころみる。具体的には『源氏物語』注釈史概説、古注、旧注、『源氏物語』注釈と私撰国史、『一代要記』、『源氏物語』注釈と私撰国史、『一代要記』と『大日本史』、『源氏物語』注釈と『帝王編年記』、などについて討議する。	
	日本文学演習Ⅰ a	日本近代文学のうち主に明治期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。具体的には明治初期の文学について詳説、明治10年代の文学について一語釈・注釈、明治10年代の文学について一、明治20年代の文学について一語釈・注釈、明治20年代の文学について、明治30年代の文学について一語釈・注釈、明治30年代の文学について、明治40年代の文学について一語釈・注釈、明治40年代の文学についてなどについて討議する。	
	日本文学演習Ⅰ b	日本近代文学のうち主に大正期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。具体的には大正前期の文学について一語釈・注釈、大正前期の文学について一討論、大正中期の文学について一語釈・注釈、大正中期の文学について一討論、大正後期の文学について一語釈・注釈、大正後期の文学について一討論、大正期の韻文について一語釈・注釈、大正期の韻文についてなどについて討議する。	
	日本文学演習Ⅱ a	日本現代文学のうち主に昭和期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。具体的には日本近現代文学概説一昭和編、昭和文学詳説、昭和戦前期の文学について一語釈・注釈、昭和戦前期の文学について一討論、昭和戦中期の文学について一語釈・注釈、昭和戦中期の文学について一討論、昭和戦後前期の文学について一語釈・注釈、昭和戦後前期の文学について一討論、昭和戦後後期の文学について一語釈・注釈などについて討議する。	
	日本文学演習Ⅱ b	日本現代文学のうち主に平成期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。具体的には日本現代文学概説一平成編、平成文学詳説、平成前期の文学について一語釈・注釈、平成前期の文学について一討論、平成中期の文学について一語釈・注釈、平成中期の文学について一討論、平成後期の文学について一語釈・注釈、平成後期の文学についてなどについて討議する。	
	日本文学表現論a	日本文学の表現が中国文学との交渉を経て形成される過程について考える。具体的には日本文学特性、『風土記』地名起原説明、『古事記』の表記と表現、『万葉集』の表記、『万葉集』の漢文表現、『万葉集』伝承歌の表現、嵯峨朝文学の表現空間、漢詩と和歌との交渉、「古今集」表現の形成などについて討議する。これらを通して文学表現の独自性と中国文学との接触による形成過程を理解し、日本文学の表現が中国文学との交渉を経て形成される過程について考える。	
	日本文学表現論b	日本文学の表現規範を形成した平安時代の文学表現について考える。具体的には菅原道真の漢詩における比喻表現、『古今集』における漢と和、『伊勢物語』におけるかな文形成、『竹取物語』の試行錯誤、『土左日記』の冒険、『和漢朗詠集』の季節感、王朝漢詩の成熟と日本化、『源氏物語』と漢文表現、『源氏物語』の文脈などについて討議する。これらの古典的表現の形成過程を観察することで、文学表現の本質について理解し、日本文学の表現規範を形成した平安時代の文学表現について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国文学研究a	『芸文類聚』所収の詩文を読む。具体的には四部分類について確認したり、経部の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、経部の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、史部の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、史部の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、子部の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、子部の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、集部の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、集部の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定などを行う。	
	中国文学研究b	『芸文類聚』所収の南北朝の作品を読む。具体的には魏晉の詩を取り上げ、工具書で確認し、試訳し、問題点を指摘したり、魏晉の詩を取り上げ、出典を確認し、訓みを修正したり、魏晉の詩を取り上げ、補足し、訓みを確定したり、南朝の詩を取り上げ、工具書で確認し、試訳し、問題点を指摘したり、南朝の詩を取り上げ、出典を確認し、訓みを修正したり、南朝の詩を取り上げ、補足し、訓みを確定したり、北朝の詩を取り上げ、工具書で確認し、試訳し、問題点を指摘したりするなどを行う。	
	中国文学演習 a	『芸文類聚』所収の作品を読む。具体的には漢までの詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、漢までの詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、魏晉の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、魏晉の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、南朝の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、南朝の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、北朝の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、北朝の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定するなどを行う。	
	中国文学演習 b	『芸文類聚』所収の詩を読む。具体的には魏晉の詩を取り上げ、語義・押韻を確認し、試訳し、問題点を指摘し、魏晉の詩を取り上げ、出典を確認し、試訳を修正し、魏晉の詩を取り上げ、補足し、訓みを確定し、南朝の詩を取り上げ、語義・押韻を確認し、試訳し、問題点を指摘し、南朝の詩を取り上げ、出典を確認し、試訳を修正し、南朝の詩を取り上げ、補足し、訓みを確定し、北朝の詩を取り上げ、語義・押韻を確認し、試訳し、問題点を指摘し、北朝の詩を取り上げ、出典を確認するなどを行う。	
	社会科教育学特講	社会科の基本的な概念を学ぶとともに、社会科のあるべき姿を理論的に、また各地の教育現場の実地調査を踏まえて探究する。春学期は、社会科の概念を、学校と地域とのかかわりから、地域に関わる論文を通して探究していく。これにより、文献を通じて、社会科の視点より地域を考察する研究方法を習得する。秋学期は、春学期で得た知見を活かし、調査地域を選定して地域調査を行う。地域とかがわって社会科の学習がいかに行われているかを調査し、その調査結果を報告書もしくは論文としてまとめるまでを授業として行う。	講義 15h 実習 15h
	社会科教育学内容論（地理歴史）	中学校社会科及び高等学校公民科の理論と方法について、特に、授業づくりと授業評価に必要な資質・能力を身に付けることができる。授業づくりにあたっては、現代の諸課題の教材化と、社会的な見方・考え方の育成に焦点を絞って、授業づくりを実施する。さらに、授業評価では、授業を通して身に付けられる履修者を2～4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、全員の前で、模擬授業を行い、授業評価を行う。	
	社会科教育学内容論（公民）	中学校社会科及び高等学校公民科の理論と方法について、特に、授業づくりと授業評価に必要な資質・能力を身に付けることができる。授業づくりでは、現代の諸課題の教材化、社会的な見方・考え方の育成に焦点を当てる。また、授業評価では、ルーブリック評価やパフォーマンス評価といった近年注目される評価論を念頭に置く。履修者を2～4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、全員の前で、模擬授業を行い、授業評価を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会科教育学実践論（地理歴史）	中学校社会科及び高等学校地理歴史科の授業づくりについて、高度な教育実践力を身に付けることができる。地理では、特に地域調査に重点をおき、地域でのフィールドワークを通じた授業づくりを心掛ける。歴史では、史料批判に重点をおき、多面的・多角的に考えられる資料を考察し、解釈学習を行うことができるような授業づくりを行う。履修者を2～4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、実際に学校現場において実験授業を実施して、その結果を分析する。	
	社会科教育学実践論（公民）	中学校社会科及び高等学校公民科の授業づくりについて、高度な教育実践力を身に付けることができる。「社会科教育学内容論（公民）」で習得した授業づくりに関する理論を基に、作成された学習指導案を活用して実際に授業を実施することになる。なお、単に授業を実施するだけでなく、授業後の評価活動にも積極的に関与して、総合的に授業力を高めることに留意する。履修者を2～4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、実際に学校現場において実験授業を実施して、その結果を分析する。	
	地理教育特講Ⅰ	中等学校での地理教育に関しての講義や討論を通して地理教育の本質にせまり、それを理解したうえで地理授業の構想をたて、実践する。Ⅰでは特に地理教育の本質を理解することに重点をおく。具体的には、地理教育課題を文献などから見だし、その課題についての理論的背景を考察していく。そのために、地理教育の論文および著書を検討し、批判することはむろんのこと、関連する教育学分野は専門分野の論文や著書についても必要に応じて検討を加える。	隔年
	地理教育特講Ⅱ	中等学校での地理教育に関しての講義や討論を通して地理教育の本質にせまり、それを理解したうえで地理授業の構想をたて、実践する。ⅡではⅠでの成果を踏まえて、教育実践論文や実践を検討することにより、理論がどのように実践化されるのか、あるいはできるのかを考察する。これにより、地理教育の本質が、授業でどのように実証化できるのかを検証することができ、目標論と内容論、方法論それぞれの理論を統合した授業の構築が可能となる。	隔年
	地理教育特講Ⅲ	これまで教育現場で地理として実践してきたことを学問的に位置付け、論文とすることを学ぶ。自分の実践と関連する地理教育の論文を分析することを通して、社会科教育学ないしは地理教育における、自分の実践を位置付けていく。それにより、自分が今までやっていた実践が、社会科教育学および地理教育の中でどのような意味をもつのかを客観的に評価することができる。こうしたことを通して、地理教育論文の意味や地理教育論文の意義を考え、実践研究の必要性についての自覚を促していく。	
	地理教育演習Ⅰ	中等学校での地理教育に関しての講義や討論を通して地理授業の構想をたて、実践する。Ⅰでは特に地理授業の構想を立てることに重点をおく。具体的には、地理授業の本質、先行研究から見る地理授業の特性、地理授業の基になる理論の概要、地理授業の理論の構築、地理授業の構成といった、地理授業を構想する際に必要となる基礎的・基本的な内容及び方法論について演習を実施する。本講義で習得した内容及び方法論に基づき、地理教育演習Ⅱでは、より具体的に授業実施を目標に置く。	隔年
	地理教育演習Ⅱ	中等学校での地理教育に関しての講義や討論を通して地理授業の構想をたて、実践する。Ⅱでは特に地理授業を実践することに重点をおく。講義ではまず、中学校地理的分野の授業づくり班と、高等学校地理歴史科地理の授業づくり班の二つにグループ分けする。その上で、それぞれのグループで教材研究を行い、学習指導案を作成する。さらに、それに基づいて模擬授業を実施して、学習指導案の再検討を行う。最終的に、学校教育現場で実験授業を行う。	隔年
	地理教育演習Ⅲ	地理教育実践に関する単元構想を行い、実際に模擬授業或いは実験授業を実施して、授業を振り返って、授業評価を行う。本講義で大切にしたいことは、授業評価である。学習成果をより厳密に評価していくことが、実践報告と実践研究との分かれ目だと考えているため、「地理教育演習Ⅱ」と比して、本講義では授業評価に力点を置く。実践終了後に、履修者は授業の様子を録画したテープから、発話を文字起こしして、授業中に提出された振り返りシート等とともに、評価の材料とする。パフォーマンス評価やルーブリック評価といった最新の評価技術もここで学ぶことになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歴史教育特講Ⅰ	中等学校での歴史教育に関する基礎を学ぶ。歴史的には、明治時代から現在までの歴史教育史について学ぶ。その上で、1947年からの社会科歴史教育や歴史教育論についての考察を加えていく。具体的には、日本や世界の歴史教育に関する目標や内容、方法について、理論的および実践的に講義や演習などを通じて学んでいく。加えて、歴史を学ぶ意味やその必要性についても、世界の歴史学者や歴史教育者の考えを知りながら、自分なりの考えが持てるようにする。	隔年
	歴史教育特講Ⅱ	歴史教育について、多方面より発展的に一層学んでいくものである。具体的には、日本や世界の歴史教育に関する資料や論文を比較しながら読み、それに関する資料も含めて、総合的に考察していく。学生による報告と討論を通じて、歴史教育に関するより深い内容や方法を学ぶものである。授業の目標は次の2点である。(1)日本や世界の歴史教育に関する比較の視点で読むことができる。(2)多面的・多角的に文献を考察しながら報告し討論を通じて、自分の意見を相対化しながら、歴史教育についての理解を深めるのである。	隔年
	歴史教育特講Ⅲ	日本と世界の歴史教育実践の動向を探り、いくつかの授業実践記録を丁寧に読んでいく。具体的には、日本の1945年以後の「初期社会科」と言われる時代の実践と、アメリカやイギリス、ドイツの歴史授業実践を検討していく。そうした実践に、今まで自分自身が実践してきた授業を重ね合わせていく。こうした作業をすることで、これまでの自分の歴史授業実践の位置づけを知ることができる。こうした作業を繰り返し行ない、歴史教育実践の今後について深く探究する。	
	歴史教育演習Ⅰ	歴史教育演習Ⅰでは、比較研究を行う国や地域の歴史、教育に関する論文を分析・検討する。具体的には、比較研究を行う国や地域として、アメリカやイギリス、ドイツを想定している。こうした国々の歴史や教育に関する論文を扱うことで、日本の歴史教育との比較研究をより深く行うことができる。これらの国や地域の論文を読み、分析・検討という作業を繰り返すことで、国家や地域単位の歴史や歴史教育を比較し、大局から検討する視点を獲得する。	隔年
	歴史教育演習Ⅱ	歴史教育演習Ⅱでは、教員と受講者全員で対象地域および国を実際に訪問し、歴史教育に関する調査を行う。日本の歴史学や歴史教育の現代的課題を明らかにし、今後の展望を考える。訪問する時期や対象地域、国をどこにするかは受講生と相談しながら決定するが、歴史教育演習Ⅰでの論文分析・検討を踏まえる。その際、特に対象国の歴史学と歴史教育の事前調査を綿密に行ない、日本の歴史教育との比較・分析を通じて、歴史教育の今後の展望を考えていく。	隔年
	歴史教育演習Ⅲ	日本史や世界史、歴史総合に関する歴史教育実践の単元構想を行い、検討を行なう。その上で、実際に模擬授業あるいは実験授業を実施して、その授業の目標や内容、方法の妥当性を検討する。その上で、授業者は授業を振り返り、自分や受講者による授業評価を行う。このような過程を経ることで、これからの歴史教育実践の在り方を検討することができる。また、授業づくりに必要とされる資質・能力を高めることができる。特に新設された歴史総合は近現代の日本史と世界史を扱うものであるから、重点的に取り上げる。	
	歴史教育学特講	韓国を中心とした東アジアの歴史教育と歴史学について講義および演習を通じて総合的に考察する。日本と朝鮮半島は隣国であるがゆえに、先史以来、様々なレベルで交流が行われてきた。近代や現代を経て、隣国理解、国際理解教育を推進するために、韓国巡検を実施し、東アジアの歴史に関する現状および教育を理解する。具体的には、韓国を中心とした東アジアの歴史教育と歴史学について、研究動向・教科書問題・歴史認識などの視点から考察する。	
	公民教育特講Ⅰ	公民教育研究に関する論文を収集して、1時間に一つの論文を読み進める。履修者は事前に論文を読んでくることを前提とし、授業では総合的なディスカッションを行い、公民教育研究（特に中学校社会科公民的分野）に関する知見を深めてもらうことにする。論文の選定にあたっては特に、中学校社会科公民的分野で焦点となっている、平和学習、人権学習、主権者教育、グローバル経済学習、開発教育といった内容について中心的に取り扱う。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公民教育特講Ⅱ	公民教育研究に関する論文を収集して、1時間に一つの論文を読み進める。履修者は事前に論文を読んでくることを前提とし、授業では総合的なディスカッションを行い、公民教育研究（特に高等学校公民科）に関する知見を深めてもらうことにする。論文の選定にあたっては、高等学校公民科で焦点となっている、新科目「公共」、生命倫理教育、キャリア教育、アントレプレナーシップ教育といった内容について中心的に取り扱うことにする。	隔年
	公民教育特講Ⅲ	公民教育実践の動向を探り、いくつかの授業実践記録を読みながら、そこに自身がこれまでに実践してきた授業を重ね合わせて、公民教育実践の今後について深く探究する。授業実践記録として考えられるのは、初期社会科（昭和20年代の社会科）における実践記録、政治的中立性と関連した授業実践、高等学校社会科「現代社会」と関連した授業実践、そして、近年の社会的な見方・考え方と関連した授業実践など、社会科教育史における特徴的な授業記録を取り上げ、今日の公民教育授業を相対化する目を育てる。	
	公民教育演習Ⅰ	公民教育実践に関する先行実践を分析しながら、1時間に一つの教材を開発する。履修者はグループで一つのテーマを与えられ、関連する単元開発（特に中学校社会科公民的分野）を行なってもらうことになる。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。	隔年
	公民教育演習Ⅱ	公民教育実践に関する先行実践を分析しながら、1時間に一つの教材を開発する。履修者はグループで一つのテーマを与えられ、関連する単元開発（特に高等学校公民科）を行なってもらうことになる。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。	隔年
	公民教育演習Ⅲ	公民教育実践に関する単元構想を行い、実際に模擬授業或いは実験授業を実施して、授業を振り返って、授業評価を行う。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。履修者はそのほとんどが現職教員であるため、自身の授業を振り返りながら単元開発を行う。	
	人文地理学特講Ⅰ	農業地理学についての研究成果を講義するとともに、農業地理の研究の動向や課題について講義する。さらに、農業地理だけでなく、他の地理学でも採用されるGISについて講義するとともに、地理学における方法論としてGISについて考察を加える。こうして、GISを採用した農業地理学の最新の研究動向を概観する。農業地理は地理学の中でも伝統のある研究分野であることから、これにより地理学のもともとの研究意義を考えることができる。	隔年
	人文地理学特講Ⅱ	交通地理学および教育地理学について講義する。交通地理学は、大きくは経済地理に含まれるが、研究内容によっては文化地理に含まれることもあり、極めて多様性のある研究分野である。交通地理学の研究系譜をおうことで地理学全体の研究動向もみえてくる。教育地理学については、教育現象を地理学的に見ることで、教育活動を通して地理学は何を追究する学問かが見えてくる。地理学と教育との関連性を追究し、地理が実用性のある学問であることを認識することができる。	隔年
	人文地理学演習Ⅰ	農業・食料の地理学を中心とする講義と討論を行う。具体的には、農業・食料を、自然条件としての気候、土壌及び地形の観点、経済条件としての需要と消費の観点、社会・政治としての農業の近代化と国家、市場と交通、人口・労働力・土地所有の観点からそれぞれ探究する。その上で、農業・食料における革新、農業・食料の文化的枠組み、農業・食料と環境について、深く協議することを主たる内容とする。このような追究を通して、現代の日本及び世界情勢の理解における地理学の方法の重要性について理解を深めることになる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人文地理学演習Ⅱ	交通地理学や教育学地理学の論文を読み、研究の仕方について学ぶ。また、自分で論文発表をし、理論的な論文に基づき、自ら教材を構築する力を養わせる。また、具体的な対象地域を選び、地域性を背景とした交通や教育についての考察を行う。これにより、地理学の研究が地域性を背景として考察していることを見だし、地理学研究の意義や必要性について議論し、人文地理学についての洞察を深めさせるようにする。それとともに地誌学の重要性も認識することができる。	隔年
	自然地理学特講Ⅰ	地名の謎解きを行う際に自然地理的な知識が役に立つことを示したうえで、気候・地形・水文・土壌・植生の地理学的な見方を教授する。しかるのち、多角的な視点で自然地理学的素材に関する課題追究を行う。最後に、新たな謎解きを模索することで自然地理学的なパースペクティブを総括する。本授業では、自然地理学を構成する諸分野の基礎をテーマとし、自然環境のしくみに関する正しい理解を培うことを到達目標としているが、本授業のように例えば地名に注目することは、地理教育の教材研究としても役立つ視点であると考えている。	隔年
	自然地理学特講Ⅱ	自然地理学の意義を問うたうえで、社会的問題として重要性の高い5つのトピックスについて概説する。さらに、3つのテーマに沿って課題追究を行い、思考を深める。総括として、環境との共生に向けた議論を通じて理解の統合化を図る。本授業では、自然地理学に関連する話題性の高いトピックスをテーマとし、机上の知識を今日的な課題に応用する力を養うとともに、分野横断的な理解を通じて人間社会の望ましい在り方を考察できるようになることを到達目標としているが、先の5つのトピックスや3つのテーマは、地理教育の教材研究としても役立つ視点であると考えている。	隔年
	自然地理学演習Ⅰ	自然景観を読み取る能力について問題提起したうえで、つくば市を対象とした基礎的な読図・図上作業について演習を行う。また、一般的な調査手順や報告書の作成に関して概説し、実際に身近な地域の野外調査を体験する。野外調査にあたっては、等高線抜描図・水系網、土地利用図・新旧地形図比、地形発達史・ハザードマップ、風景面シミュレーションの観点を大切にして準備を進め、実際の調査では、簡易測量、景観観察、水質調査を中心に進める。	隔年
	自然地理学演習Ⅱ	授業におけるフィールドワークの重要性と課題について問題提起したうえで、養老山地を対象とした基礎的な読図・図上作業について演習を行う。また、ダイナミックな地理的事象が見られる典型的な地域において、野外調査を体験する。野外調査にあたっては、地形区分、地形断面図・立体図、水系網・接峰面図、風景面シミュレーションを大切にして準備を進め、実際の調査では、火山地域の景観観察、湿原の観察、湖水の化学的調査、湖底湧水調を中心に進める。	隔年
	地理学野外実験	調査対象地域を選定して、自然地理および人文地理の野外調査を実施する。これにより対象地域の理解を深めるとともに地域の課題を見だし、改善策を考察できるようにする。さらには、地域調査の方法を学ぶ。具体的な調査は、グループごとに調査計画を立案する。次に各グループのテーマに沿って予備調査・本調査・補足調査等を行い、調査結果についてグループ内外でディスカッションを行う。得られた成果は、最終的に冊子体の報告書として刊行する。	
	日本史特講Ⅰ	東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、フィールドワークもと取り入れながら講じる。具体的には、東京裁判、植民地支配、靖国神社公式参拝、歴史教科書問題、領土問題、戦争賠償、原爆投下問題について取り上げる。その上で、茨城県内の戦争遺跡、東京大空襲・戦災資料センターを調査する。これらの授業を通して、最終的には、歴史教育教材を開発する能力を高めることを目的とする。	隔年
	日本史特講Ⅱ	東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、フィールドワークもと取り入れながら講じる。具体的には、日米終戦、昭和天皇戦争責任、強制連行・強制労働、BC級戦犯裁判、シベリア抑留問題、日朝歴史問題、復員・引き揚げ、戦没者追悼・慰霊について取り上げる。その上で、国立歴史民俗博物館を調査する。これらの授業を通して、最終的には、歴史教育教材を開発する能力を高めることを目的とする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本史演習Ⅰ	東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、各自の問題意識にもとづき報告する。具体的には、東京裁判、植民地支配、靖国神社公式参拝、歴史教科書問題、領土問題、戦争賠償、原爆投下問題、「大東亜戦争」史観について取り上げる。その上で、最終的には、歴史問題の解決に向けての協議を行い、いまだに解決しない様々の「歴史問題」について、戦争責任と戦後責任の視点から問い直す作業を通じて、解決への道筋を考察する。	隔年
	日本史演習Ⅱ	東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、各自の問題意識にもとづき報告する。具体的には、日米終戦、昭和天皇の戦争責任、強制連行・強制労働、BC級戦犯裁判、シベリア抑留問題、日朝歴史問題、復員・引き揚げ、戦没者追悼・慰霊について取り上げる。その上で、最終的には、アジアの歴史和解に関する協議を行い、いまだに解決しない様々の「歴史問題」について、戦争責任と戦後責任の視点から問い直す作業を通じて、解決への道筋を考察する。	隔年
	民俗学実習	インタビュー調査並びに実地調査を通して、歴史教育における教材研究の在り方を検討するとともに、歴史教育についての理解を深める。具体的には、日本社会の民俗を改めて捉えなおすことを目的とし、長野県の集落を巡り、インタビュー調査並びに実地調査を行い、歴史教育に関する知識と技能を身に付けることができるように授業を計画する。実習の事前学習として、訪問予定の遺跡、博物館、考古学的な成果についてそれぞれまとめて発表をしてから現地の巡検の基礎とする。また、実際の巡検では、グループ毎に調査するとともに、グループディスカッションを通して、各グループの調査内容を共有する。	
	考古学特講Ⅰ	「ヒト・モノ」を視点として歴史教育の在り方を探る。それぞれのナショナルアイデンティティを形成する歴史教育はどのようなものであったのか、主に先史から古代までを人類学的な視点から扱い、現代までつながる人類の歴史や多様性について考察する。また、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深める。具体的には、中学・高校歴史教科書に見られる先史時代・古代の扱い、考古学の歴史教育における役割、人類学視点からみる先史時代からの東アジア、北東アジアにおける交易システムと中世に触れる。	隔年
	考古学特講Ⅱ	「ヒト・モノ」を視点として歴史教育の在り方を探る。それぞれのナショナルアイデンティティを形成する歴史教育はどのようなものであったのか、主に先史から古代までを人類学的な視点から扱い、現代までつながる人類の歴史や多様性について考察する。また、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深める。具体的には、人類学・考古学的な成果による日本人、日本列島における政治中心と縁辺部の歴史観、民族誌にみる北方文化と日本、物質文化と歴史教育、時代のイメージと理解に触れる。	隔年
	考古学演習Ⅰ	モノ資料に着目し、先史時代の日本列島および周辺地域を俯瞰的に概観し、歴史教育の中で人類学的視点がどのように利用可能か考える。具体的には、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深めることになる。歴史を教える立場として、まず、自分がどこから来たのか、何者であるのかを、歴史教育の視点から位置づけることを目標とする。それは、人類の系譜、先史時代の物質文化、気候変動と新石器化など俯瞰的な視点から、先史～古代に関する出来事を理解することにつながる。	隔年
	考古学演習Ⅱ	人類が発祥してから、拡散、分化や接触、そしてグローバルな統合へと向かうプロセスを俯瞰する視点から書かれた参考図書を利用し、人類学的な視点から、われわれはどこから来てどこに向かっているのか考察する。具体的には、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深めることになる。歴史を教える立場として、まず、自分がどこから来たのか、何者であるのかを、歴史教育の視点から位置づけることを目標とする。それは、人類の系譜、先史時代の物質文化、気候変動と新石器化など俯瞰的な視点から、先史～古代に関する出来事を理解することにつながる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	考古学実習	考古遺跡や博物館を利用して物質資料を用いた歴史教育について理解を深める。本授業では、北東アジア、東アジアの古代史観を改めて捉えなおすことを目的とし、東北(青森、岩手周辺)あるいは中部高地(山梨、長野)の縄文時代を中心とする遺跡を巡り、遺跡の景観、立地、周辺環境を体感するとともに、遠隔地との交流を示す出土資料を見学する。モノ資料による歴史教育の体感と、歴史教科書に載せられていないような、広域の文化交流や物質移動の側面についても理解を深める。	隔年
	社会学特講 I	社会学理論と実証的研究の検討をつうじて、社会学の主たる理論・概念および視角・方法を習得し、現代社会の諸問題について理解する。具体的には、以下のテーマを取り扱う。つまり、社会学の誕生・発展・転回、リスク社会、情報・メディア社会、個人化と心理化、グローバリゼーション、再帰的近代化、ポストモダニズム、親密圏と公共圏である。導入教材として、日本社会学会理論応用事典刊行委員会『社会学理論応用事典』(丸善出版、2017年)と日本社会学会社会学事典刊行委員会『社会学事典』(丸善出版、2010年)を活用するが、授業ではそれぞれ関連する基本文献を提示する。	隔年
	社会学特講 II	社会学理論と実証的研究の検討をつうじて、社会学の主たる理論・概念および視角・方法を習得し、現代社会の諸問題について理解する。具体的には、以下のテーマを取り扱う。つまり、社会学の見方、福祉レジーム、社会的包摂と社会的排除、持続可能社会、社会関係資本、監視社会と生権力、サイバーカルチャーである。導入教材として、日本社会学会理論応用事典刊行委員会『社会学理論応用事典』(丸善出版、2017年)と日本社会学会社会学事典刊行委員会『社会学事典』(丸善出版、2010年)を活用するが、授業ではそれぞれ関連する基本文献を提示する。	隔年
	社会学演習 I	社会学のすぐれた実証研究の文献会読をつうじて、社会学の視角と主たる概念を用いて、種々の社会現象を読み解けるようになる。取り上げる社会現象は、行為・相互行為・意味、自己・主体・アイデンティティ、他者・関係・コミュニケーション、生命・身体、ジェンダー・セクシュアリティ、家族・ライフコース・教育、差別・逸脱・犯罪、知・言語、歴史・記憶、社会運動・社会構想である。授業では、社会学の議論が中心となるが、いずれの視点も公民教育の教材化にとって重要な視点であるので、本授業において履修者は授業づくりの能力を高めることができる。	隔年
	社会学演習 II	社会学のすぐれた実証研究の文献会読をつうじて、社会学の視角と主たる概念を用いて、種々の社会現象を読み解けるようになる。取り上げる社会現象は、近代・社会変動・社会システム、宗教、権力・支配、法・政治、集団・組織、労働・産業・市場、階級・階層、表象・文化・消費、医療・福祉、科学・技術・環境・災害である。授業では、社会学の議論が中心となるが、いずれの視点も公民教育の教材化にとって重要な視点であるので、本授業において履修者は授業づくりの能力を高めることができる。	隔年
	政治学特講 I	2～3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での選挙に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、選挙に関して高等学校政治・経済で取り上げるべきテーマを設定し、政治学における議論をフォローしながら探求するとともに、選挙に関わる諸現象を政治学的な視点を用いて理解することができるようになることを目的としている。	隔年
	政治学特講 II	政治学特講 I で行った教材研究をもとに、主として高等学校政治・経済での選挙に関する授業を開発し、模擬授業を行う。なお、本授業では、政治学の学術的成果を踏まえて、選挙に関する授業を開発することができるとともに、開発した授業を実践し、その意義と限界、発展可能性について考察することができるようになることを目的としている。そのため、模擬授業に際しては、有権者の政治意識、選挙制度、選挙運動、投票行動が主たる教育内容として取り上げる。	隔年
	政治学演習 I	2～3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での政策決定の制度や過程に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、政策決定の制度や過程に関して高等学校政治・経済で取り上げるべきテーマを設定し、政治学における議論をフォローしながら探求することができるとともに、策決定に関わる諸現象を政治学的な視点を用いて理解することができるようになることを目的としている。	隔年